第５期(2016-2017) 活動経過報告

第６期(2018) 運動方針

メンバー全員で直接対話を実践し、変革に向けて挑戦しよう

～1 人ひとりの想いを組織の活力へと繋げるために、直接対話をはじめとした活動に取組む 1 年間～

三越伊勢丹グループ労働組合 定期本部大会議案書(案)

2018 年 10 月 4 日

三越伊勢丹グループ労働組合
Isetan Mitsukoshi Group Labor Union

■三越伊勢丹グループ労働組合ホームページ
http://www.imgu.or.jp/
ユーザー名：@imgu パスワード：imgu2010
(全て半角小文字)

■三越伊勢丹グループ労働組合 Facebook

■三越伊勢丹グループ労働組合 LINE@

第６期（2018 年度）定期本部大会 議案書（案） 目次

１．議事日程 …… 1

２．第５期 経過報告

本部 …… 3
三越伊勢丹支部 …… 5
北海道統括支部 …… 6
仙台三越支部 …… 7
新潟三越伊勢丹支部 …… 8
静岡伊勢丹支部 …… 9
名古屋三越支部 ……10
広島三越支部 ……11
高松三越支部 ……12
松山三越支部 ……13
岩田屋三越支部 ……14
エムアイフードスタイル支部 ……15
エムアイカード支部 ……16
関連グループ統括支部Ⅰ ……17
関連グループ統括支部Ⅱ ……18
関連グループ統括支部Ⅲ ……19
関連グループ統括支部Ⅳ ……20

３．第５期（2017 年度） 決算報告・剰余金処分(案) ……21

４．第６期 運動方針(案)

本部 ……38
三越伊勢丹支部 ……42
北海道統括支部 ……43
仙台三越支部 ……44
新潟三越伊勢丹支部 ……45
静岡伊勢丹支部 ……46
名古屋三越支部 ……47
広島三越支部 ……48
高松三越支部 ……49
松山三越支部 ……50
岩田屋三越支部 ……51
エムアイフードスタイル支部 ……52
エムアイカード支部 ……53
ソシエ・ワールド支部 ……54
関連グループ統括支部Ⅰ ……55
関連グループ統括支部Ⅱ ……56
関連グループ統括支部Ⅲ ……57
関連グループ統括支部Ⅳ ……58

５．第６期（2018 年度）会計予算(案) ……59

第６期（2018 年度）定期本部大会　議事日程

１．開会宣言

２．議長団選出･登壇

３．書記任命

４．議事運営委員選出

５．成立確認･資格審査報告

６．議事日程発表･承認

７．議事開始宣言

８．提案

第１号議案「監査報告の件」

第２号議案「第５期（2016･2017 年度）　活動経過報告に関する件」

第３号議案「2017 年度　決算報告および剰余金処分（案）に関する件」

第４号議案「第６期（2018 年度）運動方針（案）に関する件」

第５号議案「2018 年度　予算（案）に関する件」

第６号議案「組合規約の改訂（案）および組合規約改訂の承認に関する件」

第７号議案「本部評議員の互選に関する件」

第８号議案「選挙管理委員の指名に関する件」

９．質疑応答

10．修正提案･質疑応答

11．採決

12．議事終了宣言･議長団降壇

13．本部執行委員長挨拶

14．閉会宣言

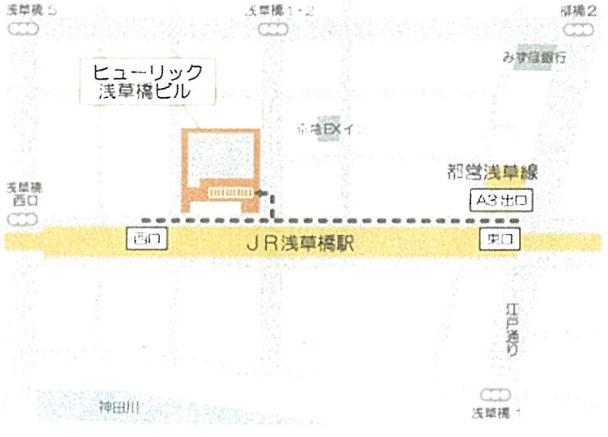
2018 年度　定期本部大会　開催要項

○日時：2018 年 10 月 4 日(木)11：00～(10：30 受付開始)

○場所：ヒューリックホール

東京都台東区浅草橋 1 丁目 22-16 ヒューリック浅草橋ビル 2F

○出席者：第５期本部役員･本部大会代議員･オブザーバー



第５期(2016-2017)

活動経過報告

本部 第5期(2016・2017年度) 活動経過報告

テーマ	共に働く仲間同士の絆を深め、多様性を組織の活力へと繋げよう ～「一人ひとりの笑顔があふれる職場づくり」に取組む2年間～

第 5 期は、メンバーの多様性における変化を踏まえ、「多様性を組織の活力へと繋げる」べく、「コミュニケーションを中心とした職場環境の整備」をはじめとした様々な活動を進めてきました。

一方で、2 年間を通じて、経営上グループ全体に大きな影響を与えるトピックスが生じました

＜第 5 期における主なトピックス＞

- **三越千葉店、三越多摩センター店、伊勢丹松戸店をはじめとした店舗事業の営業終了**
- **T's トレーディング、マミーナの会社清算、IMFS の株式譲渡、IMDS 事業終了など関連事業の構造改革**
- **ソシエ・ワールド、ニッコウトラベル等新会社発足**
- **経営体制の変更と、新たな企業理念「私たちの考え方」、経営方針「デジタルトランスフォーメーション」の策定**

このように、私たちを取り巻く環境が従来以上にスピーディに変化していく状況を踏まえ、特に後半年度は

①新経営体制との労使関係や労使の取組みにおけるスキーム構築

②ソシエ・ワールド、ニッコウトラベルにおける組合員化

③育児介護以外の分野における多様化への対応

④メンバー接点のさらなる充実化に向けた広報機能の強化

⑤本支部連携強化に向けた執行部全体のコミュニケーション活性化

を重点活動として位置づけ、活動に取組んできました。

【後半年度における重点活動振返り】

①新経営体制との労使関係や労使の取組みにおけるスキーム構築

■新経営体制との労使関係構築

・本部-HDS 間での対話の機会として労使ステアリングコミッティを 2017 年度よりスタートし、様々な意見交換を行ってきました。

・地域支部においては、執行部と杉江さんとの直接対話を実施した一方、支部労使のスキーム構築には一部課題を残しました。

■ハラスメント撲滅に向けた取組み強化

・ハラスメントポスターの掲示による啓発を強化し、相談・通報しやすい環境整備に取組みました。

・各社における相談・通報以降のフローと労使での取組みスキームを整備することで、グループ内の対応の平準化を図りました。

②ソシエ・ワールド、ニッコウトラベルにおける組合員化

・2018 年 4 月の組合員化に向けて、全事業所において計 2 回の説明会を実施しました。

③育児介護以外の分野における多様化への対応

・本部内で、LGBT の考え方の共有化や、障がい者雇用に関する今後の活動について議論を行いました。

④メンバー接点のさらなる充実化に向けた広報機能の強化

・活動の告知や周知に LINE@やデジタルサイネージを活用し、デジタルツールを起点に活動を周知する基盤を整備しました。

⑤本支部連携強化に向けた執行部全体のコミュニケーション活性化

・本部評議員会等での執行部間の議論を行うに留まり、本部と各支部執行部のコミュニケーションには課題を残しました。

【IMGU 中期ビジョンの取扱いについて】

・第 5 期の運動方針における「新たな中期ビジョン策定」の確認を踏まえ、新中期ビジョンの策定について検討を進めてきました。その結果、現在の「わたしたちを取り巻く環境の変化における中期計画の実効性」の観点から、新たな中期ビジョンは策定せず、当面は基本理念を基に単年度の運動方針の中で計画を策定していくこととします。

○労働福祉活動

■働く環境の整備

・全支部で長時間労働削減とハラスメント撲滅に向け通年協議で取組みました。

・風土改革に関して、意識調査を実施し、各支部の課題把握に取組みました。

■人事制度改革に向けた取組み

・長期的にモチベーション高く働ける制度として、役割成果主義の新体系導入に向けて協議を行いました。

■評価制度の適正運用に向けた取組み

・従業員意識調査を行い、今後の打ち手に向けた課題の把握に取組みました。

■本支部連携強化

・2018 春の交渉では、全支部でのベースアップに向けて本支部で議論し、実施に向けて取組みました。

○経営対策活動

■経営とメンバーをつなぐパイプ機能の実践

・全支部の VOICE の状況を本部で集約し、経営懇話会で経営と共有しました。

■執行部の経営対策に関するスキルアップ

・ユニオンスクールで、財務分析等に関する勉強会を定期的に開催しました。

○ダイバーシティ推進

■育児サポート

・各支部でのワーキングファミリーVOICE の定着に向けたサポートを行いました。

■介護サポート

・介護に関する情報提供の一環としてユニオンプランでカリキュラム化を行いました。

○教育サポート活動

■流通視察セミナーの開催

・岡山の商況視察セミナーを行い、30 名が参加しました。

○USR 活動

■2018 年 7 月西日本豪雨災害への対応

・全支部で緊急募金を実施し、2,098,404 円の寄付を頂きました。

○レクリエーション活動

■IMGU フェスティバルの企画と実施

・各職場のコミュニケーションの促進を目的に IMGU フェスティバルを開催し、全国で 649 名が参加しました(2018 年 8 月末時点)。

○広報活動

■HP の充実化に向けた検討

・9 月より HP を改修し、メンバーの利便性向上に繋げました。

○組織運営

■相談窓口機能の強化

・組合内対応フローを整備(本部への情報一元化)することで、各支部の対応の平準化を図りました。

■VOICE 活動

・各支部の VOICE の取組みの事例共有化を行うことで、各支部の取組みの工夫に繋げました。(2018 年 2 月 VOICE 全支部計 13,852 名 70.1%)

■政治活動

・政策実現にむけた取組みの一環として、悪質クレーム署名に取組み、20,664 名から協力を頂くことができました。

■人財育成の取組み

・本部内で、ユニオンセミナー(執行部勉強会)とユニオンスクール(専従役員勉強会)の定期開催を行いましたが、各支部での体系化には課題を残しました。



ハラスメントポスター第 2 段

<意識調査回答結果>

16,769 件(約 69.9%)

<2017 年度ユニオンプラン>

・ミドルライフサポート：239 名

・シニアライフサポート：232 名

<USR 活動実績>

・石巻ボランティア：79 名
(2017 秋 40 名、2018 春 39 名)

・エコキャップ回収数：1,186,323 個

・2017 中古衣料回収：2,538 枚

・広島折鶴献納：45,928 羽

<広報活動実績>

・組合 HP アクセス数：74,895 件

・LINE@友だち数：3,365 名
(2018 年 7 月末時点)

・IMGU メッセージ
Vol.24：スポーツと健康
Vol.25：No!ハラスメント
Vol.26：三越伊勢丹グループの新しい仲間

<ユニオンセミナー講師>

・2017 年 10 月
谷 真海氏(パラリンピアン)
松田 公太氏(前参議院議員)
鳩山 玲人氏(元サンリオ常務取締役)

・2018 年 5 月
宗次 徳二氏(CoCo 壱番屋創業者)
中畑 清氏(野球解説者・評論家)
三原 じゅん子氏(参議院議員)

三越伊勢丹支部 第５期(2016・2017 年度) 活動経過報告

テーマ

一人ひとりの「ちがい」を「ちから」に

～お互いの良さを認め合って、イキイキとした職場を実現しよう～

第５期は様々な背景を持つ仲間がイキイキ働くことができる職場環境の実現をテーマにスタートました。一方店舗の営業終了、経営体制の変化など、経営対策活動の重要度が高まり、労務面への対応や意識調査の実施などの取組みを強化してきました。

○VOICE 活動

・メンバーズ VOICE は兼任役員と連携し約７割の参加を実現し、メンバーの意見を労使協議や職場の課題解決に活かしました。テーマ別 VOICE は「共通テーマ」では、メンバーの意見を労使協議に反映しましたが、「分会 固有のテーマ」では分会間で開催に差が生じました。

・広く従業員の課題を把握するため、意識調査を実施し、労使の取組みに反映しました。



メンバーズ VOICE

○労働福祉活動

■人に関わる諸制度の整備

・抜本的な人事制度の見直しとして、「公平・公正」「チャレンジする風土」「中長期のやりがい・働きがい」「一定の安心感」をキーワードに社員ステージ B の人事制度改定に、VOICE 活動や広報活動と連携し理解度や納得度を高めつつ取り組みました。法改正にともない、フェロー社員・スペシャリティスタッフの無期雇用化とストック有給休暇制度や育児介護関連制度を導入しました。



松戸店情報交換会

■働く環境の整備

・入退館や PC 使用時間などシステムによる時間管理や、全社や各分会単位での情報発信を通じ意識改革に取り組みました。業務改善では社内電話帳整備などの成果もありましたが、本質的な取組みには課題が残りました。労働時間では総実労働時間の短縮が来期の課題です。

・ハラスメント対策は、ポスター掲示等により相談件数の増加につなげました。今後はハラスメントが発生しない風土づくりが課題です。



フレッシュプラン

○経営対策活動

・経営体制の変化を受けて支部・分会労使間のコミュニケーション機会を拡充しました。

・店舗の構造改革に際して、労使間での情報交換を密におこないました。VOICE や他店舗との情報交換会を通じメンバーの不安の緩和や、営業終了にむけた職場の課題に取り組みました。

○教育活動

・支部としてフレッシュプランやセカンドプランを企画・運営しました。メンバーがより前向きに仕事や生活に取り組むため、『キャリア・マネー・健康』をテーマに新たなカリキュラムの導入や、運営方法の見直しを図りました。来期にむけては「研修受講後のフォローの仕組み作り」や「セカンドプランのあり方」について検討します。



ワーキングファミリーVOICE

○ダイバーシティ推進

・育児サポート活動では VOICE 等での意見を活かし、「段階的なフルタイム復帰」にむけた制度改定しました。また、復職に向けた家族とのコミュニケーションをテーマに「育児休職者ランチミーティング」や、労使による「フルタイム復帰者ランチミーティング」を開催しました。

・介護サポート活動として「介護サポート百科」をメンバーズ VOICE 等で周知しました。



VOICE times

○レクリエーション活動

・前半年度にはサマースポーツフェスティバルの企画・運営に携わりました。後半年度に開催した IMGU フェスティバルでは、メンバーの動員という点で課題が残りました。

○広報活動

・広報誌 VOICE times は 13-18 号を発刊し、読みやすさを重視しメンバーに身近なテーマ設定や紙面を見直しました。分会広報のサポートは、一部の分会での広報誌の発刊にとどまりました。

・支部ブログは計画性を高めることで、平均４回／月の更新を実施しました。

○USR 活動

・本部や支部広報担当と連携しタイムリーな告知や報告をおこないました。また、メンバーの参加し易さを考慮し、自然環境保全の観点での干潟清掃や、メンバー発案の動物ボランティアの啓発セミナーを開催しました。来期にむけて活動の認知度向上とメンバーの参加し易い環境を目指します。



干潟清掃

北海道統括支部 第５期(2016･2017 年度) 活動経過報告

テーマ	札幌丸井三越・函館丸井今井・北海道百科で働くメンバー 一人ひとりの「誇り」を確固たるものに！

「北海道統括支部」として新たな体制でスタートした第５期は、札幌丸井三越、函館丸井今井、北海道百科、各社の目指す姿を実現し、メンバーが働くことに対する「誇り」を確固たるものすることを目的に、処遇の改善、安心して働くことができる環境の実現、コミュニケーションの促進による一体感の醸成に向けた活動を推進してきました。

○労働福祉・経営対策活動

■労使通年協議による人事賃金制度改定

・札幌丸井三越では、「道内 No.１・グループ No.１の魅力ある企業」を目指し、賃金水準の底上げや、契約社員の無期雇用化、育児勤務期間の延長、年間所定労働時間の短縮を行いました。

・函館丸井今井では、「メンバー一人ひとりが未来へ向かい誇りをもって働くことができる環境の実現」をテーマに、メイトスタッフ・アシストスタッフの賃金上限の引上げや、契約社員無期雇用化を行いました。

・北海道百科では、「優秀な人財確保」「メンバーの成長とモチベーションの向上に繋がる人事施策の進化」をテーマに、メイトスタッフの採用賃金改定や、2019 年４月の新卒採用に向けてステージ C-t 区分の新設を行いました。

○ＵＳＲ活動

■東日本大震災支援活動

・札幌、函館両地域にてチャリティーバザーを開催し、売上・募金額 10 万円を「福島の子どもたちを守る会・北海道」に寄贈しました。

■支援団体との交流

・札幌での「羊ヶ丘養護園」の子どもたちとのクリスマスパーティーの開催や、函館での「さゆり園」へクリスマスプレゼントを寄贈といった継続的な交流を行いました。

○ＶＯＩＣＥ活動

■メンバーズ VOICE・テーマ別 VOICE

・雇用形態ごとのテーマ別 VOICE などを開催し、参加率向上と意見交換を図りました。

○教育サポート活動

■キャリアセミナー

・札幌で開催したクリエイティブオフィスキュー代表取締役社長伊藤亜由美氏による「プロデュース力」をテーマとしたセミナーでは、過去最高の 51 名のメンバーが参加しました。

○育児・介護サポート活動

■ワーキングファミリーVOICE の開催

・札幌・函館両地域にてワーキングファミリーVOICE を開催し、育児に携わるメンバーとの情報共有と、対話を強化しました。

■介護セミナー、個別相談会開催・ユニオンプランでの介護教育カリキュラム化

・介護セミナーや、個別相談会を開催するとともに、ユニオンプランでは支部独自で介護についての教育を行いました。

○レクリエーションサポート活動

■団結会

・コミュニケーションの促進を目的に各支部、分会、各地域にて団結会を開催しました。

・丸井今井創業 145 周年・札幌三越開店 85 周年を記念して開催した「マルミツ納涼の会」では 900 名を超えるメンバーが参加しました。

○広報活動

■広報誌・デジタルサイネージの活用

・統括支部としての広報誌を発刊。デジタルサイネージによる情報発信もスタートしました。











仙台三越支部 第5期(2016・2017年度) 活動経過報告

テーマ **モチベーションを高め、働くを愉しもう！**

・仙台三越では「モチベーションを高め、働くを愉しもう！」を活動方針に掲げ、各種活動を推進してきました。業界動向、仙台商圏環境もめまぐるしく変化をしている中、我々が置かれている状況を一人ひとりが正しく理解し、モチベーションを維持しながら、やりがいを持って働くことができるよう、VOICE活動や各種活動・環境整備を、組合執行部を中心に推進してきました。

○VOICE活動

■メンバーズVOICE・テーマ別VOICEの開催

・現場の現状と課題の把握や、仙台三越が置かれている状況や制度改定の内容周知

・各雇用形態に対して、労使通年協議項目の内容周知とメンバーの意見集約

・育児休職者の復職へ向けてのサポートと育児勤務者へ現場の実態意見集約

○労働福祉活動

■労使通年協議の推進

・雇用形態別の制度の見直し
(社員ステージC統合、再雇用・育児勤務制度拡充、シニアプロスタッフの新設)

・全雇用形態の無期雇用化

・ベースアップ：2018年4月～（月給者2,000円・時給者10円）

・労働時間管理設定の変更（自動時間外計上時間就業前後15分）

■働く環境の整備

・安全衛生委員会、安全衛生意巡回、キザエモン委員会の実施。労働時間管理のチェックと現場の実態把握

・時間管理の制度変更　自動時間外計上時間の短縮・年間休日数2日間増

■ハラスメントへの対応

・ハラスメント防止に向け、労使でハラスメント防止対策委員会開催

○経営対策活動

・経営懇話会の開催　年度計画に対する進捗、業績の確認。メンバーの声の提言

○教育サポート活動(2017年度)

■ワーク・ライフ両面で役立つユニオンプラン・セミナーの開催

・セカンドプラン…新潟三越伊勢丹支部と合同開催(6名)

・フレッシュプラン…新潟三越伊勢丹支部・静岡伊勢丹支部と合同開催(11名)

・支部独自セミナー：ライザップセミナー(45名)　マネープランセミナー(18名)

○USR活動(2016・2017年度)

■地域・社会への貢献とメンバー間の接点創出

・クリーン作戦(のべ149名※2017年度)、エコキャップ回収(のべ160,950個)、3.11復興支援活動:山元町GRA視察(14名)・石巻白謙工場視察(10名)
愛の募金(252,573円)

○レクリエーション活動(2016・2017年度)

■部門を越えたメンバー間のコミュニケーション醸成活動の実施

・ボウリング大会(のべ192名)、団結会(のべ302名)、陶芸教室(のべ85名)

○広報活動(2016・2017年度)

■組合活動や制度に対する周知徹底とコミュニケーションツールとして情報発信

・広報紙「IMGU　NEWS」の発刊(21部発刊)
※2018年5月～広報紙のブログによるデジタル配信化

・ブログの更新(105回更新)

・マイメモの発刊　期初の5月に発刊。期中は修正箇所のみの配信へ変更。


労使協議会


メンバーズVOICE


仙台・新潟・静岡合同フレッシュプラン


ライザップセミナー


陶芸教室


クリーン作戦


3.11復興支援活動

新潟三越伊勢丹支部 第5期(2016・2017年度) 活動経過報告

テーマ	環境の変化に対応し、仲間とともに自ら変わり、発展する組織へ

後半年度は、2017 年 3 月より国をあげて取り組む『働き方改革』に向け、新潟三越伊勢丹として①「組織トップダウンによる業務改革の推進」とともに、②「メンバー一人ひとりの意識改革と自発的な取り組み」に注力しました。そのために、より広範囲に、頻度を高め、メンバーの声に向き合う機会を増やしました。現場の課題を執行部で共有し、解決・改善に向け組合役員とメンバーが一体となって活動を推進してきました。

○労働福祉活動

■労使専門委員会での通年協議の実施

・「フェロー社員、スペシャリティスタッフの無期雇用化に伴う制度整備」「社員・メイト社員・フェロー社員の採用賃金の引上げ」「社員ステージ C の役割成果給表の見直し」「育児勤務一時延長制度の導入」について、春の交渉で労使合意しました。

■働く環境の整備

・ハラスメント防止委員会を定期実施し、実態把握と相談フローを確立。ハラスメントのない職場環境の整備を推進しました。

○経営対策活動

■正確な経営状況把握のための支部役員のスキルアップ

・「代議員ボイス」を新たに実施。執行部だけでなく、組合役員全体のさらなる知識向上を図り、正確な経営状況の把握と、メンバーサポートの両面を強化しました。

○育児サポート活動

■高いパフォーマンスを発揮できる職場環境の整備

・ワーキングファミリーボイスの参加対象を「マネジメント層やパパ」へ拡大し、継続開催しました。（後半年度 3 回実施）

ワーキングファミリーVOICE参加者	89名（総数）	マネジメント層・パパ参加者	9名

○USR 活動

■新たな支部独自活動の実施

・「不要になった絵本の回収」を新規 USR 活動として取り組み、新潟市こども創造センターへ集まった絵本の寄付を行いました。

○教育サポート活動

■新たな気づきや変化につながるセミナーの実施

・東京ディズニーリゾートで、最高ランクとなる「ディズニーアカデミーモチベーションスタイル」の体験学習を実施しました。

・新たに 41 歳の社員・メイト社員を対象とした組合教育「ミドルライフプラン」を実施しました。

・支部独自で「ステージ C-t・メイト社員（～5 年目）ボイス」を新規実施。若手社員のやりがい醸成、メンバー同士の交流強化を目的に、キャリアを育む機会を充実しました。

・ハラスメントの防止と怒りのメカニズムを学ぶことを目的に、「アンガーマネジメントセミナー」を三越・伊勢丹両店で開催しました。

ディズニーアカデミー参加者	28名	ミドルライフプラン参加者	対象者全員
C-t/メイト社員ボイス参加者	46名	アンガーマネジメントセミナー参加者	38名

○レクリエーション活動

■新たな支部独自活動の実施

・メンバーの参加しやすさに重点を置き、新規イベント「BBQ レク in ミズベリング」「老舗料亭大橋屋で学ぶホスピタリティとテーブルマナーセミナー」を実施しました。

BBQレクinミズベリング	71名	大橋屋ホスピタリティセミナー	67名
ゴルフコンペ	12名	ボジョレーヌーヴォーを楽しむ夕べ	32名



【18.03 不要になった絵本回収】



【17.09 ディズニーアカデミー】



【17.12 C-t/メイト社員クリスマスパーティ】



【18.03 アンガーマネジメントセミナー】



【17.09 BBQ レク in ミズベリング】



【18.07 大橋屋セミナー】

静岡伊勢丹支部 第５期(2016・2017 年度) 活動経過報告

テーマ

みんなが笑顔で働ける職場環境を目指そう

2017 年度は、静岡伊勢丹 40 周年を迎え、売上高 200 億円を目指して、全員で取り組んだ 1 年となりました。売上高 200 億円には残念ながら届きませんでしたが（定借部分を含めれば到達）、増収増益となりました。
第５期は、みんながワークライフバランスがとれた働き方ができ、笑顔で働けるようVOICEを中心に活動を行い、労使会議の場で共有してきました。

○VOICE 活動

重点的に行う活動領域として、対象者とテーマをしぼった VOICE を行ってきました。

・適正な時間管理と長時間労働抑制の視点で VOICE でのヒアリングを行いました。

・入社半年後、入社 2-5 年目、雇用転換者など対象を絞った VOICE を行い、活発な情報共有・意見交換の場となりました。

○労働福祉活動

・法改正に伴い、契約社員の無期雇用化について議論をし、2018 年度春の交渉において成案化しました。

・働く環境の整備について、VOICE で吸い上げたメンバーの声を参考に議論をし、社員とメイト社員の連休制度を拡充しました。

・時間管理とハラスメント防止については、労使で取り組みを行いました。

○経営対策活動

・エムアイプラザの閉店による労務対応に関しては、富士川・清水両店に何度も訪問し、メンバーの心境を丁寧に聞き、会社と協議を行いました。

・経営懇話会で得られる情報について、組合機関会議の場で共有しましたが、メンバーとの共有については通年協議報告の場でのみとなりました。

○USR 活動

・エコキャップ活動については後半年度に約 32,000 個、愛の募金活動では後半年度の冬夏合計で約 50,000 円のご協力と使用済みタオルや中古 CD などの支援もいただきました。また、平成 30 年 7 月豪雨災害に対する臨時募金も行い、こちらも約 50,000 円のご協力をいただきました。

・平和を祈る折り鶴活動については早めに告知を行い、休憩室などにも折り紙を置いてご協力をいただき、約 1,700 羽を広島に送ることができました。

○レクリエーション活動

過去からの企画とともに、少人数で行う体験教室型のレクリエーションに取り組みました。

・恒例のボウリング大会と団結会に加え、IMGU フェスティバルのボウリング大会とカラオケランキングバトルにもメンバーが参加し、コミュニケーションを図りました。

・初心者向けのヨガ体験教室を行い、好評を得ました。

○教育サポート活動

・セカンドプランについては、実施ができませんでした。本部と連携し、シニアライフサポートプランを引き続き、ミドルライフサポート研修を新たに実施しました。

・講演会については、前半年度に好評だった「ファイトネス」と、得意先セールスを対象にした「魔法のセールストーク」を実施しました。

○育児・介護サポート活動

・育児・介護については新たな活動は実施できませんでした。

○広報活動

・掲示板へのポスター掲示とともに、デジタルサイネージも定期的に更新しました。

・支部ブログは頻度多く更新しました。また、機会あるごとにアクセス方法を紹介しましたが、まだ認知度および訪問数は充分といえず、課題が残りました。



2－5 年目対象 VOICE



2018 春の交渉　支部大会



折り鶴作成



体験ヨガ教室



講演会「魔法のセールストーク」

名古屋三越支部 第5期(2016・2017年度) 活動経過報告

テーマ	一人ひとりの絆を深め、やりがいと魅力のある労働条件の向上と職場環境の構築

名古屋三越支部は、上記テーマを掲げて第5期の活動をスタートしました。想定以上に厳しい商環境でしたが、SAKAEファッションモール計画のリモデル完工を機に業績回復にむけ、メンバー同士の絆を深め、働くことにやりがいと魅力を感じメンバー一丸となって取り組めるよう、VOICE活動をベースに様々な活動を推進しました。

○ **労働福祉活動**

・ 厳しい商環境のなか、業績連動賞与の配分割合の引き上げや、メイト社員の確定拠出年金制度導入、全雇用区分のベースアップ実施など、各雇用区分において労働条件の維持・向上をはかりました。

・ 自動時間外計上時間の見直しや、年間休日数の増加など、働く環境の整備をおこないました。



支部大会

○ **経営対策活動**

・ メンバーの意見を反映した意見提言や、労働条件に係わる労使協議をおこなううえで必要となる業績の確認など、定期的に経営懇話会を開催し、課題解決に取り組みました。

○ **育児サポート活動**

・ 育児勤務者・育児休職者などを対象としたVOICE活動を、栄店・星ヶ丘店にて実施したことや、IMKIDS☆KINGDOMは、本部と連携し、多くのお子さんに参加していただきました。

ワーキングファミリーVOICE参加者	のべ93名	IMKIDS☆KINGDOM参加者	のべ68名



IMKIDS☆KINGDOM

○ **介護サポート活動**

・ 介護セミナーを、41歳を対象とした「ミドルライフサポート研修」に包含し実施しました。

○ **USR活動**

・ これまでおこなってきた諸活動を継続することにくわえ、新たな取り組みとしてフードドライブ活動を2017年度に2回実施しました。

愛の募金	236,347円	広島平和活動折り鶴	14,460羽
中古子ども服回収	381枚	エコキャップ回収	323,832個
ひばり荘人的支援活動参加者	のべ16名		



フードドライブ活動

○ **教育サポート活動**

・ ユニオンプランは新たに「ミドルライフサポート研修」を実施しました。また、労使共催セミナー、国内商況視察セミナーなどを実施し、メンバーの学びの機会を提供する取り組みを推進しました。

ミドルライフサポート研修参加者	17名	【労使共催】生産性向上セミナー参加者	30名
国内商況視察セミナー参加者	のべ31名	他支部合同ディズニーセミナー参加者	のべ31名



仙台商況視察セミナー

○ **レクリエーション活動**

・ 好評の店舗休業日のレクリエーションや労使共催の団結会、新たな取り組みとして終業後のレクリエーションを開催し、一体感醸成をはかりました。

店舗休業日BBQ：FES	のべ180名	栄・星ヶ丘団結会	のべ1,370名
名古屋三越ボウリング大会	のべ172名	パブリックビューイング	54名



パブリックビューイング

○ **広報活動**

・ コミュニケーション促進ツールとして広報誌「ボイスタ」を発刊し、コミュニケーション活性化をはかりました。

広島三越支部 第５期(2016・2017年度) 活動経過報告

テーマ

自らの底上げを通じ、新たな未来を勝ち取ろう

私たちを取り巻く厳しい環境は変わらないことが予想される中、地域に根ざした商売を将来に渡り行うために、中長期的視野に立ち、組合活動を発展させてきました。私たち一人ひとりが「なりたい自分」や「あるべき将来像」を描き、未来に向けた具体的なアクションを起こすことで、㈱広島三越をより活力・魅力のある会社にしていきたいと考えました。

そのために、「人財」に焦点を当て、メンバー一人ひとりが多様性を生かし、活躍できるステージを整えました。

○労働福祉・経営対策活動

■「ステージＣの統合」「契約社員の無期化」

・よりメリハリのある人事制度を構築していくことで、メンバー一人ひとりがモチベーションを高めることのできる仕組みを作りました。

■働く環境の整備

・メンバーの心身ともに健康な状態を目指し、適正な労働時間で業務ができるよう、「ＰＣ使用時間適正化システム」の導入後の運用状況を確認し、労使ともに時間管理風土の構築の土台を築きました。

■経営懇話会の継続実施

・本来の姿である、労使の対話の場を定期で設定することができ、店舗の将来について対話、協議することができました。



労使協議会

○育児・介護サポート活動

■テーマ別ＶＯＩＣＥの開催

・育児制度利用者へのテーマ別ＶＯＩＣＥを継続して実施することができました。制度利用者の声を集めるだけでなく、お買場のメンバーの声を共有することで、今後の制度改定に生かす、貴重な協議の場となりました。

一方、介護制度の利用者が少ないことから、介護に関する活動の未実施が反省です。



折り鶴作成

○ＶＯＩＣＥ活動

■メンバーズ VOICE

・分かり易い議案書の作成と参加しやすい環境を整えることでメンバーにとって意義のある VOICE の実施を目指しました。VOICE で集まった声を集約しフィードバックすることで、一人ひとりの考えや周りの見解をお互いに議論する風土ができつつあります。



３支部合同セカンドプラン

○USR 活動

■地域活動・平和活動・環境保護

・これまでの活動を継続することができ、メンバーから積極的な活動参画も見え始めました。

愛の募金・・54,000 円、折り鶴献納・・3,000 羽、エコキャップの寄贈・・1,900 個

○教育サポート、レクリエーション、広報活動

■「人財」という考えを大切にし、メンバー同士のつながりを促進

・ユニオンプランの継続実施、カープ観戦レクリエーション、支部広報誌の発刊でこれまでの活動を継続的に実施。ゾーンや雇用区分を超えたコミュニケーションが活性化されました。



カープ観戦レク

高松三越支部 第5期(2016・2017年度) 活動経過報告

テーマ	今を力に、次のステージへ～共に行動し、輝く未来へ繋げよう～

県内の小売業界では、スーパーといった小型店の出店が著しく、いかにお客様にとって近い(心理的・物理的)店舗になるかが重要な環境。高松三越は百貨店として、より進化・発展するため、一体感を高める取組みを行いました。メンバーとの接点を拡大することで活気あふれる店舗を目指し、活動してきました。

○労働福祉・経営対策活動
・各雇用形態において「人に関わる諸制度」など通年協議の内容について、課題解決に向けて労使間で議論をおこない 2016 年度・2017 年度ともに成案化に繋げました。(雇用期間の無期化・スタッフ社員へストック有休休暇制度の導入)
・2018 年度春の交渉では、全雇用形態においてベースアップを行いました。
・「働く環境の整備」として時間外計上基準の短縮やグループ内継続雇用制度を拡充しました。

○VOICE 活動
・メンバーズ VOICE は兼任役員を主体として行いました。出勤率の高い曜日をピックアップし、開催時間に選択肢を多くもたせることで、参加率 80%を超える実績となりました。
・サテライト全店舗に赴き、サテライト店舗メンバーの声を聴く活動を行いました。
サテライトの方を対象にした VOICE は訪問回数を増やすことで、出勤メンバー全員に内容を共有することができました。

○USR 活動
・愛の募金活動、東北復興ボランティア、エコキャップ活動などこれまで実施してきたことを継続して実施しました。広島の平和活動の折鶴は後半年度、より多くのメンバーにご協力いただくことができ、3,000 羽を献納しました。(2017 年度エコキャップ回収 45,365 個)
・支部支援団体である「児童養護施設 讃岐学園」には、これまで継続してきた物的支援(プリンター)に加え、施設で行なわれるバザーに参加したりし、支援団体との関係性をより強めました。
・IMKIDS☆KINGDOM の活動として「四国しまなみマリンキャンプ」「鬼が島宝探しラリー」「とことん川遊びキャンプ」「とことん川遊びキャンプ」を行いました。この企画は、松山三越支部と合同で行い、高松からは、計 26 名参加いだけました。

○教育サポート活動
・外部講師セミナーでは『健康促進』を目的にヘルスボディーアドバイザーの方をお招きし、実際に運動も交えながら受講していただきました。(参加者 13 名)
・IMGU ユニオンプランに基づき、フレッシュプランを全雇用形態で実施しました。新卒のフレッシュプランは毎年 1 回の開催、中途採用者のフレッシュプランは半期に 1 回開催しました。(フレッシュプラン参加者：計 24 名)
・入社 5 年目のメンバーを対象としたセカンドプランを広島・松山支部と合同で開催しました。(セカンドプラン参加者：計 27 名)

○レクリエーション活動・サポート活動
・店休日のバスツアーを半年に 1 度開催しました。(岡山・神戸・大阪)参加者計 198 名
・フットサル大会は、メンバーとの交流を深めるきっかけとなっています。参加者 30 名
・ボウリング大会は 9 月に開催予定、のど自慢大会は現在参加者 3 名の為、引き続き告知を行なっていきます。

○広報活動
・MS パスポートの発刊を継続して行いました。
・組合広報・ブログはコンスタントに発刊・更新ができず、課題を残しました。


メンバーズ VOICE


愛の募金活動


3 支部合同セカンドプラン


外部講師セミナー


店休日バスツアー

松山三越支部 第５期(2016･2017 年度) 活動経過報告

テーマ

ときめく未来へ、想いをひとつに ～一人ひとりの「声」を「力」に～

第５期（2016 年度）は、「ときめく未来へ、想いをひとつに」というテーマを軸に活動を推進してきました。全ての活動の源泉である「VOICE 活動」の強化・推進に取り組み、メンバーとの徹底した情報共有と自由闊達な議論を通じて、意思疎通・課題解決を図るとともに、「一人ひとりの声を力に」変える活動に取り組みました。

また、生き残りに向けて昨年度以上に活動を強化し、様々な取組を行いました。地域の未来・松山三越の未来・わたしたちの未来に向かって、全員で何ができるかを考え、具体的な行動に結び付け、様々な課題に取り組みました。

○労働福祉活動
・賃金要求では、無年金期間等への対応から継続して協議をしていたシニアの賃金を引き上げました。物価上昇を考慮しベースアップも行いました。
・人事制度では、無期化の対応として、扶養者別最低賃金に年齢軸を導入しました。また、育児関連制度の整備の拡充を行いました。
・働き方改革会議をスタートしました。ＶＯＩＣＥで集めたメンバーの声を元に労使で話し合いを行い、結果として見込みの回数を減らすなどの業務改善につながりました。
○経営対策活動
・毎月１回経営懇話会を開催し、営業現況・時間管理の状況・構造改革の進捗などの確認を行いました。
○VOICE 活動
・第５期からは兼任役員によるメンバーズ VOICE 運営を行いました。
・テーマ別ＶＯＩＣＥとして、育児休職者・育児勤務者 VOICE を実施し、情報交換や育児関連制度整備に向けた意見収集をおこないました。またステージＢを対象としてテーマ別ＶＯＩＣＥを開催。マネジメントにおける課題の収集を行いました。
○ＵＳＲ活動
・愛の募金活動を年２回実施し、児童養護施設(愛媛慈恵会・親和園)へ物品寄贈を行いました。
○教育サポート活動
・兼任役員を巻き込みフレッシュプランを計 6 回実施しました。セカンドプランも継続して中四国３支部合同で実施しました。
・支部独自のセミナーとして、「ファイトネスセミナー」では 32 名、2 回目の開催となる「ワインセミナー」では 35 名の方にご参加いただきました。
○コミュニケーションサポート活動
・毎年恒例となったサマーパーティ（参加者約 150 名）とウィンターパーティ（参加者約 120 名）を実施することにより、会社全体の一体感の醸成に繋がりました。
・2 回目となる「登山レク」を実施し、18 名の参加者が集まりました。また３年ぶりとなる「アサヒビール工場見学」では 28 名の参加者が集まりました。いずれのイベントでも参加者同士のコミュニケーションが図れました。
○広報活動
・支部広報誌を 14 部発刊しました。また、ポスターは計 60 部発刊し、タイムリーな情報をメンバーへと共有することが出来ました。
・支部ブログでは、継続したアップを実施し、計 65 回の更新をしました。しかし、閲覧数は中々伸びず、ブログへの周知へ課題が残りました。


サマーパーティー


労使協議会


フレッシュプラン


育児ＶＯＩＣＥ


ワインセミナー

岩田屋三越支部 第5期(2016･2017年度) 活動報告

テーマ	力を合わせ、次の扉をひらこう ～九州を元気に～

第 5 期は、メンバー一人ひとりが主役となる参画型の活動が増え、これまで以上に主体性を持って取り組んだことで多くの「声」が集結し、処遇の改善や、所定労働時間の短縮など働き方の見直しにつながりました。活動における新規事業を力強く推進し、既存の取組も内容を進化させたことで、よりメンバーの「声」を活かした活動となりました。

○組織運営

■組織活性化

・兼任の執行委員から代議員までの定例会議や各種事業への参画が増え、メンバー起点の活動がより活発になりました。

■VOICE 活動

・定例のテーマ別 VOICE に加え、執行委員によるテーマ別 VOICE を開催することができ、より多くのメンバーの声を集めることができました。

○労働福祉

■労使通年協議の推進

・メイト社員賞与への評価反映導入、セールスインセンティブ制度、エルダースタッフの後継者育成に対する処遇設定など、新しい働き方に報いる人事賃金制度導入を行いました。

■働く環境整備

・「残業ゼロチャレンジ」や所定労働時間短縮をきっかけに、メンバーの意識改革や業務改善に向けた取り組みが急速に進みました。

○経営対策

■労使会議での議論活性化

・全組合員アンケートの内容をメンバーのリアルな声として経営側に伝え、今後労使で取り組んでいく具体的な項目を共有しました。

○ダイバーシティ推進

■育児サポート

・ワーキングファミリーVOICE の参加しやすい環境づくりに努め、今まで実施できていなかった事業所での開催も実現しました。

■介護サポート

・教育プランと連携し、「介護」について考えるきっかけづくりができました。

■その他領域

・多様性という観点から、初めて LGBT に関するセミナーを開催しました。

○教育サポート

■ユニオンプラン活性化

・ミドルライフサポートプランやヤングプランを初開催した他、既存の教育プログラムの磨き上げも行いました。

○USR

■熊本地震、北部九州豪雨災害の復興支援と、防災意識を高める活動

・募金活動のほか、組合役員を中心に被災地域へのボランティア活動も実施しました。

○レクリエーション

■レクリエーションやスポーツイベントの活性化

・労使共催の周年イベントや、過去最高参加者数のフットサル大会が盛り上がりました。

○広報

■SNS ツールの会員拡大と、デジタルサイネージ設置

・ブログ更新や LINE@登録促進の一方、デジタルサイネージの設置は進みませんでした。











	2016年	2017年
愛の募金	192,813円	449,641円
折鶴	7,600羽	1,200羽
エコキャップ	67,232個	63,146個



エムアイフードスタイル支部 第5期(2016・2017年度) 活動経過報告

テーマ	**一人ひとりが"いまの自分"を磨き上げ"仲間と共"に、企業の再興を目指すための2年間** ～自分たちの経験を信じ、何事も主体性・責任・情熱を持ち、前向きな行動をすることで企業を再興させよう～

- 危機的な業績の中、2017 年度は企業の存続を最優先とする中で会社は過去にない数の事業所の閉鎖などを行い、組合としても一定の理解をしなければならないという認識のもと労務対応を行ってまいりました。
- 労使では希望退職の実施を、更には組合として 12 月賞与の減額要求も行ってきました。
- また最優先の取り組みとして「働き方改革」を推進し、メンバーが今後も安心して働くための環境の整備や意識改革と風土の醸成を図る活動に注力してまいりました。
- 組合としては上記対応を含めた企業環境の正しい認識を全メンバーと持つために注力する活動の優先順位をつけながら取り組んでまいりました。

○組織運営
・組合役員の組合活動参画向上には課題を残しました。
・他労組との関わりは継続して取り組み、労使協議に反映させることができました。


【組織：2018 年春の交渉】

○VOICE 活動
・危機的な企業環境の共有、労使協議の本意共有に努め、討議を重ねてきました。
・情報共有を行う中で、厳しい取り組みに対するメンバーの理解を得ることはできました。
・「質」と「量」の向上を目指し、議案書見え方や時間設定のトライアルを行いました。

○経営対策活動
・危機的な企業環境の中、定期的な労使の打ち合わせ（経営懇話会など）を行い、情報収集とメンバーに正しい情報を伝えるパイプ役に努めました。
・全従業員対象アンケートを行い、昨年度の事業構造改革・働き方改革などに対するメンバーの総意を、経営に伝えてまいりました。来期以降も従業員の皆様からの貴重なご意見として労使協議にも活かしてまいります。


【経営対策：労使協議会】

○労働福祉活動
・企業事業の存続と雇用確保のため、痛みを伴う取り組みを行う決断を致しました。
・働く環境の整備では、時間管理・勤怠管理の徹底がなされ職制を通じてメンバーまで伝えられたものの、今後の飛躍に向けて課題を残しています。

○教育サポート活動
・会社との労使共催も念頭に置きながら既存教育のブラッシュアップを行いました。


【教育：入社 6 ヶ月研修】

○レクリエーション活動
・厳しい企業環境でしたが、組合としてメンバーのニーズの具現化に努めてきました。

○広報活動
・ビラについては毎月の経営懇話会号を発刊し、施策を含めた正しい情報認識の共有に努めてまいりました。
・ブログの発信を毎週必ず行い、情報発信と閲覧者向上に向けた取り組みを行ってきました。


【レク：バスレク山梨】

○USR 活動
・「愛の募金」・「折鶴献納」など本部活動のみに留まりました。

エムアイカード支部 第５期(2016･2017 年度) 活動経過報告

方針テーマ

一人ひとりが個性を磨き高め、輝ける組織へ

第５期は、労働福祉では労使通年協議の推進及び、VOICE で把握した適切な制度運用の点検を行い、社員制度の運用整備・制度改定に向けた協議を行いました。また、経営対策ではメンバーの意見を経営に繋げ、経営との共通認識を持てるよう、取り組みました。その他の分野別活動においては、普段触れる機会のない体験をできる機会を提供するというテーマで、USR やレクなどにおいて新たな視点や気づきに繋がる活動を行ってきました。

１．組織運営：着実な活動の実践と役員教育の強化

- 第５期よりハイジアの代議員を対象にした職場委員会を定期的に開催し、後半年度からは首都圏店舗も対象に労使協議内容の進捗報告や職場環境の確認を行い、組合活動の理解度向上や職場環境の現状把握を把握し、衛生委員会での課題提起や労使協議における環境改善への取り組みに繋げた
- 本部開催のセミナーに兼任組合役員が参加し、新たな視点・気づきに繋がる機会の提供や、執行評議員の知識向上に向けた勉強会を機関会議内で実施し、役員の底上げを図った

２．労働福祉：労使通年協議の着実な実行と、やりがい・働きがいのある環境整備

- 前半年度は労使協議の進め方については課題を残したが、後半年度では昨年改訂したステージＣやステージＡ・Ｂの課題・改善点について、各 VOICE で把握したメンバー意見を労使で議論を行い、2017 年度の労使通年協議を実施したが、年度内にまとめることが出来ず、2018 年度への継続協議となった

３．経営対策：会社状況の適確な把握と、現場実態の共有化及び対応協議

- 前半年度では経営懇話会と労使懇話会の位置付けを見直し、より労使の意見交換を図りやすい会議体へ見直しを実施し、経営会議では業績や施策の進捗確認をメインに行い、労使懇話会では各 VOICE や各機関会議で把握したメンバー意見や職場環境について意見交換を実施

４．USR：参加しやすい環境の提供

- 前半年度より「愛の募金」「広島平和活動」については募金の呼びかけや折鶴の作成及び糸通しを兼任役員中心で実施し、これまで以上のメンバー・兼任役員の参画に繋げるスキームを構築した。また、支部独自活動である『なかよし会』の支援はメンバー参加には至らなかったが、メンバーが参加しやすい新たな企画に向け、トライアルを実施

５．VOICE：メンバーズ VOICE の質と量の向上、効果的なテーマ別 VOICE の実施

- 春の交渉メンバーズ VOICE において、各雇用形態の重要ポイントの作成を行い、新体制での兼任役員によるメンバーズ VOICE を実施しやすい環境整備を行った
- 新評価制度やステージＣ店長、担当長などに関するテーマ別 VOICE を実施し、メンバーの意見や新ステージＣ制度の課題について労使で共通認識を持ち、Ｃａの賞与引き上げ(役割①・②)及び労使通年協議事項として組み入れることに繋げた

６．教育サポート：本部ユニオンプランへの参画と支部独自の教育内容の構築

- 本部主催のミドルプラン・シニアライフプランについては支部メンバーへの確実な参加に向けて取り組みを実施
- 新卒フレッシュプランについては IMS･IMH の新入社員と合同開催し、宿泊から１日開催への変更など新たな開催方法を取り入れ、よりグループ内の新卒との交流や、同期・組合との交流を図った

７．コミュニケーションサポート：所属・企業を超えたメンバー交流機会の拡大

- 普段体験しない、仕事以外の分野に繋がる『カラダに優しい』をテーマにしたスターバックスやクックパッド、ヨガのレクなどの新たなテーマで開催し、メンバー間の交流や余暇の充実だけでなく、関心・興味の幅を広げるレク活動を実施した

８．広報：広報誌の定期的な発刊とタイムリーなブログの更新

- 支部広報誌『ひまわり』は、前半年度は年３回の発刊が年１回の発刊に留まったが、後半年度においては計画通り、年２回の発刊を行った。さらに、誌面のレイアウトやデザイン変更は大きく刷新し、好評を得ることが出来た
- 月最低４回の定期更新を図り、安定的なアクセス数を獲得することが出来た。さらに、レク報告や共済会報告については 100 を超える高いアクセス数を獲得するようなブログをアップすることが出来た。



支部大会(分科会の様子)



蕎麦打ちレク



育児復職者ランチＭＴＧ



京王クリーンキャンペーン(清掃活動)



ＩＭＳ・ＩＭＨ合同フレッシュプラン

支部ブログ
ID：@imgu
PW：imgu2010

関連グループ統括支部Ⅰ　第５期(2016･2017 年度)　活動経過報告

テーマ	共に考え･共に話し･共に歩もう　～for　your　smile～

･業種が異なり、また、IMBS と IMPD では、全国に拠点がある環境の中で、「共に」を合言葉に、メンバーの皆さんが主体となることを意識した活動をおこなってきました。

　具体的には、レクリエーションやテーマ別 VOICE の開催、教育活動の拡充など、コミュニケーション強化の取り組みをおこない、メンバーとの接点の拡大に努めてきました。

関連Ⅰ共通

○労働福祉活動

･有期契約社員の無期雇用化や育児･介護関連諸制度の条件拡充をおこないました。

○教育サポート活動

･IMBS･IMPD の新入社員を対象としたフレッシュプランを開催し、計 22 名が参加しました。

･ユニオンプランとして、40 歳の社員･メイト社員を対象としたミドルライフサポート研修と、57 歳の社員･メイト社員を対象としたシニアライフサポート研修を実施しました。

　ミドルライフサポート研修参加者：IMBS：１名、IMPD：３名、IMRE：１名

　シニアライフサポート研修参加者：IMBS：４名、IMPD：３名、IMRE：１名



新卒対象合同フレッシュプラン

IMBS

○VOICE 活動

･春の交渉では、兼任執行委員と議案書作成をおこない、ポイントを記載した頁を設けるなど、見やすさの工夫をおこないました。

○労働福祉活動

･働く環境整備として休憩時間変更などをおこない、メンバーのやりがい働きがいにつなげました。



入社５年目対象セカンドプラン

○レクリエーション活動

･首都圏（所沢開催）でのビアガーデンや、IMGU フェスティバルに連動した全国ボウリング大会を実施しました。（ビアガーデンレク参加者：24 名）

※全国ボウリング大会は、８月～９月実施の為、８月現在で人数は未確定。

○広報活動

･ユニオンレターについては、兼任役員と連携し、毎月発刊をおこなったものの、当初予定していた毎月 10 日の定期発刊の徹底には至りませんでした。



三越伊勢丹不動産総会

IMPD

○労働福祉活動

･会社統合後、最後の並走項目となっていた退職金制度の統合をおこないました。

○VOICE 活動

･パーキングサービスの嘱託社員を対象に導入をおこなった評価制度について、テーマ別 VOICE を実施し、状況把握や制度の理解浸透に繋げました。

○レクリエーション活動

･全国を繋ぐ企画として IMPD 全国ボウリング大会や首都圏企画として BBQ レクを実施しました。（ボウリング大会参加者：84 名　BBQ レク参加者：35 名）



ＩＭＰＤ　レクリエーション

IMRE

○労働福祉

･エルダースタッフのあらたな区分の設定として、月給制区分の新設をおこないました。

･毎月の安全衛生委員会の中で、有休や各休、時間外の状況について確認をおこないました。

○組織運営

･職場委員会の開催は、毎月の開催を想定していましたが、VOICE 開催前に留まりました。

○広報活動

･分会広報紙については、目標の毎月の発刊には至りませんでした。



ＩＭＢＳ　レクリエーション

関連グループ統括支部Ⅱ　第５期(2016・2017年度)　活動経過報告

テーマ	共に働く仲間同士の絆を深め、一人ひとりがいきいきと働ける職場環境を創造していこう

2017年度は、ﾒﾝﾊﾞｰ・組合役員・会社間の一体感の醸成に向けて継続して取組みを進め、特に定例の活動についてより多くのﾒﾝﾊﾞｰに参画できるよう、活動しました。また、各支部・分会において、特に適正な労働時間管理の取組みについて、これまで以上にﾒﾝﾊﾞｰの一人ひとりが働きがいを感じ、いきいきと働くことができる職場環境づくりに向け、各支部・分会に応じた活動を推進しました。

【関連グループ統括支部Ⅱ～各支部・分会共通～】


川崎授産学園への寄贈

○労働福祉・経営対策活動

・各支部・分会にて、適正な労働時間管理の取組み等をおこないましたが、継続して支部・分会独自の課題を残しました。

・○VOICE活動

・参加しやすい環境の整備やﾌｫﾛｰVOICEの実施等を、ﾒﾝﾊﾞｰの参加推進および接点機会の強化に取組みましたが、支部・分会ごとに闊達な意見交換をおこなうという観点では課題を残しました。

○USR活動


IMSスﾃﾞ　C-tVOICE

・愛の募金、広島平和活動等、本部・他支部と連携して取組みました。また、継続した川崎授産学園への支援をおこなう中では、支援活動参加ﾒﾝﾊﾞｰの拡大に取組みました。

○広報活動

・各支部・分会内にて発信方法の変更をする等、よりﾀｲﾑﾘｰな情報提供に取組み、実施してきましたが、一部の支部・分会で、発信頻度等に課題を残しました。

○教育サポート活動

・引き続き、ﾕﾆｵﾝﾌﾟﾗﾝ（ﾌﾚｯｼｭﾌﾟﾗﾝ・ｾｶﾝﾄﾞﾌﾟﾗﾝ・ﾐﾄﾞﾙﾗｲﾌｻﾎﾟｰﾄﾌﾟﾗﾝ）の実施を推進するとともに、独自教育の活動を推進しましたが、一部の支部・分会にて実施時期等に課題を残しました。

【三越伊勢丹ヒューマン・ソリューションズ支部】


IMS　バーベキュー大会

○労働福祉・経営対策活動

・継続して社員・ﾒｲﾄ社員・ＢＣﾒｲﾄ社員の賞与水準の引き上げをおこなうとともに、ﾒﾘﾊﾘのある働き方の実現に向けた所定労働時間の短縮や有期雇用契約社員の無期雇用化に取組みました。一方で、退職給付制度の水準の見直しや一部雇用形態への制度導入については継続検討としました。

○コミュニケーション・サポート活動

・恒例活動の実施や他支部企画への参画推進を図りましたが、より多くのﾒﾝﾊﾞｰに参加いただくことに関して課題を残しました。

【三越伊勢丹システム・ソリューションズ支部】


IMH　ボウリング大会

○労働福祉・経営対策活動

・役割成果主義の推進に向け、ﾒﾝﾊﾞｰとの意見交換・議論を経て社員人事賃金制度の適切な運用に向けた取組みをおこないました。一方で経営懇話会については定例化に向け、2018年６月に実施をしました。

○ダイバーシティー推進活動

・育児・介護等のテーマ別VOICEをおこない、意見交換や情報共有をおこないました。

○教育サポート活動

・ﾁｬﾚﾝｼﾞﾌﾟﾗﾝ開催とともに、ｺｰﾋｰｾﾐﾅｰやﾀﾐﾅｾﾐﾅｰ等、組合独自研修を実施しました。

○コミュニケーション・サポート活動

・恒例のﾎﾞｳﾘﾝｸﾞやﾊﾞｰﾍﾞｷｭｰでは、参加者数拡大を図り、さらなる一体感醸成に取組みました。

【スタジオアルタ直轄分会】


スタジオアルタ　総会

○労働福祉・経営対策活動

・人事賃金制度改定後の適正な制度運用に労使推進に取組みました。しかしながら、適正な労働時間管理については、ｵﾙﾀﾅﾃｨﾌﾞｼｱﾀｰの開業もありましたが、大きな課題を残しました。

○コミュニケーション・サポート活動

・組合主催懇親会の開催や会社主催ｲﾍﾞﾝﾄのｻﾎﾟｰﾄを通じて、一体感の醸成に取組みました。

【三越伊勢丹ソレイユ直轄分会】


三越伊勢丹ソレイユｸﾘｽﾏｽ会

・衛生委員会定例開催による就業環境の確認や社員Ａ人事賃金制度改定をおこないました。

・事業所ごとに参加しやすさやﾆｰｽﾞ考慮し、飲食を中心としたﾚｸﾘｴｰｼｮﾝを実施しました。

関連グループ統括支部Ⅲ 第5期(2016・2017年度) 活動経過報告

テーマ	**成長の萌(きざし)を成果につなげる** **～メンバー同士やメンバーと会社がお互いに理解を深める事で、より高い成果を生み出す～**

・支部内の分会特殊事情などを踏まえる中で、主体性をもった個々のキャリアやスキルを考える機会の提供などの分野において活動の活性化には及びませんでしたが、グループの方向性が変化する中で、各会社の方向性や現場メンバーの状況など情報が労使間で共有できる体制の構築に努めることを中心に取り組みを進めました。

マミーナ直轄分会

○労働福祉活動…2017 年 9 月末に事業分割による会社清算が決定以降、HDS 人事・組合本部・支部労使で連携し、2018 年 3 月末の営業終了日までメンバー1 人ひとりの声を確認しながら雇用の確保を前提とした労務対応に取り組みました。

レオテックス直轄分会

○労働福祉活動…通年協議では、エリア社員時給制および 60 歳以降の雇用形態の無期契約への対応について成案化し時給制の60歳以降の雇用形態を新設。働く環境の整備では、6 ヶ月変形労働によるロング＆ショートを導入することで、長時間労働の削減への運用を開始。また、労使によるハラスメント防止委員会の設置し、現状の把握を行うなど未然防止に取り組みました。

○経営対策活動…利益への意識醸成と生産性向上に取り組み、業績は厳しい結果になったものの前年比では各部門で改善結果となりました。

○VOICE 活動…メンバーズ VOICE は賞与要求や通年協議、春の交渉など年 3 回実施に加え、3 月 OY 地域店舗を中心に少数体制拠点での業務状況や職場環境について意見交換するテーマ別 VOICE によって業務改善につながりました。

○USR 活動…年 2 回実施した愛の募金は、本社計 20,579 円や使用済み切手などの善意が寄せられました。

三越伊勢丹ギフト・ソリューションズ直轄分会

○労働福祉活動…通年協議では、各雇用形態の本給評価分布の改定や契約社員の無期雇用に伴う対応について成案化。働く環境の整備においては、有給休暇の取得促進として連休取得ルールの導入をはじめ、長時間労働解消へ取り組みました。またハラスメントについては、アンガーマネジメント研修の実施やハラスメント防止委員会での状況確認など労使で協議を進める場を設けました。

○経営対策活動…定例の業績確認とともに、取り巻く環境変化に伴った自社への影響を踏まえ方向性の確認などを行いました。

○VOICE 活動…年 3 回実施（賞与要求や通年協議、春の交渉）

○レクリエーション活動…旧 IMFS 支部主催によるビアガーデン企画に参加しました。

センチュリー・トレーディングカンパニー直轄分会

○労働福祉活動…春の交渉では、グループ各社と同様にベースアップを行いました。また、働く環境の整備では、インターバル休息時間改定や有給休暇取得の推進するために連休取得ルールを導入しました。

○VOICE 活動…年 3 回実施（賞与要求や春の交渉）

伊勢丹会館直轄分会

○労働福祉活動…法改正やグループ制度の改定に伴う内容をベースに労働協約改訂を行いました。

労使協議会（レオテックス分会）



労使協議会（IMGS 分会）



労使協議会（センチュリー分会）



センチュリー分会総会兼 VOICE



USR（平和を願う折り鶴）





USR（調布学園ボランティア）



関連グループ統括支部Ⅳ 第５期(2016･2017 年度) 活動経過報告

テーマ	はたらく「笑顔」の環をひろげる

関連グループ統括支部Ⅳ旅行・通販直轄分会では、分会独自の課題について、メンバーにとって納得感のある制度構築や働く環境の整備に向けて、メンバーとの対話・会社との対話を繰り返し行いながら、制度成案化や時間管理等意識醸成につなげました。2018 年４月以降は、ニッコウトラベル・ニッコウ企画・ソシエ・ワールド直轄分会メンバーが仲間に加わり、フレッシュプランや第二回説明会の中で組合の活動イメージや働く環境等についてお伝えし意見交換がスタートしました。

【三越伊勢丹旅行直轄分会・ニッコウトラベル直轄分会・ニッコウ企画分会】

〇労働福祉活動

■三越伊勢丹旅行通年協議では、旅行独自の課題対応の観点から協議を進めました。60 歳以降再雇用制度・添乗規程の見直し・出向者の希望転籍制度等、成案化につなげました。働く環境の整備に向けては、2017 年９月からの企画・管理部門におけるフレックス本格導入に伴い VOICE 等を開催し、運用面の課題対応や意識醸成に取り組みました。また労使でのハラスメント防止対策委員会を開催し、会社が実施している啓発活動等について確認を行いました。

■ニッコウトラベル・ニッコウ企画においては、働く環境の整備に向け、フレッシュプランでメンバーからいただいた時間管理における声を伝え、朝礼のあり方など改善につなげました。

■2018 年度より、2019 年度三越伊勢丹旅行との会社統合を見据え、人事制度や働くルールについての制度統合についての協議がスタートしました。


旅行 2018 年度春の交渉

〇経営対策活動 三越伊勢丹旅行では経営懇話会を毎月開催し営業概況の確認を行いました。2018 年６月より三越伊勢丹旅行・ニッコウトラベル・ニッコウ企画合同で懇話会を毎月開催し営業概況について確認しました。また次年度の統合会社方針を８月に確認しました。


旅行 2018 年３月総会

〇VOICE 活動 三越伊勢丹旅行では９割以上のメンバーがメンバーズ VOICE に出席し、闊達な意見交換につながりました。

【三越伊勢丹通信販売直轄分会】

〇労働福祉活動 通年協議では、メイトスタッフⅠ・Ⅱの統合や 60 歳以降再雇用制度について成案化につなげました。働く環境の整備では JPMM 働き方改革の状況について確認しました。


通販 広島千羽鶴活動

〇経営対策活動 経営懇話会を四半期に一度開催し営業概況や方向性について確認しました。2018 年度以降は事業終了に向けた営業体制等について確認を行いました。

〇VOICE 活動 メンバーズ VOICE 出席率は 90%前後を維持しました。エルダースタッフ制度改定やアシストスタッフ対象働く環境についてのテーマ別 VOICE を開催しました。


通販 夢の募金

〇USR 活動 東京都盲人福祉協会４月に開催された運動会にスタッフとして参加しました。

【ソシエ・ワールド直轄分会】

〇労働福祉活動・経営対策活動 2018 年５月より本部と連携し、全事業所を対象に第二回説明会を開催しました。組合活動・共済会内容詳細・2018 年度通年協議項目についてお伝えするとともに事業部毎の制度や働き方における課題等、メンバーの声の収集を行いました。次年度からの制度構築に向け、2017 年度の会社の取り組みや現行制度における課題の確認を行いました。


通販 2018 年度春の交渉

〇経営対策活動 経営懇話会を６月以降毎月１回開催し営業概況について確認しました。今後、メンバーの声を伝え改善につなげるサイクルを回します。

【三越伊勢丹プラン・ドゥ・シー直轄分会・三越伊勢丹トランジット直轄分会】

〇労働福祉活動 随時、出向者より情報収集を行いました。


USR 活動夢の募金寄贈

第５期（2017 年度） 決算報告および剰余金処分（案）

１．2017 年度実績の概要

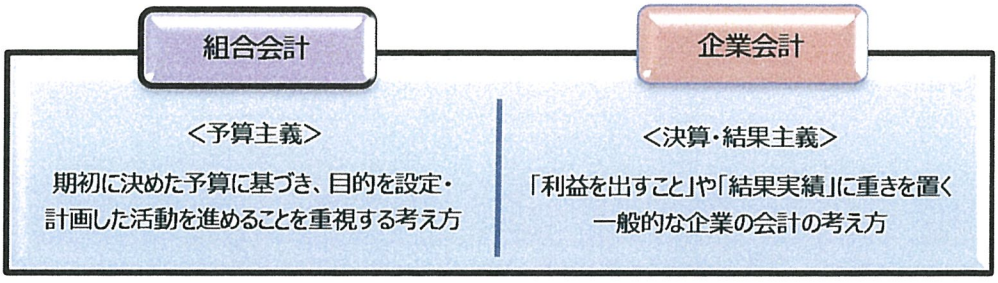
2017 年度は第５期の後半年度として、運動方針である「共に働く仲間同士の絆を深め、多様性を組織の活力へと繋げよう」の達成に向けて、活動分野ごとに本部、各支部で活動計画を設定し、運動を推進してきました。

組合の会計、財政運営は、上記運動方針や活動計画に基づく予算主義（※）の考えに基づいた運営を基本とし、内部監査委員による毎月の会計監査と、外部監査法人による半期ごとの外部会計監査による確認をふまえながら、組合会計基準に則った効率的、効果的な経費の活用と、「資産運用ガイドライン」にもとづく効果的かつ適切な資産管理の２点に注力した運営を行っています。また、必要に応じて、組合会計基準や財政運営面の見直しも合わせて行ってきています。

また、2017 年度においては、現状の位置づけを踏まえ、これまで設定していた３特別会計（USR・特別融資・職員退職金）を廃止するとともに、本部・支部それぞれで計上する支出を整理するなど、運動方針と会計の連動性の強化を図りました。

結果として、財政収支は収入が組合会計全体（愛の募金を除く）ではほぼ計画通りに推移し、約９億 3,600 万円（予算比 99.1%、前年比 76.3%）となりました。また支出は約９億 7,800 万円（予算比 93.8%、前年比 79.6%）、予算執行率は 93.8%となりました（前年▲1.6%）。

※組合会計の予算主義について



＜2017 年度決算数値（全体）＞

単位：千円

	一般会計		闘争会計		（2017年11月で廃止）					
					ＵＳＲ会計		融資会計		職員退職金会計	
	予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績
収入	944,400	935,659	300	245	10	0	10	0	10	0
支出	1,038,700	975,184	10	3	3,940	2,919	0	0	0	0
差額	-94,300	-39,524	290	241	-3,930	-2,919	10	0	10	0

全会計合計（愛の募金会計除く）				
	予算	実績	予算差	予算比
収入	944,730	935,904	-8,826	99.1%
支出	1,042,650	978,106	-64,544	93.8%
差額	-97,920	-42,202	55,718	43.1%

愛の募金会計		
	予算	実績
収入	3,410	3,065
支出	3,510	3,696
差額	-100	-630

※金額は各会計の繰越金、繰入金、剰余金を除いた額

2. 一般会計のポイント

前年は会計期間が 15 ヶ月であったことと、本支部間で一部計上科目の入替を行なっていることから、前年比は参考数値となります。

1）収入

・組合費拠出金は、年度中の平均組合員数が 22,056 人（前年比 99.1%）と前年同水準であったため、全体でもほぼ予算通りの約 8 億 2,650 万円（予算比 99.7%、前年比 76.9%）となりました。

・施設利用料収入は、ハワイコンドミニアムの改装に伴う利用者数減少、単価の減少等の影響と、円高の影響（前年決算時の為替▲1.46 円）により約 1,170 万円（予算比 79.7%、前年比 47.2%）となりました。

・受取利息は、海外の金利上昇を受け為替ヘッジ付商品の利息収入が減少し、約 4,360 万円（予算比 94.8%、前年比 70.1%）となりました。尚、顧問契約を結んでいるコンサルタントのアドバイスをふまえ、今期一部の投資信託の売却と、新たに 1 本投資信託を購入しました。

・受取配当金は、保有している三越伊勢丹ＨＤＳ株およびトヨタ AA 株等の配当が想定通り行なわれた結果、約 4,110 万円（予算比 102.8%、前年比 516.8%）となりました（前年は HDS 株の配当は闘争会計で処理）。

・雑収入は、予算化していなかったリーマンブラザーズ社債返還金が約 280 万円計上されたこと、ハワイコンドミニアム改装時の管理会社立替分を収入として計上したこと（約 450 万円）、投資信託売却時に売却益が発生したこと（約 520 万円）などから、雑収入合計では約 1,260 万円（予算比 269.9%、前年比 233.4%）となりました。なお、リーマンブラザーズ社債返還金は 2008 年に約 1 億円で購入した同社事業債の債務不履行以降、順次返還されているものであり、今年度の返還により累積の返還金は購入金額の 44.6%（ﾄﾞﾙﾍﾞｰｽ）となっています。

・闘争特別会計繰入金収入は、解約した銀行口座の残高を一般会計に繰入れる予定でしたが、同じ闘争特別会計の銀行口座へ繰入れたため未計上となっています。その他の特別会計の繰入金は、2017 年 11 月の特別会計廃止に伴い、一般会計に残高の繰入れを行ないました。

2）支出

①事業費

・事業費は、約 1 億 5,740 万円（予算比 72.9%、前年比 76.1%）となり、予算内の支出となりました。主な内訳として、本部活動費は約 1,950 万円（予算比 57.8%、前年比 85.2%）、支部活動費は約 9,060 万円（予算比 70.8%、前年比 90.0%）、教育費は約 2,780 万円（予算比 93.2%、前年比 49.1%）となっています。

・事業費で予備費を多く流用した主な科目の理由は以下の通りです。

●USR 活動費
廃止した USR 特別会計で予算計上をしていた活動費の計上にズレが生じたため（約 200 万円）
●能力開発費
自己啓発支援の申請件数が前年比約 115%で推移したため（約 20 万円）
●役員教育費
役員育成に向けた教育派遣を積極的に行なったため（約 140 万円）

②事務費

・事務費は約 4 億 9,280 万円（予算比 93.6%、前年比 77.9%）となりました。主な内訳として、人件費は約 4 億 5,800 万円（予算比 97.0%、前年比 79.6%）、物件費は約 3,460 万円（予算比 64.1%、前年比 61.2%）となりました。

・事務費で予備費を多く流用した主な科目の理由は以下の通りです。

●職務・行動手当
想定よりも役員数が増えたため（約 57 万円）
●社会保険料
想定よりも役員数が増えたことと、2018 年夏賞与の水準が昨年よりも上回ったため（予算上は昨年実績で計上、約 540 万円）
●修繕・営繕費
当初予算計上していなかった事務所改装を行なったこと（本部・福岡事務所、約 37 万円）

③その他（リゾート施設関連費・雑損失）

・リゾート施設関連費および雑損失は予備費を流用しました。主な理由は以下の通りです。

●国内施設関連費
年会費を会計期間中に 2 回計上したため
●海外施設関連費
建物付随設備購入費、什器備品購入費で予算計上していたハワイコンドミニアム改装代などを、会計士の指導により海外施設関連費で計上したため
●雑損失
セントラルパシフィックバンクの保有口座で為替差損が発生したこと（約 90 万円）、および投資信託売却時に売却損を計上したため（約 600 万円）

3．特別会計のポイント

１）闘争特別会計

・低金利の影響により、保有している金銭信託の受取利息が想定よりも下回ったため、受取利息が予算を下回りました（予算比 81.5%）。

・一般会計繰入金は、解約した銀行口座の残高を一般会計に繰入れる予定でしたが、同じ闘争特別会計の銀行口座へ繰入れたため未計上となっています。

２）愛の募金特別会計

・大雨をはじめとした自然災害に対する義援金拠出が増加したため、前年を大きく上回るとともに、予算を超えたため予備費を流用しました（約 20 万円）。

３）その他特別会計（USR・組合特別融資・職員退職金）

・今期の運動方針に則り、「特別会計を設定する目的」「現状の環境を踏まえた位置づけ」を整理し、2018 年 10 月をもって 3 特別会計の廃止を行なうとともに、残った資産については一般会計への繰入を行ないました。

・なお、USR 特別会計においては、特別会計で予算計上（2017 年 10 月まで）していた支出の一部の計上に月ズレが発生したため、予算比 70.7%となっています。

4．労働組合資産の主なポイント

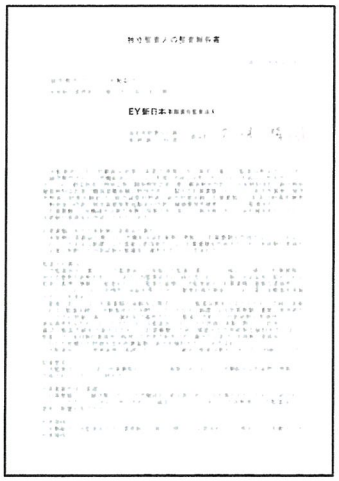
・2017 年度末時点の総資産額は約 53 億 9,700 万円（前年比 98.8%）となり、前年に対して約 6,370 万円減少しました。

・闘争特別会計の資産は約 7 億 2,000 万円、全組合員の給与に換算すると（補償日数）約 4.5 日となっています。

5．監査報告

各会計は、毎月、監査委員による定例の内部監査を実施しました。

また、中間および年度決算時において「EY 新日本有限責任監査法人」による監査を受け、収支計算表、貸借対照表、財産目録ともに正当に表示されており、適正な会計処理が行われていることが確認されました。



6．剰余金処分（案）

2017 年度における下記の剰余金を各々次年度へ繰り越すこととします。

一般会計	4,489,673,143 円
闘争特別会計	720,260,219 円
愛の募金特別会計	5,148,665 円

2017年度　三越伊勢丹グループ労働組合　一般会計

収支決算表（2017年7月1日～2018年6月30日）

（収入の部）

（単位：円）

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
1.経常収入			929,700,000	922,972,865	6,727,135	78.9%	99.3%
	1.組合費		829,000,000	826,537,819	2,462,181	76.9%	99.7%
		1.組合員拠出金	829,000,000	826,537,819	2,462,181	76.9%	99.7%
	2.施設利用料収入		14,700,000	11,716,706	2,983,294	47.2%	79.7%
		1.海外ﾘｿﾞｰﾄ施設利用料収入	14,700,000	11,716,706	2,983,294	47.2%	79.7%
	3.受取利息		46,000,000	43,616,590	2,383,410	70.1%	94.8%
		1.受取利息	46,000,000	43,616,590	2,383,410	70.1%	94.8%
	4. 受取配当金		40,000,000	41,101,750	-1,101,750	516.8%	102.8%
		1.受取配当金	40,000,000	41,101,750	-1,101,750	516.8%	102.8%
2.臨時収入			4,700,000	12,686,306	-7,986,306	233.4%	269.9%
	1.雑収入		4,700,000	12,686,306	-7,986,306	233.4%	269.9%
		1.雑収入	4,700,000	12,686,306	-7,986,306	233.4%	269.9%
3.特別会計繰入金収入			54,131,147	33,925,909	20,205,238	2.1%	62.7%
	1. 闘争特別会計繰入金収入		19,286,556	0	19,286,556	0.0%	0.0%
		1.闘争特別会計繰入金収入	19,286,556	0	19,286,556	0.0%	0.0%
	2. 組合特別融資特別会計繰入金収入		30,087,839	30,088,023	-184	-	100.0%
		1.組合特別融資特別会計繰入金収入	30,087,839	30,088,023	-184	-	100.0%
	3. USR特別会計繰入金収入		2,383,184	1,464,307	918,877	-	61.4%
		1. USR特別会計繰入金収入	2,383,184	1,464,307	918,877	-	61.4%
	4. 職員退職金積立特別会計繰入金収入		2,373,568	2,373,579	-11	-	100.0%
		1. 職員退職金積立特別会計繰入金収入	2,373,568	2,373,579	-11	-	100.0%
4.ﾘｿﾞｰﾄ施設修繕積立預金戻入収入			10,000,000	10,000,000	0	-	100.0%
	1.ﾘｿﾞｰﾄ施設修繕積立預金戻入収入		10,000,000	10,000,000	0	-	100.0%
		1.ﾘｿﾞｰﾄ施設修繕積立預金戻入収入	10,000,000	10,000,000	0	-	100.0%
5.前年度繰越金			4,487,271,611	4,487,271,611	0	124.0%	100.0%
	1.前年度繰越金		4,487,271,611	4,487,271,611	0	124.0%	100.0%
		1.前年度繰越金	4,487,271,611	4,487,271,611	0	124.0%	100.0%
合　　計			5,485,802,758	5,466,856,691	18,946,067	85.2%	99.7%

（支出の部）

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
1.事業費			215,812,556	157,367,454	58,445,102	76.1%	72.9%
	1.活動費		33,644,525	19,453,062	14,191,463	85.2%	57.8%
		1.書記局費	2,000,000	1,455,384	544,616	20.4%	72.8%
		2.労働福祉対策費	5,500,000	2,283,843	3,216,157	97.5%	41.5%
		3.組織対策費	5,500,000	2,516,670	2,983,330	6553.8%	45.8%
		4.経営対策費	1,500,000	568,256	931,744	440.6%	37.9%
		5.広報費	8,000,000	6,622,333	1,377,667	65.4%	82.8%
		6.選挙管理費	200,000	33,907	166,093	14.6%	17.0%
		7.レクリエーション費	1,500,000	3,231	1,496,769	-	0.2%
		8.USR活動費	5,444,525	5,444,525	0	-	100.0%
		9.ダイバーシティ推進費	4,000,000	524,913	3,475,087	18.6%	13.1%
	2.教育費		29,768,031	27,755,107	2,012,924	49.1%	93.2%
		1.組合員教育費	5,000,000	4,738,430	261,570	15.1%	94.8%
		2.国内ｾﾐﾅｰ費	2,000,000	1,483,952	516,048	81.5%	74.2%
		3.海外ｾﾐﾅｰ費	2,000,000	764,694	1,235,306	35.6%	38.2%
		4.能力開発費	9,418,248	9,418,248	0	98.6%	100.0%
		5.役員教育費	11,349,783	11,349,783	0	97.1%	100.0%
	3.支部活動費		127,900,000	90,597,071	37,302,929	90.0%	70.8%
		1.三越伊勢丹支部活動費	40,100,000	29,283,423	10,816,577	82.2%	73.0%
		2.北海道統括支部活動費	13,200,000	10,369,928	2,830,072	102.3%	78.6%
		3.仙台三越支部活動費	3,700,000	2,710,662	989,338	101.7%	73.3%
		4.名古屋三越支部活動費	8,600,000	6,126,026	2,473,974	102.2%	71.2%
		5.広島三越支部活動費	1,500,000	878,521	621,479	79.7%	58.6%
		6.高松三越支部活動費	2,500,000	1,568,230	931,770	104.1%	62.7%
		7.松山三越支部活動費	3,000,000	2,003,623	996,377	93.3%	66.8%
		8.岩田屋三越支部活動費	8,800,000	4,285,628	4,514,372	71.3%	48.7%
		9.静岡伊勢丹支部活動費	2,000,000	1,465,960	534,040	121.8%	73.3%
		10.新潟三越伊勢丹支部活動費	6,100,000	5,607,150	492,850	100.0%	91.9%
		11.ｴﾑｱｲｶｰﾄﾞ支部活動費	7,600,000	3,653,789	3,946,211	73.7%	48.1%
		12.ｴﾑｱｲﾌｰﾄﾞｽﾀｲﾙ支部活動費	9,500,000	9,243,447	256,553	140.0%	97.3%
		13.関連ｸﾞﾙｰﾌﾟ統括支部Ⅰ活動費	8,800,000	6,444,294	2,355,706	86.8%	73.2%
		14.関連ｸﾞﾙｰﾌﾟ統括支部Ⅱ活動費	7,200,000	4,092,770	3,107,230	108.3%	56.8%
		15.関連ｸﾞﾙｰﾌﾟ統括支部Ⅲ活動費	4,200,000	2,216,763	1,983,237	43.4%	52.8%
		16.関連ｸﾞﾙｰﾌﾟ統括支部Ⅳ活動費	1,100,000	646,857	453,143	86.5%	58.8%
	4.渉外費		2,800,000	1,769,302	1,030,698	50.8%	63.2%
		1.応接・交際費	800,000	197,502	602,498	13.5%	24.7%
		2.会費	2,000,000	1,571,800	428,200	77.7%	78.6%
	5.会議費		21,700,000	17,792,912	3,907,088	76.8%	82.0%
		1.会議費	3,000,000	1,884,330	1,115,670	67.8%	62.8%
		2.会議交通費・旅費	18,700,000	15,908,582	2,791,418	78.0%	85.1%

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
2.事務費			526,611,570	492,849,703	33,761,867	77.9%	93.6%
	1.人件費		472,538,388	458,206,108	14,332,280	79.6%	97.0%
		1.給料	280,000,000	269,410,358	10,589,642	79.8%	96.2%
		2.時間外・深夜業手当	50,000	0	50,000	0.0%	0.0%
		3.休日手当	9,000,000	7,212,000	1,788,000	66.7%	80.1%
		4.職務・行動手当	77,568,000	77,568,000	0	81.6%	100.0%
		5.賞与	58,000,000	56,293,635	1,706,365	76.9%	97.1%
		6.社会保険料	45,370,388	45,370,388	0	79.4%	100.0%
		7.共済会費	50,000	30,420	19,580	80.0%	60.8%
		8.福利厚生費	2,500,000	2,321,307	178,693	113.1%	92.9%
	2.物件費		54,073,182	34,643,595	19,429,587	61.2%	64.1%
		1.通信費	3,500,000	3,103,179	396,821	108.7%	88.7%
		2.交通費・旅費	200,000	23,291	176,709	5.1%	11.6%
		3.消耗品費	3,000,000	2,508,321	491,679	33.4%	83.6%
		4.リース料	6,000,000	5,806,355	193,645	81.2%	96.8%
		5.建物付属設備購入費	13,000,000	202,281	12,797,719	49.2%	1.6%
		6.什器備品購入費	3,000,000	375,519	2,624,481	-	12.5%
		7.水道光熱費	250,332	250,332	0	82.3%	100.0%
		8.印刷費	10,000,000	9,277,473	722,527	67.5%	92.8%
		9.図書新聞費	3,000,000	2,757,911	242,089	83.0%	91.9%
		10.ﾈｯﾄﾜｰｸｼｽﾃﾑ関連費	3,500,000	2,400,067	1,099,933	77.0%	68.6%
		11.修繕・営繕費	872,850	872,850	0	221.3%	100.0%
		12.監査顧問料	6,000,000	5,803,363	196,637	87.1%	96.7%
		13.支払手数料	100,000	48,000	52,000	63.7%	48.0%
		14.租税公課	150,000	80,663	69,337	40.1%	53.8%
		15.雑費	1,500,000	1,133,990	366,010	78.7%	75.6%
3.ﾘｿﾞｰﾄ施設関連費			28,599,909	28,599,909	0	166.0%	100.0%
	1.国内ﾘｿﾞｰﾄ施設関連費		146,000	146,000	0	141.3%	100.0%
		1.国内施設関連費	146,000	146,000	0	141.3%	100.0%
	2.海外ﾘｿﾞｰﾄ施設関連費		28,453,909	28,453,909	0	166.1%	100.0%
		1.海外施設関連費	28,453,909	28,453,909	0	166.1%	100.0%
4.上部団体費			128,000,000	127,125,600	874,400	81.9%	99.3%
	1.上部団体費		128,000,000	127,125,600	874,400	81.9%	99.3%
		1.ＵＡｾﾞﾝｾﾝ拠出金	128,000,000	127,125,600	874,400	81.9%	99.3%
5.共済会費			162,434,150	162,054,369	379,781	79.5%	99.8%
	1.共済会費		162,434,150	162,054,369	379,781	79.5%	99.8%
		1.共済会拠出金	80,000,000	79,620,219	379,781	78.8%	99.5%
		2.医療共済補助金	82,434,150	82,434,150	0	80.3%	100.0%
6.特別会計繰入金			5,000,000	2,000,000	3,000,000	0.3%	40.0%
	1.ＵＳＲ特別会計繰入金		5,000,000	2,000,000	3,000,000	16.7%	40.0%
		2.ＵＳＲ特別会計繰入金	5,000,000	2,000,000	3,000,000	16.7%	40.0%
7.雑損失			7,186,513	7,186,513	0	1430.2%	100.0%
	1.雑損失		7,186,513	7,186,513	0	1430.2%	100.0%
		1.雑損失	7,186,513	7,186,513	0	1430.2%	100.0%
7.予備費			4,412,158,060		4,412,158,060	－	－
			(29,944,698) 4,412,158,060		4,412,158,060	－	－
8.剰余金				4,489,673,143	-4,489,673,143	100.1%	－
	1.剰余金			4,489,673,143	-4,489,673,143	100.1%	－
		1.剰余金		4,489,673,143	-4,489,673,143	100.1%	－
合　計			5,485,802,758	5,466,856,691	18,946,067	85.2%	99.7%

予備費4,442,102,758円から、以下の費目に29,944,698円の流用を行なった。　（単位：円）

費　目	改定予算額	当初予算額	予備費流用額
ＵＳＲ活動費	5,444,525	5,000,000	444,525
能力開発費	9,418,248	9,200,000	218,248
役員教育費	11,349,783	10,000,000	1,349,783
職務・行動手当	77,568,000	77,000,000	568,000
社会保険料	45,370,388	40,000,000	5,370,388
水道光熱費	250,332	250,000	332
修繕・営繕費	872,850	500,000	372,850
国内施設関連費	146,000	100,000	46,000
海外施設関連費	28,453,909	16,500,000	11,953,909
医療共済補助金	82,434,150	80,000,000	2,434,150
雑損失	7,186,513	0	7,186,513
		予備費流用額合計	29,944,698

2017年度　三越伊勢丹グループ労働組合　一般会計

貸借対照表（2018年6月30日現在）

（単位：円）

資産の部		負債及び正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
現金	274,412	預り金	148,451
預金	649,800,685	長期前受金	4,312,833
有価証券	3,838,383,528	未払金	2,933,034
未収金	1,769,844	（負債合計）	(7,394,318)
未収収益	400		
前払金	2,467,570		
立替金	58,189		
建物および建物付属設備	156,586,876		
什器備品	7,329,981		
土地	474,900	固定資産等見返勘定	171,778,924
出資金	11,500,000	剰余金	4,489,673,143
保証金	200,000	（正味財産合計）	(4,661,452,067)
資産合計	4,668,846,385	負債及び正味財産合計	4,668,846,385

財産目録（2018年6月30日現在）

（単位：円）

摘要			金額
（資産の部）			
現金			274,412
預金	三菱東京UFJ銀行 新宿通支店	普通預金 No 4053581	97,999,040
	三菱東京UFJ銀行 新宿通支店	普通預金 No 2547179	35
	中央労働金庫 新宿支店	普通預金 No 2198894	38,514,149
	東海労働金庫 本店	普通預金 No 1775502	2,997,626
	静岡県労働金庫 本店	普通預金 No 2802928	1,804,631
	北海道労働金庫 本店	普通預金 No 5083411	131,846
	北海道労働金庫 函館支店	普通預金 No 5085481	28,005
	九州労働金庫 天神支店	普通預金 No 2888071	10,988,262
	新潟県労働金庫 東新潟支店	普通預金 No 1579455	1,265,950
	SBI証券	一般口座 No Z39-0331163	242,638,932
	楽天証券 本店	総合取引口座 No 703-864001	183,497,260
	三井住友信託銀行 日本橋営業部	普通預金 No 8665703	2,373,374
（外貨預金）	ｾﾝﾄﾗﾙﾊﾟｼﾌｨｯｸﾊﾞﾝｸ 本店	普通預金 No 1001394244	2,214,703
（外貨預金）	ｾﾝﾄﾗﾙﾊﾟｼﾌｨｯｸﾊﾞﾝｸ 本店	当座預金 No 4000132132	65,346,872
＊預金計			649,800,685
有価証券	投資信託 ﾆｯｾｲ 日本ｲﾝｶﾑｵｰﾌﾟﾝ（Jﾎﾞﾝﾄﾞ）	150,000,000口	149,460,000
	投資信託 ｺｰﾎﾟﾚｰﾄﾎﾞﾝﾄﾞｲﾝｶﾑ（泰平航路） ﾍｯｼﾞ型	93,567,018口	100,000,000
	投資信託 ｺｰﾎﾟﾚｰﾄﾎﾞﾝﾄﾞｲﾝｶﾑ（泰平航路） ﾉｰﾍｯｼﾞ型	88,942,231口	100,000,000
	投資信託 ＤＷＳ ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ公益債券 Aｺｰｽ	140,522,045口	150,000,000
	投資信託 ＤＷＳ ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ公益債券 Bｺｰｽ	154,395,173口	180,000,000
	投資信託 東京海上 ﾆｯﾎﾟﾝ世界債券 ﾍｯｼﾞ有り	99,000,099口	100,000,000
	投資信託 東京海上 ﾆｯﾎﾟﾝ世界債券 ﾍｯｼﾞ無し	129,646,516口	160,000,000
	投資信託 ＳＭＢＣ 日興外貨建MMF(USドル)	US$191,742.34	21,195,198
	投資信託 ＳＭＡＭ 米国国債7-10年型ﾌｧﾝﾄﾞ（為替ﾍｯｼﾞあり）	15,000口	150,000,000
	投資信託 ＳＭＡＭ 米国国債5-10年型ﾌｧﾝﾄﾞ（為替ﾍｯｼﾞあり）	15,000口	150,000,000
	投資信託 欧州国債スマートセレクト1802（為替ヘッジあり）	150,000,000口	150,000,000
	金銭信託 三井住友信託銀行 ｽﾀｰﾄﾗｽﾄ（1ヶ月）	400,000,000円	400,000,000
	円建外債 ﾘｰﾏﾝﾌﾞﾗｻﾞｰｽﾞﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽｲﾝｸ円貨社債	100,000,000円	1,000
	種類株式 ﾄﾖﾀ自動車AA種類株	10,000株	105,980,000
	（株）三越伊勢丹ﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ株式	3,228,191株	1,921,747,330
＊有価証券計			3,838,383,528

未収金	組合員拠出金未収分、他	1,769,844
未収収益	未経過受取利息	400
前払金	団体保険代	2,467,570
立替金	支部支援団体寄贈品代、他	58,189
建物および建物付属設備	ﾘｿﾞｰﾄ施設（ﾊﾜｲｵｱﾌ島ﾜｲｷｷﾋﾞｰﾁﾀﾜｰ2701）	102,134,076
	ﾘｿﾞｰﾄ施設（ﾊﾜｲｵｱﾌ島ﾜｲｷｷﾋﾞｰﾁﾀﾜｰ2504）	52,278,948
	組合事務所(電気工事他)	1,456,591
	由布院ｸﾗﾌﾞ	717,261
＊建物および建物付属設備計		156,586,876
什器備品	ﾘｿﾞｰﾄ施設（ﾊﾜｲｵｱﾌ島ﾜｲｷｷﾋﾞｰﾁﾀﾜｰ2701・2504）	5,646,818
	組合事務所 什器備品(金庫、他)	1,683,163
＊什器備品計		7,329,981
土地	由布院ｸﾗﾌﾞ	474,900
出資金	中央労働金庫 新宿支店	1,110,000
	新潟県労働金庫 東新潟支店	600,000
	静岡県労働金庫 本店	659,000
	九州労働金庫 天神支店	4,003,000
	北海道労働金庫 本店	400,000
	北海道労働金庫 函館支店	100,000
	東海労働金庫 本店	4,628,000
＊出資金計		11,500,000
保証金	由布院ｸﾗﾌﾞ	200,000
＊保証金計		200,000
合計		4,668,846,385
(負債の部)		
未払金	本部広報誌発刊代、他	2,933,034
預り金	住民税、社会保険、他	148,451
長期前受金	ハワイコンドミニアム改装時のアストン社からの改装立替金	4,312,833
合計		7,394,318
(正味財産の部)		
固定資産等見返勘定		171,778,924
剰余金		4,489,673,143
正味財産合計		4,661,452,067

<重要な会計方針>

1. 資金の範囲には、現金・預金・有価証券・未収金・未収収益・仮払金・前払金・立替金・未払金・預り金を含めている。
2. 有価証券の評価は移動平均法に基づく原価法による。なお、取得価額と債券金額との差額が金利の調整と認められるものについては、償却原価法を採用している。
3. 有形固定資産については、定額法による減価償却を実施している。

剰余金の内訳

(単位：円)

勘定科目	期首残高	増加	減少	2018/6/30現在
現金	283,157	11,223,428	11,232,173	274,412
預金	610,923,559	1,484,310,686	1,445,433,560	649,800,685
有価証券	3,889,650,040	350,711,788	401,978,300	3,838,383,528
未収金	2,792,711	6,625,938	7,648,805	1,769,844
未収収益	82,427	600	82,627	400
仮払金	0	6,043,991	6,043,991	0
前払金	2,789,777	2,688,430	3,010,637	2,467,570
立替金	258,016	33,103,872	33,303,699	58,189
小計	4,506,779,687	1,894,708,733	1,908,733,792	4,492,754,628
未払金	19,255,717	2,945,444	19,268,127	2,933,034
預り金	252,359	11,135,985	11,239,893	148,451
小計	19,508,076	14,081,429	30,508,020	3,081,485
差引残高	4,487,271,611	1,880,627,304	1,878,225,772	4,489,673,143

固定資産等見返勘定の内訳

(単位：円)

勘定科目	期首残高	増加	減少	2018/6/30現在
建物および建物付属設備	156,192,359	14,065,063	13,670,546	156,586,876
什器備品	1,512,930	7,398,906	1,581,855	7,329,981
土地	474,900	0	0	474,900
建設仮勘定	8,960,000	0	8,960,000	0
出資金	11,500,000	0	0	11,500,000
保証金	200,000	0	0	200,000
合計	178,840,189	21,463,969	24,212,401	176,091,757
長期前受金	0	4,520,000	207,167	4,312,833
合計	0	4,520,000	207,167	4,312,833
固定資産等見返勘定最終合計				171,778,924

減価償却明細表

(単位：円)

資産の種類	取得価額	当期償却額	当期除却額	償却額累計	2018/6/30現在
建物および建物付属設備	390,701,894	12,964,617	705,929	234,115,018	156,586,876
什器備品	9,714,637	1,581,855	0	2,384,656	7,329,981
合計	400,416,531	14,546,472	705,929	236,499,674	163,916,857

2017年度　三越伊勢丹グループ労働組合　闘争特別会計

収支決算表（2017年7月1日～2018年6月30日）

（収入の部）　（単位：円）

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
1.経常収入			300,000	244,593	55,407	0.5%	81.5%
	1. 受取利息		300,000	244,593	55,407	450.4%	81.5%
		1. 受取利息	300,000	244,593	55,407	450.4%	81.5%
2.前年度繰越金			720,018,758	720,018,758	0	45.2%	100.0%
	1.前年度繰越金		720,018,758	720,018,758	0	45.2%	100.0%
		1.前年度繰越金	720,018,758	720,018,758	0	45.2%	100.0%
合　　計			720,318,758	720,263,351	55,407	30.8%	100.0%

（支出の部）

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
1.事業費			10,000	3,132	6,868	93.5%	31.3%
	1.雑費		10,000	3,132	6,868	93.5%	31.3%
		1.雑費	10,000	3,132	6,868	93.5%	31.3%
2.一般会計繰入金			19,286,556	0	19,286,556	0.0%	0.0%
	1.一般会計繰入金		19,286,556	0	19,286,556	0.0%	0.0%
		1.一般会計繰入金	19,286,556	0	19,286,556	0.0%	0.0%
3.予備費			701,022,202		701,022,202	－	－
			(0) 701,022,202		701,022,202	－	－
4.剰余金				720,260,219	-720,260,219	100.0%	－
	1.剰余金			720,260,219	-720,260,219	100.0%	－
		1.剰余金		720,260,219	-720,260,219	100.0%	－
合　　計			720,318,758	720,263,351	55,407	30.8%	100.0%

2017年度　三越伊勢丹グループ労働組合　闘争特別会計

貸借対照表（2018年6月30日現在）　　（単位：円）

資産の部		負債及び正味財産の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
預　金	20,238,719	（負債合計）	(0)
有価証券	700,000,000		
未収収益	21,500	剰余金	720,260,219
		（正味財産合計）	(720,260,219)
資産合計	720,260,219	負債及び正味財産合計	720,260,219

財産目録（2018年6月30日現在）　　（単位：円）

摘　要		金　額
（資産の部）		
預　金	三菱東京UFJ銀行　新宿通支店　普通預金 No 0540510	20,238,719
＊預金計		20,238,719
有価証券	金銭信託　三井住友信託銀行　J-HOPE（3ヶ月）	400,000,000
	金銭信託　三井住友信託銀行　ｽﾀｰﾄﾗｽﾄ（1ヶ月）	300,000,000
＊有価証券計		700,000,000
未収収益	未経過受取利息	21,500
合　計		720,260,219
（負債の部）		
合　計		0
（正味財産の部）		
剰余金		720,260,219
正味財産合計		720,260,219

＜重要な会計方針＞

1. 資金の範囲には、預金・有価証券・未収収益を含めている。
2. 有価証券の評価は移動平均法に基づく原価法による。なお、取得価額と債券金額との差額が金利の調整と認められるものについては、償却原価法を採用している。

剰余金の内訳　　（単位：円）

勘定科目	期首残高	増　加	減　少	2018/6/30現在
預　金	19,998,046	19,527,370	19,286,697	20,238,719
有価証券	700,000,000	0	0	700,000,000
未収収益	20,712	41,800	41,012	21,500
小　計	720,018,758	19,569,170	19,327,709	720,260,219
差引残高	720,018,758	19,569,170	19,327,709	720,260,219

2017年度　三越伊勢丹グループ労働組合　愛の募金特別会計

収支決算表（2017年7月1日～2018年6月30日）

（収入の部）　（単位：円）

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
1.経常収入			3,410,000	3,065,344	344,656	85.2%	89.9%
	1.愛の募金		3,400,000	3,065,264	334,736	85.2%	90.2%
		1.愛の募金	3,400,000	3,065,264	334,736	85.2%	90.2%
	2.受取利息		10,000	80	9,920	95.2%	0.8%
		1.受取利息	10,000	80	9,920	95.2%	0.8%
2.前年度繰越金			5,779,019	5,779,019	0	123.2%	100.0%
	1.前年度繰越金		5,779,019	5,779,019	0	123.2%	100.0%
		1.前年度繰越金	5,779,019	5,779,019	0	123.2%	100.0%
合　　計			9,189,019	8,844,363	344,656	106.7%	96.2%

（支出の部）

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
1.事業費			3,702,998	3,695,698	7,300	147.2%	99.8%
	1.事業費		3,692,998	3,692,998	0	147.1%	100.0%
		1.事業費	3,692,998	3,692,998	0	147.1%	100.0%
	2.雑費		10,000	2,700	7,300	–	27.0%
		1.雑費	10,000	2,700	7,300	–	27.0%
2.予備費			5,486,021		5,486,021	–	–
			(192,998) 5,486,021		5,486,021	–	–
3.剰余金				5,148,665	-5,148,665	89.1%	–
	1.剰余金			5,148,665	-5,148,665	89.1%	–
		1.剰余金		5,148,665	-5,148,665	89.1%	–
合　　計			9,189,019	8,844,363	344,656	106.7%	96.2%

予備費5,679,019円から、以下の費目に192,998円の流用を行なった。　（単位：円）

費　　目	改定予算額	当初予算額	予備費流用額
事業費	3,692,998	3,500,000	192,998
		予備費流用額合計	192,998

2017年度　三越伊勢丹グループ労働組合 愛の募金特別会計

貸借対照表（2018年6月30日現在）　（単位：円）

資産の部		負債及び正味財産の部	
科　目	金　額	科　目	金　額
預　金	5,196,842	未払金	48,189
災害支援積立預金	2,472,522	（負債合計）	(48,189)
		災害支援積立金	2,472,510
		剰余金	5,148,665
		（正味財産合計）	(7,621,175)
資産合計	7,669,364	負債及び正味財産合計	7,669,364

財産目録（2018年6月30日現在）　（単位：円）

摘　要			金　額
（資産の部）			
預　金	三菱東京UFJ銀行　新宿通支店	普通預金 No.1553871	5,196,842
＊預金計			5,196,842
災害支援積立預金	三菱東京UFJ銀行　新宿通支店	普通預金 No.0180616	2,472,522
合　計			7,669,364
（負債の部）			
未払金			48,189
合　計			48,189
（正味財産の部）			
災害支援積立金			2,472,510
剰余金			5,148,665
正味財産合計			7,621,175

<重要な会計方針>

1. 資金の範囲には、現金・預金・立替金・未払金・預り金を含めている。

剰余金の内訳　（単位：円）

勘定科目	期首残高	増　加	減　少	2018/6/30現在
現　金	0	1,691,197	1,691,197	0
預　金	5,779,019	3,111,708	3,693,873	5,196,854
立替金	0	27,441	27,441	0
小　計	5,779,019	4,830,346	5,412,511	5,196,854
未払金	0	48,189	0	48,189
預り金	0	12,443	12,443	0
小　計	0	60,632	12,443	48,189
差引残高	5,779,019	4,769,714	5,400,068	5,148,665

2017年度の事業内容（2018年6月30日現在　単位：円）

○愛の募金による事業

<災害支援等>	
平成29年大分大雨災害義援金（ＵＡゼンセン）	150,000
平成29年福岡大雨災害義援金（ＵＡゼンセン）	250,000
平成29年秋田県大雨災害義援金	150,000
2017年南アジア水害救援金	100,000
UAゼンセン緊急支援カンパ	200,000
2017年バングラディッシュ避難民救援金	100,000
平成29年台風第18号災害義援金	150,000
平成29年台風第21号災害義援金	150,000
2017年イラン・イラク地震被災者救援金	100,000
平成29年九州北部豪雨災害・従業員被災者義援金	600,000
平成30年大阪府北部地震災害義援金	150,000
合　計	2,100,000

<本部支援団体>	
ＵＡゼンセン愛の募金	400,000
日本ユニセフ協会	100,000
日本自然保護協会	100,000
日本盲導犬協会	100,000
<支部支援団体>	
羊ヶ丘養護園　（札幌丸井三越支部）	49,950
さゆり園　（函館丸井今井支部）	36,146
エコー療育園　（仙台三越支部）	49,020
新潟もぐら会　（新潟三越伊勢丹支部）	49,904
いこいの家　（静岡伊勢丹支部）	46,720
ひばり荘　（名古屋三越支部）	49,800
やぎ園　（広島三越支部）	50,000
讃岐学園　（高松三越支部）	49,982
親和園　（松山三越支部）	49,939
愛生会　（岩田屋三越支部）	48,720
うらわ学園　（三越伊勢丹支部浦和分会）	43,995
喜楽家　（三越伊勢丹支部松戸分会）	35,542
松ヶ丘園　（三越伊勢丹支部相模原分会）	45,360
府中はるみ福祉園　（三越伊勢丹支部府中分	49,418
なかよし会　（エムアイカード支部）	45,489
セカンドハーベスト・ジャパン　（ＩＭＦＳ支部）	48,189
川崎授産学園　（関連G統括支部Ⅱ）	50,000
調布学園　（関連G統括支部Ⅲ）	49,744
東京都盲人福祉協会（関連G統括支部Ⅳ）	45,080
合　計	1,592,998

2017年度　三越伊勢丹グループ労働組合　ＵＳＲ特別会計

2017年10月で廃止

収支決算表（2017年7月1日～2018年6月30日）

（収入の部）　（単位：円）

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
1.経常収入			10,000	20	9,980	37.7%	0.2%
	1.受取利息		10,000	20	9,980	37.7%	0.2%
		1.受取利息	10,000	20	9,980	37.7%	0.2%
2.繰入金収入			5,000,000	2,000,000	3,000,000	16.7%	40.0%
	1.一般会計繰入金収入		5,000,000	2,000,000	3,000,000	16.7%	40.0%
		1.一般会計繰入金収入	5,000,000	2,000,000	3,000,000	16.7%	40.0%
3.前年度繰越金			2,383,184	2,383,184	0	73.8%	100.0%
	1.前年度繰越金		2,383,184	2,383,184	0	73.8%	100.0%
		1.前年度繰越金	2,383,184	2,383,184	0	73.8%	100.0%
合　　計			7,393,184	4,383,204	3,009,980	28.8%	59.3%

（支出の部）

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
1.事業費			4,126,768	2,918,897	1,207,871	22.7%	70.7%
	1.本部ＵＳＲ費		3,500,000	2,476,123	1,023,877	20.4%	70.7%
		1.本部ＵＳＲ費	3,500,000	2,476,123	1,023,877	20.4%	70.7%
	2.支部ＵＳＲ費		600,956	416,962	183,994	66.5%	69.4%
		1.三越伊勢丹支部ＵＳＲ費	11,680	11,680	0	49.5%	100.0%
		2.北海道統括支部ＵＳＲ費	10,000	648	9,352	0.3%	6.5%
		3.仙台三越支部ＵＳＲ費	20,000	5,592	14,408	17.1%	28.0%
		4.名古屋三越支部ＵＳＲ費	40,000	19,632	20,368	19.9%	49.1%
		5.広島三越支部ＵＳＲ費	10,000	1,292	8,708	6.0%	12.9%
		6.高松三越支部ＵＳＲ費	10,000	0	10,000	0.0%	0.0%
		7.松山三越支部ＵＳＲ費	20,000	0	20,000	0.0%	0.0%
		8.岩田屋三越支部ＵＳＲ費	369,276	369,276	0	173.7%	100.0%
		9.新潟三越伊勢丹支部ＵＳＲ費	10,000	0	10,000	0.0%	0.0%
		10.ｴﾑｱｲｶｰﾄﾞ支部ＵＳＲ費	10,000	0	10,000	0.0%	0.0%
		11.ｴﾑｱｲﾌｰﾄﾞｽﾀｲﾙ支部ＵＳＲ費	10,000	0	10,000	0.0%	0.0%
		12.関連ｸﾞﾙｰﾌﾟ統括支部ⅠUSR費	50,000	8,452	41,548	96.3%	16.9%
		13.関連ｸﾞﾙｰﾌﾟ統括支部ⅡUSR費	10,000	390	9,610	10.1%	3.9%
		14.関連ｸﾞﾙｰﾌﾟ統括支部ⅢUSR費	10,000	0	10,000	0.0%	0.0%
		15.関連ｸﾞﾙｰﾌﾟ統括支部ⅣUSR費	10,000	0	10,000	-	0.0%
	3.雑費		25,812	25,812	0	31.8%	100.0%
		1.雑費	25,812	25,812	0	31.8%	100.0%
2.一般会計繰入金			2,383,184	1,464,307	918,877	-	61.4%
	1.一般会計繰入金		2,383,184	1,464,307	918,877	-	61.4%
		1.一般会計繰入金	2,383,184	1,464,307	918,877	-	61.4%
3.予備費			883,232		883,232	–	–
			(186,768) 883,232		883,232	–	–
合　　計			7,393,184	4,383,204	3,009,980	28.8%	59.3%

予備費1,070,000円から、以下の費目に186,768円の流用を行なった。　（単位：円）

費　　目	改訂予算額	当初予算額	予備費流用額
三越伊勢丹支部ＵＳＲ費	11,680	10,000	1,680
岩田屋三越支部ＵＳＲ費	369,276	200,000	169,276
雑費	25,812	10,000	15,812
		予備費流用額合計	186,768

2017年度　三越伊勢丹グループ労働組合　組合特別融資特別会計

収支決算表（2017年7月1日～2018年6月30日）

2017年10月で廃止

（収入の部）　（単位：円）

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
1.経常収入			10,000	184	9,816	0.0%	1.8%
	1．受取利息		10,000	184	9,816	29.5%	1.8%
		1．受取利息	10,000	184	9,816	29.5%	1.8%
2.前年度繰越金			30,087,839	30,087,839	0	105.1%	100.0%
	1.前年度繰越金		30,087,839	30,087,839	0	105.1%	100.0%
		1.前年度繰越金	30,087,839	30,087,839	0	105.1%	100.0%
合　　計			30,097,839	30,088,023	9,816	100.0%	100.0%

（支出の部）

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
1.一般会計繰入金			30,088,023	30,088,023	0	-	100.0%
	1.一般会計繰入金		30,088,023	30,088,023	0	-	100.0%
		1.一般会計繰入金	30,088,023	30,088,023	0	-	100.0%
2.予備費			9,816		9,816	–	–
			(184) 9,816		9,816	–	–
合　　計			30,097,839	30,088,023	9,816	100.0%	100.0%

予備費10,000円から、以下の費目に184円の流用を行なった。　（単位：円）

費　　目	改訂予算額	当初予算額	予備費流用額
一般会計繰入金	30,088,023	30,087,839	184
		予備費流用額合計	184

２０１７年度　三越伊勢丹グループ労働組合　職員退職金積立特別会計

収支決算表（2017年7月1日～2018年6月30日）

2017年10月で廃止

（収入の部）

（単位：円）

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
1.経常収入			10,000	11	9,989	26.8%	0.1%
	1.受取利息		10,000	11	9,989	26.8%	0.1%
		1.受取利息	10,000	11	9,989	26.8%	0.1%
2.前年度繰越金			2,373,568	2,373,568	0	100.0%	100.0%
	1.前年度繰越金		2,373,568	2,373,568	0	100.0%	100.0%
		1.前年度繰越金	2,373,568	2,373,568	0	100.0%	100.0%
合　　計			2,383,568	2,373,579	9,989	100.0%	99.6%

（支出の部）

款	項	目	年度予算	実績額	予算差額	前年比	予算比
1.一般会計繰入金			2,373,579	2,373,579	0	-	100.0%
	1.一般会計繰入金		2,373,579	2,373,579	0	-	100.0%
		1.一般会計繰入金	2,373,579	2,373,579	0	-	100.0%
2.予備費			9,989		9,989	–	–
			(11) 9,989		9,989	–	–
合　　計			2,383,568	2,373,579	9,989	100.0%	99.6%

予備費10,000円から、以下の費目に11円の流用を行なった。

（単位：円）

費　　目	改訂予算額	当初予算額	予備費流用額
一般会計繰入金	2,373,579	2,373,568	11
		予備費流用額合計	11

2017年度　三越伊勢丹グループ労働組合　総合貸借対照表（2018年6月30日現在）

（単位：円）

資産の部		負債及び正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
現金	274,412	未払金	2,981,223
預金	675,236,246	預り金	148,451
有価証券	4,538,383,528	長期前受金	4,312,833
未収金	1,769,844	（負債合計）	(7,442,507)
未収収益	21,900		
前払金	2,467,570		
立替金	58,189		
建物および建物付属設備	156,586,876		
什器備品	7,329,981	固定資産等見返勘定	171,778,924
土地	474,900	災害支援積立金	2,472,510
出資金	11,500,000	剰余金	5,215,082,027
保証金	200,000	(正味財産合計)	(5,389,333,461)
災害支援積立預金	2,472,522		
資産合計	5,396,775,968	負債及び正味財産合計	5,396,775,968

総合財産目録（2018年6月30日現在）

（単位：円）

摘要		金額
（資産の部）		
現金		274,412
預金	普通預金	607,674,671
	外貨預金　(611,195.72US$)	67,561,575
＊預金計		675,236,246
有価証券	（株）三越伊勢丹ﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ株式　(3,228,191株)	1,921,747,330
	有価証券諸口	2,616,636,198
＊有価証券計		4,538,383,528
未収金	組合員拠出金未収分、他	1,769,844
未収収益	未経過受取利息	21,900
前払金	団体保険代	2,467,570
立替金	支部支援団体寄贈品代、他	58,189
建物および建物付属設備	ﾘｿﾞｰﾄ施設（ﾊﾜｲｵｱﾌ島ﾜｲｷｷﾋﾞｰﾁﾀﾜｰ2701）	102,134,076
	ﾘｿﾞｰﾄ施設（ﾊﾜｲｵｱﾌ島ﾜｲｷｷﾋﾞｰﾁﾀﾜｰ2504）	52,278,948
	組合事務所(電気工事他)	1,456,591
	由布院ｸﾗﾌﾞ	717,261
＊建物および建物付属設備計		156,586,876
什器備品	ﾘｿﾞｰﾄ施設（ﾊﾜｲｵｱﾌ島ﾜｲｷｷﾋﾞｰﾁﾀﾜｰ2701・2504）	5,646,818
	組合事務所什器備品	1,683,163
＊什器備品計		7,329,981
土地	由布院ｸﾗﾌﾞ	474,900
＊土地計		474,900
出資金	労働金庫出資金、他	11,500,000
保証金	由布院ｸﾗﾌﾞ	200,000
災害支援積立預金		2,472,522
合計		5,396,775,968
（負債の部）		
未払金	本部広報誌発刊代、他	2,981,223
預り金	住民税、社会保険、他	148,451
長期前受金	ﾊﾜｲｺﾝﾄﾞﾐﾆｱﾑ改装時のｱｽﾄﾝ社からの改装立替金	4,312,833
合計		7,442,507
（正味財産の部）		
固定資産等見返勘定		171,778,924
災害支援積立金		2,472,510
剰余金		5,215,082,027
正味財産合計		5,389,333,461

<重要な会計方針>

1. 資金の範囲には、現金・預金・有価証券・未収金・未収収益・前払金・仮払金・立替金・未払金・預り金を含めている。
2. 有価証券の評価は移動平均法に基づく原価法による。なお、取得価額と債券金額との差額が金利の調整と認められるものについては、償却原価法を採用している。
3. 有形固定資産については、定額法による減価償却を実施している。

第 6 期(2018)
運動方針(案)

本部 第 6 期(2018 年度) 運動方針

テーマ	メンバー全員で直接対話を実践し、変革に向けて挑戦しよう ～1 人ひとりの想いを組織の活力へと繋げるために、直接対話をはじめとした活動に取組む 1 年間～

【第 6 期方針策定にあたっての考え方】

・2018 年 4 月より、「私たちの考え方」が新たに制定されると共に、経営計画においては「リフォーメーション」と「トランスフォーメーション」が進められるなど、経営の判断含め会社は非常に早いスピードで変化をしています。

・また、「デジタルトランスフォーメーション」や、「働き方に関する全社ルールの策定」等により、抜本的に業務のあり方が見直されるなど、私たちもこれまで以上に働き方の変革に向けて様々な取組みを進めていく必要があります。

・一方で、メンバーの多様性(企業籍、雇用形態、年齢、キャリア歴、性別、ライフスタイル、個々人の様々な環境、価値観等)の考え方が変化してきている中において、それらの「ちがい」を職場や会社の「ちから」としていくためには、組合としてメンバー1 人 1 人の声や意見をこれまで以上に吸い上げ、活動に反映していくことが重要となると考えます。

・そのため、従来の活動のあり方も抜本的に見直し、メンバーとの直接対話により重点を置いた活動を進めていきます。

【活動期間の変更について】

・これまで、一定期間における活動の実効性と継続性の観点から、活動期間に関しては、1 期 2 年間としてきましたが、現在の私たちを取り巻く環境の変化のスピードを踏まえ、この変化の中でより実効性を高めていくため、第 6 期より活動期間を再度 1 年間へと変更します。

【第 6 期運動方針の重点ポイント】

①経営対策活動の強化

・経営との対話活動について、各支部でより活発な議論ができる関係・スキームを構築する

・よりタイムリーに現場の意見を集約し、経営(会社)へフィードバックするといった、課題改善のサイクルを構築する

②メンバー接点の充実化

・メンバーの利便性向上と、より「タイムリーかつ広く報せる」ための HP や SNS 等のデジタルツールの活用

・より直接対話を推進するため、VOICE 活動のあり方や対話のためのツール(議案書や動画等)の検討

③多様化への対応

・従来の育児介護以外の分野に関する活動をスタート

・活動を企画、推進するにあたり、メンバーの「多様性」を踏まえて取組みを進める

※IMGU の考える多様性の考え方

「職場や役職・役割」「雇用形態やキャリア歴」「世代や性別、国籍」また「価値観や指向、ライフスタイル」「育児や介護、疾病や障がいなどの個々の環境」といった違いを全員が理解・受容し、メンバー全員が毎日の仕事に明るく取り組める環境の整備と風土の醸成

④執行部人財の育成

・本部教育の充実化と各支部役員教育へのサポート

【第 6 期組織について】 **※組織図は 40 ページ参照**

・活動期間の見直しに伴い、役員任期に関しても 2 年間から 1 年間へと見直しを行います。

・ソシエ・ワールドに関しては企業規模やメンバー数を踏まえ第 6 期よりソシエ・ワールド支部として位置づけます。

・その他関連グループ統括支部内の直轄分会に関しては、第 5 期からの変更は行いません。

【分野別活動方針】

○労働福祉活動

■グループ労使間での協議の推進

・グループ共通のフレームワークや制度(ステージ A・B 制度改定、60 歳以降、ベア算式等)の協議と成案化に取組みます。

■働き方改革に向けた取組み

・全支部で総実労働時間短縮、風土改革、ハラスメント対策に向けた働き方改革の議論を進めます。

■評価制度の納得性向上に向けた取組み

・従業員意識調査結果を踏まえ、納得性を高めるための施策を行います。

○経営対策活動

■リフォーメーションへの対応

・リフォーメーションに向けた議論に関して、経営へのチェック機能発揮に向けて本支部で経営との議論を進めます。

■VOICE 活動のスキーム構築によるチェック機能とパイプ機能の強化

・現場の声をよりタイムリーに経営に伝えるべく、経営対策の観点から VOICE 活動のスキームを構築します。

○ダイバーシティ推進

■新たな育児支援・介護支援の取組み

・共済会と連携した育児支援・介護支援の新たな取組みに関して検討を進めます。

■新たな支援活動に向けた研究検討

・新たな分野での取組み(障がい者雇用の働く環境の把握、疾病との両立支援、LGBT に関する環境整備等)を推進します。

○USR 活動

■支援団体との関係性の再構築

・より人的支援の推進に向け、本部・各支部支援団体への寄贈のあり方について見直しを行い、関係性の再構築を図ります。

○教育サポート活動

■ユニオンプランのあり方見直し

・全支部共通で実施しているミドルライフ、シニアライフの実施方法に関して、よりメンバーニーズに合わせた見直しを行います。

■海外流通視察セミナーの実施に向けた企画

・2019 年海外流通視察セミナーの実施に向けた企画を進めます。

○レクリエーション活動

■職場のコミュニケーション促進に向けた企画の検討

・より各職場のメンバーのニーズにあった企画を検討し、職場のコミュニケーション促進に取組みます。

○広報活動

■メンバー接点の充実化に向けた HP や SNS ツールの活用

・メンバーの利便性向上と、活動への参画を促進する、HP や SNS 等のツールの周知・充実化に取組みます。

○政治活動 **※政治活動の考え方に関しては、41 ページ参照**

■政策実現に向けた政治活動に関する議論の深耕

・単組では実現できないインフラ整備に向け、IMGU の政治活動の考え方を策定し、本部・各支部にて議論を進めます。

○組織政策

■ユニオンホットライン(仮称)の活用スタート

・組合相談専用窓口の設置とメンバーへ周知すると共に、適切な対応に向けて役員教育を実施します。

■OBOG 親睦組織との連携強化

・丹光会、丹麗会、旧友会をはじめとした全国の OBOG 親睦組織と連携を強化し、今後のあり方についての議論を深めます。

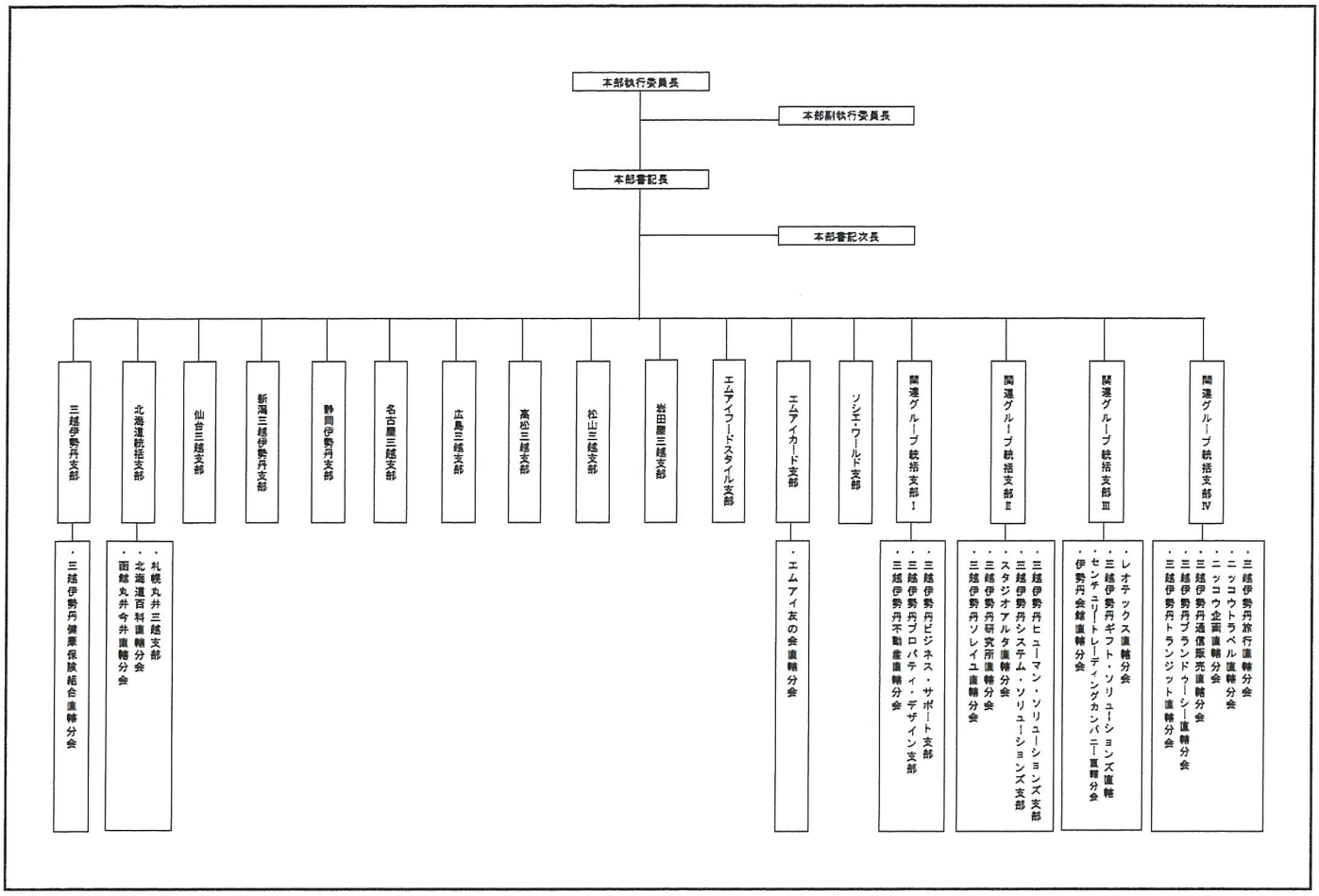
■執行部人財育成の強化

・本部での教育機会(ユニオンセミナー、ユニオンスクール)の実施と支部での教育体系構築とそのサポートに取組みます。

■執行部内ネットワークの強化

・執行部間ネットワークの強化に向け、大会・評議員会でのコミュニケーション促進等に取組みます。

＜第６期組織図＞



関連グループ統括支部　構成企業

■関連グループ統括支部Ⅰ　構成企業

・三越伊勢丹ビジネス・サポート：グループの物流業務全般・店頭支援業務、通信販売のフルフィルメント、サプライチェーン構築支援業務

・三越伊勢丹プロパティ・デザイン：商業施設の開発から設計・施工をはじめ、テナントのリーシング・開業後の施設運営・管理を一貫して請け負う

・三越伊勢丹不動産：不動産賃貸業、メンテナンス営業、管理組合、分譲販売、ゴルフ会員権事業

■関連グループ統括支部Ⅱ　構成企業

・三越伊勢丹ヒューマン・ソリューションズ：人材派遣、人材紹介、教育・研修業務、労務厚生、店内案内・販売代行におけるソリューション事業

・三越伊勢丹システム・ソリューションズ：グループＩＴ全般の戦略立案、企画提案、開発・運用

・三越伊勢丹ソレイユ：グループ企業の支援業務

・スタジオアルタ：ＣＭや番組の制作、イベント・キャンペーンの企画・運営、アルタビジョンの運営

・三越伊勢丹研究所：グループ戦略にもとづく各種調査・研究受託業

■関連グループ統括支部Ⅲ　構成企業

・レオテックス：紳士服などの製造・販売・衣料品の補整加工業務

・センチュリートレーディングカンパニー：ワインを中心とした洋酒、食材、雑貨などの輸入業

・三越伊勢丹ギフト・ソリューションズ：ギフト商材、システムの企画開発と販売

・伊勢丹会館：伊勢丹新宿本店におけるレストラン事業

■関連グループ統括支部Ⅳ　構成企業

・三越伊勢丹旅行：百貨店顧客に向けた高付加価値な旅行の企画・販売・催行

・ニッコウトラベル：国内・海外旅行に関する企画・販売・催行

・ニッコウ企画：海外旅行の企画宣伝、旅行情報誌の編集

・三越伊勢丹通信販売：カタログやテレビショッピングなどの通信販売事業

・三越伊勢丹プラン・ドゥー・シー：バンケット・レストラン・ホテル運営及び運営受託

・三越伊勢丹トランジット：カフェ・レストラン運営など飲食事業

政治活動

○ 政治活動の基本的な考え方

- IMGU は、組合員の生活の向上をめざして、労使間の取り組みでは解決できない、国や地域における様々な社会的課題を改善するために、従来から組合活動の一環として政治活動を行っています。
- 政治活動は、公職選挙法などの政治や選挙に関する法令を遵守しつつ推進するとともに、服務規律等の社内ルールを遵守し、組合活動の一環として就業時間外に行います。

○ 労働組合が行う政治活動の内容

■政治活動に対する理解促進

- 労働に関する法律の改善や産業政策など、労使の取り組みでは解決できない課題に対応するためには、政治活動が必要になります。労働組合が政治活動を行う目的や考え方について、メンバーの理解促進や定着を深める活動を行います。

■公民権行使活動

- 選挙権の行使は、日本国民の権利であり、市民としての義務といえます。議会制民主主義や政治の仕組みを理解し、よりよい社会づくりに参画することは社会的にも求められています。
- 労働組合は、メンバーに対し、政治信条等にかかわらず、市民としての政治参画や公民権の行使を促す活動を行います。

■国会や地方議会の議員および候補者に対する支援活動

- IMGU は、国や地域における生活者や働く者にとっての課題、また流通サービス産業の課題を解決するための政策実現を目的として、そのような政策に取り組む国会や地方議会の議員およびその候補者に対する支援活動を行います。
- 支援活動に際しては、政治に対する理解促進や公民権行使活動を行いながら、メンバーの理解や会社を含め各関係者へも配慮しながら、支部ごとに実施可能な活動を行います。

○ 第 5 期に行った主な政治活動

■悪質クレーム署名

- 数時間に及ぶ拘束や暴言などの「悪質クレーム」は従業員のストレスや職場の魅力低下につながります。これを抑止する対策を進めるため、U A ゼンセンの呼びかけで署名活動を実施し、IMGU で 2 万筆以上、全国で 176 万筆の署名が集まりました。
- 署名は内閣府や関係省庁に提出され、悪質クレームを無くすための法律制定や、必要な対策の実施を求めるための大きな力となります。

■「田村まみ」さんの支援活動

- 7 月の本部執行委員会にて、組織内議員候補の「田村まみ」さんの講演会を実施しました。講演会では、総合スーパーの組合役員であった田村さんが立候補を決意するに至った経緯や、主な政策についてお話いただきました。
- UA ゼンセンの要請のもとづき、田村さんを支援するための後援会加入活動を開始しました。

【田村まみさん　支援活動】

- IMGU は、上部団体の UA ゼンセンが推薦し、来年の夏に行われる予定の参議院選挙に立候補する予定の田村まみさんを支援するため、現在、各支部において「田村まみ後援会」への入会促進活動を行っています。
- 田村さんは、私たちと同じ流通サービス業（イオンリテール）で組合役員を経験された方です。私達に関わりが深い様々な政策課題を解決するために、立候補を予定しています。

「田村まみ」さんが取り組もうとしている主な政策課題

『休日保育などの充実』
子育てしながら安心して働けるように、子育て支援策の充実に取り組みます。

『悪質クレームへの対応』
サービスを提供する側と受ける側が共に尊重される社会めざします。

『食品ロスへの対応』
地球環境に配慮したエコ消費を推進します。

【田村まみ 略歴】
東京都生まれ広島育ち
同志社大学神学部卒業
イオンリテールの前身
ジャスコ株式会社入社
食品部門に勤務
労働組合役員を経験

【公式ホームページ】
政策実現に向けた活動を定期的にお知らせしています。



三越伊勢丹支部 第６期(2018年度) 運動方針

テーマ	一人ひとりの「ちがい」を「ちから」に ～変化と向き合い、誰もが輝ける職場づくりを全員で前進させよう～

今期は「働き方改革」や「風土の改革」、「人事制度の整備」、「ダイバーシティ推進」を中心に、全ての活動を通じて、前期と同様のテーマである"様々なちがいのある仲間同士が、持てる力を最大限発揮できる環境・風土づくり"をさらに前進させます。また企業を取り巻く環境は大きく変化し、会社は「リフォーメーション」と「トランスフォーメーション」を掲げていることから、雇用の確保を最優先にチェックとサポート（「経営対策」）の取組みを一層強化します。

○経営対策活動

・三越伊勢丹にとって大きな転換期にあることから、経営対策活動を強化します。リフォーメーション（収益力強化）の取組みに対しては、本部と連携し経営や職場との対話を密におこないながら、最も重要な労働条件である雇用を最大限確保することを念頭に取り組みます。トランスフォーメーション（成長と発展）の取組みに対しては「企業の収益は私たちの労働条件の源泉である」ことから、実現にむけたメンバーへの情報共有や課題の解決など、チェックとサポート機能を充実させます。

○労働福祉活動

■人事に関わる諸制度への取組み

・抜本的な人事・賃金制度の見直しの取組みとして「公平・公正」「チャレンジする風土」「中長期のやりがい・働きがい」「一定の安心感」を目的に社員ステージ C・メイト社員の賃金制度改定や、賞与制度のあり方などを協議します。労使通年協議については、機関会議や VOICE を通じメンバーの意見を反映させます。

・これまでの取組みや今後の制度改定にあたって、新たな制度の職場への理解や定着にむけても取組みます。

■働く環境の整備

・VOICE 等を通じて効果性の高い業務改善の取組みを抽出し労使会議を通じた改善につなげます。また、「働きやすさ日本一」の実現にむけて、年間所定労働時間の短縮についても労使で検討します。

・職場の風土改革の取組みとして、ハラスメント予防の取組みや、職場におけるコミュニケーションのあり方を明確化し、実現にむけた取組みを検討します。

○ダイバーシティ推進

・育児・介護にとらわれない「広義なダイバーシティ」の観点では、全ての仲間がやりがいを感じられる職場環境と生産性向上を目指します。最初の取組みとして、組合役員に対して IMGU のダイバーシティの考え方や、知識の啓発を図ります。

・育児・介護サポート活動では、VOICE 活動やセミナーなど当事者に対するサポート活動に加え、「育児・介護サポート百科」の周知や活用を通じて、周囲のメンバーとのコミュニケーションの円滑化につなげます。

○VOICE 活動

・第６期の重要なテーマである、「経営対策活動」「労働福祉活動（人事制度・働く環境の整備）」「ダイバーシティの推進」の各活動で掲げる取組みの実現にむけて VOICE 活動を推進・強化します。

・メンバーズ VOICE はメンバーとの直接対話を重視しますが、メンバーとの接点を拡大し今まで以上の参加や理解促進、意見集約にむけ、口頭説明以外にも WEB 等を活用した開催や参加の方法についても検討します。

・テーマ別 VOICE は、人事制度や働く環境の整備にむけた「共通テーマ」と、部門や所属の課題抽出や解決にむけた「個別テーマ」を開催します。個別テーマでは「課題設定→VOICE→経営との対話→フィードバック」のサイクルを実現します。

○教育活動

・ユニオンプラン（セカンドプラン・フレッシュプラン）では、従来の『キャリア・健康・マネー』の考え方をベースに、①メンバーの属性による仕事や生活面への課題対応②働きやすい職場環境の実現に向けたカリキュラム導入について検討します。 また受講後のフォロー体制構築やカリキュラムの一部を対象者以外のメンバーにも情報提供する講演会も実施します。

○広報活動

・支部広報誌 VOICE times では、職場風土や働き方改革の実現にむけ参考となる情報や、私たち一人ひとりが仕事と生活の充実させる上で有益な情報を提供します。職場への周知や見やすさなどの観点からデジタル化も検討します。

・WEB での支部活動報告は LINE の登録者数拡大と定期的な発信を通じ、メンバーが活動を知る機会を充実させます。

○USR 活動

・社会福祉を目的とした支援団体へ支援活動は支部全体への情報発信をおこないます。また、自然環境保全を目的とした「干潟清掃」や、「動物ボランティア」など、メンバーに親しみやすい活動の企画を通じ、より多くのメンバーが USR 活動に参加できる環境を整備します。

北海道統括支部 第６期(2018 年度) 運動方針

テーマ	北海道統括支部で働くメンバー、一人ひとりの新たな「誇り」を共創する

多様な立場のメンバーが対話によって繋がり、コミュニティを築き、連携を深めながら、北海道統括支部の札幌丸井三越、函館丸井今井、北海道百科で働くメンバー、一人ひとりの新たな「誇り」を共に創り上げていく（＝共創）活動を進めます。

北海道統括支部で働くメンバーが「仕事にやりがい」を感じ、そこで働く「労働条件に満足」と「働くことが出来て良かった」と感じること、そして「誇り」と「自信」を持って働き続ける企業の実現を目指します。

○ＶＯＩＣＥ活動

・活動の原点となるＶＯＩＣＥ活動をはじめ、現場活動を通じたメンバーと組合役員、メンバー同士の接点強化、意見交換が出来る場づくりに取り組みます。

・メンバーとの対話をより活性化させるテーマ別ＶＯＩＣＥ（雇用形態、職務など）やエリア別ＶＯＩＣＥ（職場、小型店など）の定期開催、参加率向上へは現場兼任役員による対話や、出席確認などの連携強化を行い運営改善に取り組みます。

○経営対策活動

・各企業の経営懇話会や職場懇話会を通じた経営のチェック機能、今期の重点活動として位置付けるＶＯＩＣＥ活動や、組合役員を通じた現場実態把握により経営との対話を充実させ、様々な課題解決へ繋げるパイプ機能として活動に取り組みます。

○労働福祉活動

・第 5 期までに構築してきた土台のさらなる磨き上げや、将来の労務上の課題を見据えながら、従業員が未来に望む労働条件を把握し、安心とやりがいを実感し働き続けられる環境へ「中期に目指す労働条件」を策定し、各企業の労使協議を進めます。

・2018 年度労使通年協議は、各支部分会で基本賞与の引き上げや、人事制度・人事体系の再構築、働く環境整備への協議を行います。さらに札幌は 60 歳以降の活躍推進や多様な働き方への制度の検討、函館はグループ一定水準への待遇改善や定年後の働き方と賃金水準の検討、百科は成長に繋がる教育体系や働く環境の充実を目指し、労使協議に取り組みます。

○レクリエーション活動

・各支部分会の団結会やスポーツレクでは、さらなる一体感醸成や交流拡大へ、参加人数向上を目指す取り組みを行います。

・新たなレクリエーションとして、札幌は趣味や学びをテーマとした新たなコミュニティ活性化に繋がるイベント、函館は好評企画であるバスレクのさらなる参加規模拡大に繋がるイベント、百科は団結会以外のイベント開催を行います。

・団結会に参加出来ない遠隔地店舗では、職場内懇親の取り組みとして、職場懇親会補助を申請利用が出来るようにします。

○教育サポート活動

・統括支部としてのユニオンプラン構築やさらに満足度を高める取り組み、メンバーの見聞を深める流通や生産地などの視察セミナー実施に加え、自己研鑽意欲を高めるキャリアセミナーとライフの充実に繋がる新たなセミナー開催や、自己啓発支援制度の利用促進を各支部分会で行います。

○ダイバーシティ活動

・育児活動は制度利用者のみならず、育児に携わるメンバー交流などコミュニティの輪が広がる活動を行います。

・介護活動は不安や悩みを緩和し、前向きに働き続けられる環境へ、情報交換の場や各エリアで専門的な相談が出来る個別相談会の定期開催を行います。

・多様性への理解や活躍し続けられる環境整備へ向けて、ＬＧＢＴ理解促進、障がい者雇用の働く環境把握などを進めます。

○ＵＳＲ活動

・札幌は「羊ヶ丘養護園」、函館は「乳児院さゆり園」への人的支援と愛の募金寄贈の継続、3.11 チャリティイベントや募金活動を通じた「福島の子どもたちを守る会北海道」への寄贈拡大、メンバーを巻き込んだ交流支援の取り組みを行います。

・北海道統括支部が道内企業の労働組合として、地域貢献に大きく寄与できる新たなＵＳＲ活動の検討を進めます。

○広報活動

・札幌丸三新聞や函館海峡の定期発刊、サイネージやブログの活用に加え、より組合の各活動参加や各種サービス利用促進へ繋がる広報の取り組みを行います。特にＬＩＮＥ@の会員数拡大へは、各現場活動と連動し登録推進活動を行います。

・運動方針や役員体制紹介の統括支部広報誌に加え、活動報告やメンバー交流を深める新たな広報誌の発刊を行います。

○政治活動

・私たちの働く環境改善のための政策実現（悪質クレームへの対策や休日保育充実など）に向けた活動を進めます。

○組織政策

・百科分会は組合員数拡大に伴い定数を見直し、よりメンバーの声を汲み取る役割として分会執評を本州から選出します。

仙台三越支部 第６期(2018 年度) 運動方針

テーマ	一人ひとりがチャレンジできる、みんなが創る ～ONE for ALL、ALL for ONE～

第６期は「仙台三越＝日本一働きやすい会社」を目指す１年とします。働きやすい会社となるために、『安心して働くことができること』・『互いのことを理解し一体感のある組織であること』・『一人ひとりのチャレンジすることが認められる組織であること』が必要です。『私たちが置かれている状況・やらなければいけないこと』を正しく理解するための VOICE 活動や、『ワーク・ライフ両面における学び』の機会を創出することに注力し、仙台三越で働く全メンバーが主体となって共に前に進むことができるよう組合活動を推進します。

○VOICE 活動

■ポイントの明確な発信とメンバーの声を集約することに重点を置いた VOICE 活動の推進

・メンバーズ VOICE を 7・11・2 月の年間３回と、テーマ別 VOICE（各雇用形態別）に年間に４回以上開催。労使通年協議内容・企業状況の発信と、建設的な対話の場として実施します。

○労働福祉活動

■商環境・企業状況・メンバーの声を踏まえた、労使通年協議の推進

・業績連動賞与制度の見直し ・社員、スタッフ社員の採用賃金の見直し ・シニアスタッフの人事賃金制度の見直し

・フェロースタッフの人事賃金制度の見直しの検討 ・退職給付制度の見直し検討

・メンバー一人ひとりが、健康・健全に、安心して働くことができるように、適正な労働時間管理の推進や、店内の安全・衛生面のチェック活動に取り組み、働く環境の整備をしていきます。

・ハラスメント防止対策委員会を年４回開催。ハラスメント防止推進活動に取り組み、ハラスメントの無い環境作りを行います。

○経営対策活動

■職場会議と連動させパイプ機能をより強化した経営懇話会の実施

・年度計画に対する進捗・業績確認と、VOICE でのメンバーの声を共有し、現場の課題解決に繋げていきます。

○教育サポート活動

■キャリア・年齢とメンバーニーズに応じたユニオンプラン、支部独自セミナーと商況視察セミナーの開催

・シニアライフを 10 月に、ミドルライフを 11 月に開催し、『ライフ』面でのサポートを重視した活動を実施します。

・支部独自セミナーを年間２回と、商況視察セミナーを年間１回開催し、ライフ・ワークの両面で役立つ活動を実施します。

○ダイバーシティ推進

■育児制度利用者への VOICE とサポート活動の実施

・育児休職者、育児短時間勤務者、育児勤務からフルタイム勤務へ戻ったメンバーへ向けた VOICE を実施し、メンバー間の意見交換、声の集約と復職やフルタイムへ戻るにあたってのサポート活動を実施します。

○USR 活動

■地域・社会への貢献とメンバー間の関係性強化の推進

・一番町クリーン作戦（毎月）、3.11 復興支援活動（５月）、支部支援団体への人的物的支援活動を実施します。

○レクリエーション活動

■メンバー間の一体感を醸成できる活動の推進

・ボウリング大会（５月）、団結会（６月）、陶芸教室（３月）、休日レクを実施します。

○広報活動

■リアルタイムの情報発信による組合活動の周知とメンバー接点拡大へ向け、広報のデジタル化推進

・広報紙（毎月１回）、ブログ（毎月４回）の定期発刊・更新。SNS 会員数拡大に取り組みます。

・デジタルサイネージを活用し、動画も加えながらメンバーにわかりやすくタイムリーな情報発信をしていきます。

○政治活動

■政治活動に対する IMGU の考え方を基にした組織内候補の支援活動

・労働組合における政治活動への理解促進と、サービス・流通全体にかかわる取り組みの実現に向け、組織内における候補者の支援活動を行います。

○組織政策

■組合役員の人財育成の推進

・組合役員として、社内制度等の理解促進のための支部内での勉強会の実施や、ビジネススキル・コミュニケーションスキルの向上・マネーに関する知識等、ワーク・ライフ両面での知識・見聞を広めるための教育活動を取り組みます。

新潟三越伊勢丹支部 第6期(2018年度) 運動方針

テーマ	変化に慣れ、変化を促す。新たな発見が自身と組織の成長へ。

第6期は「変化」と「チャレンジ」をキーワードに、労使一体となって新たな発見と成長のできる組織・風土を創る1年とします。
①業務慣習や既存の考え方など、私たちを取り巻く様々な事象について「変える」トライアルを意識します。年々非常に速いスピードで変化する社会環境に対し、私たちメンバー自身が変わることに慣れ、そこから②「新たな発見と自己成長」のできる職場環境と、個人の成長が組織の成長につながる企業風土を構築していきます。

○労働福祉活動

■2018年度労使通年協議事項

・「月給制エルダースタッフの導入」「社員・メイト社員・フェロー社員の採用賃金水準」「ステージ A・B 本給制度」「賞与制度（基本賞与・業績連動賞与の割合、評価反映方法、評価による水準差）」「ステージ C-t 期間の短縮」「各雇用区分の転換・昇格試験受験資格（在籍期間・評価基準）」について労使協議を進めます。

○VOICE活動

■テーマ別VOICEの充実

・従来のテーマ別 VOICE を継続開催するとともに、新たに「ステージ B（店頭/後方スタッフ）」「ステージ C アシスタント職」「BL/SBL職」「入社5年目フェロー社員」「催事担当者」など、より細分化したメンバーより課題抽出を行い、労使通年協議への反映に活かしていきます。

・上記テーマ別 VOICE の充実を通じて、店頭・後方スタッフ・セールスなど「所属意識の差」、若手・中堅・シニアなど「世代間意識の差」について、相互理解や柔軟な意思疎通ができる環境を整備します。組織全体における働きやすさ・風通しのよさ・一体感の醸成を図ります。

○経営対策活動

■メンバーの声の共有・反映

・各種 VOICE で寄せられた声を基に、各職場の現状を経営と共有。労使一体で新潟三越伊勢丹のリフォーメーションを推進できる風土を構築します。

○教育サポート活動

■支部独自国内商況セミナーの新規開催

・メンバーから関心の高い「デジタル」と、百貨店以外の「ファッション」について、興味関心に応え知識理解を育む目的で実施します。

○レクリエーション活動

■支部独自レクの充実

・「他業種のホスピタリティ」「アウトドア」「季節の味覚」などのテーマに沿って、メンバー満足度の高いレクリエーションに深化させます。好評だった「BBQ レク in ミズベリング」の2日間開催や、「一流ホテルでのテーブルマナーセミナー」「新潟のソムリエに学ぶ、ボジョレーヌーヴォー講座」の実施を検討します。

○広報活動

■雪まろげ＆オーバードライブのメンバー参加型連載の充実

・個人に焦点を当てた「ハローページ」連載に加え、所属に焦点を当てたコミュニケーションツールの連載を新設します。

■デジタルサイネージの活用拡大

・全館イベント開催ごとに写真掲載をおこない、職場間コミュニケーションツールとしても活用します。

○政治活動

■組織内擁立候補の支援

・労働組合における政治活動のメンバーへの理解促進を進めるとともに、私たちの働く環境改善のための政策実現に向けた、組織内候補者の支援活動を行います。

静岡伊勢丹支部 第6期(2018年度) 運動方針

テーマ	相手を知り、積極的にコミュニケーションをとる風土作りに取り組みます

2018年度は、環境与件が厳しいなかでも売上、利益を確保すべく業務に邁進している状況に加え、新経営陣のもと改めて「日本一働きやすい会社」を目指して働き方改革などに取り組んでいます。メンバー一人ひとりがこの流れにのっていけるように、支部としては"多様性"という視点を持って活動し、メンバー同士がお互いを認め合いながらコミュニケーションをとれる風土作りに取り組んでいきます。

○ダイバーシティ推進

■ダイバーシティ推進を今期重視する考え方としていきます。まずは、仲間の中には様々な人がいることを知る、という活動に新しく取り組みます。職場や役割、世代が違う人の業務はどんなことをしているのか、どんな思いで働いているのか、などを知り、お互いのコミュニケーションにつながるようにしていきます。この考え方を取り入れながら、VOICE活動や経営対策活動でも新たな活動を行っていきます。

・「職場」や「役職・役割」、「世代」など、違いがあると思われるメンバー同士での VOICE やインタビューなどを企画し、メンバーに広めていきます。

・育児、介護にかかわるメンバーのニーズを把握し、情報共有の場を設けます。

○VOICE活動

■今まで行ってきたVOICEに加え、新たなテーマ別VOICEも企画します。

・通年協議に関するメンバーズVOICEについては、組合役員と連携をし、参加率のアップに努めます。

・テーマ別VOICEについては、まずはステージCやメイト社員を対象に現在の働き方に対する思いなどをテーマに行い、経営陣との懇話会につなげていきます。

○経営対策活動

■経営陣との新しい対話の機会を設け、さらにはメンバーと直接つなぐことにも取り組みます。

・労使のさらなるコミュニケーションと情報共有をはかる新しい対話の場を設けていきます。

・営業状況とともに働き方改革についても、労使で共有していきます。働き方改革については、内容の確認だけでなく、それがメンバーにどう捉えられているか、どう変わったかなど状況を把握して、会社に伝えていきます。

・半年に一度、経営陣とメンバーが直接対話する機会を設け、現状や今後について共有する場としていきます。

○労働福祉活動

・ステージBの人事制度について、春の交渉時期に成案化するように、労使協議を行います。

・ステージCの人事制度については、ステージBの人事制度改定を踏まえながら今後の方向性を探っていきます。

・60歳以降の働き方について、課題の確認、研究をしていきます。

・フレックス勤務やテレワークなど今までにない働き方について、労使で研究、検討します。

・有給休暇の取得状況や労働時間管理などは、労使で状況を確認し改善に向けて議論をしていきます。

○教育サポート活動

・社員、メイト社員、フェロー社員のフレッシュプランは、支部単独で引き続き行います。

・ミドルライフサポートとシニアライフサポートは、それぞれ継続して行います。

・講演会は秋と春の2回行います。

○レクリエーション活動

・恒例のボウリング大会は、秋に実施します。

・少人数でできる体験教室を秋と春、夏の3回行います。

○広報活動

・掲示板へのポスター掲示とホームページの支部ブログを広報活動の柱にしていきます。

・メンバーの認知度があがってきたデジタルサイネージについては、今までよりも頻度高く更新することで利便性を高めていきます。

○USR活動

・いこいの家への支援活動は、先方の行事への参加を11月と8月に行います。メンバーにも声をかけ、活動の輪が広がるようにします。

・愛の募金活動、物品回収活動、平和活動などは、引き続き取り組みますが、なるべく多くのメンバーに参加いただけるように、早めの告知を心がけていきます。

名古屋三越支部 第6期(2018年度) 運動方針

テーマ	変化を恐れない、相互理解のあるイキイキと働きやすい風土の構築

2017年度は、栄店リモデルによるお買場閉鎖の影響など様々な与件もあり、名古屋三越は大変厳しい業績結果となりました。2018年度は、リモデル効果をさらに大きくし、業績回復とともに営業利益目標を達成し、企業の未来にむかう新たな青写真を描くための重要な年度となります。このような環境のなかで、長期的な視点をもってメンバーを巻き込みながら日々の活動を推進していきます。また、「対話・ディスカッション」を活動の中に反映し、既存の形式にとらわれない新たなアイディアを生み出し、挑戦します。

○ **VOICE活動**

■ **参加率向上と具体的なメンバーの声を吸い上げることのできる機会創出**

・ メンバーズVOICEを愚直におこなうとともに、（ワーキングファミリーVOICEを含む）育児関連・労働時間管理・労使通年協議などの項目についてのテーマ別VOICEを5回以上おこない、メンバーの声を吸い上げる機会創出に努めます。

・ 既存の発信・運営方法を見直し、VOICEの参加率向上をはかるとともに、意見交換しやすく、意見を吸い上げやすい仕組みを構築、浸透をはかります。

○ **経営対策活動**

■ **既存にとらわれない新たな内容の経営懇話会の実施**

・ 定期的な経営懇話会は、業績などの確認に留まらず、労使ともに毎回テーマを決め、VOICEで吸い上げたメンバーの意見を反映させながらディスカッション形式で開催していきます。

○ **労働福祉活動**

■ **「対話・ディスカッション」を重視した労使通年協議の推進**

・ 第６期は、下記6項目を中心とし、労使通年協議を推進します。
①人事制度・賃金制度改訂の検討 ②ネクストキャリア制度改訂の検討 ③テレワークの取り組み
④ストック有給休暇制度改訂の検討 ⑤年間総実労働時間削減の取り組み ⑥適正な労働時間管理にむけた取り組み

○ **USR活動**

■ **人的支援活動の実施**

・ 引き続き既存の支部支援団体との関係づくりに努め、新たな参加者を募り、人的支援活動を実施します。

■ **フードドライブ活動**

・ 年2回のフードドライブ活動の継続とあわせ、セカンドハーベスト名古屋の活動体験に組合役員を中心に参加することで活動の理解を深めるとともに、先方のニーズをくみとったうえで人的支援活動への参画も検討します。

○ **教育サポート活動**

■ **「新たな学べる機会」の構築**

・ トライアルとしてC-t社員を対象に、自身が学びたいことについて毎回テーマを変えながら、業務終了後に気軽に学べるOFF-JTの機会を設けます。

○ **レクリエーション活動**

■ **新たな参加者を取り込むことができるレクリエーションの実施**

・ 終業後のレクリエーションなど、多くのメンバーが気軽に参加できる企画を考案し、コミュニケーション活性化につなげます。

○ **広報活動**

■ **メンバー接点拡大に向けたデジタルツールの最大利用**

・ 支部ブログ・デジタルサイネージの更新回数を増やすことや、QRコードからホームページに気軽にアクセスできるようにするなど、紙媒体だけでなく、デジタルツールを最大限利用しながら取り組みます。

○ **組織政策**

■ **次世代組合役員の知識・能力向上**

・ 「新たな学べる機会」への主体的な参画や、支部執行委員会において、労使協議に関係する議題について現行制度の解説を交えながらディスカッションするなど、次世代を担う組合役員の知識・能力の向上をはかります。

○ **政治活動**

■ **公民権行使の重要性とIMGUの政治活動に対する理解促進**

・ 本部方針に則り、メンバーが政治への関心を高められるよう推進します。

広島三越支部 第６期(2018年度) 運動方針

テーマ	一人ひとりの力と声をつなぎ合わせ、変革への一歩を踏み出そう

広島地区における商環境はますます激化していますが、㈱広島三越も新たな百貨店モデルを目指し、一人ひとりの力を合わせて黒字化に向けて走り出しています。組合は「企業の存続」と「雇用の確保」を常に行動指針とし、メンバー一人ひとりを「人財」として焦点を当て、モチベーションを高めていくことを大切にします。また、第 6 期は「人財」である一人ひとりの力と声を集約させ、それが変革へ向けた第一歩となるよう、メンバー同士をつなぎ、メンバー・会社の強固な関係性を築きます。

○ＶＯＩＣＥ活動

■メンバーズＶＯＩＣＥは「情報の共有と声の発信場所」として引き続き全員参加を促す

・組合活動の原点であるメンバーズＶＯＩＣＥが、本来の位置づけとして認識いただけるよう、メンバーへの発信や参加方法を工夫します。参加率 100%を目指しながらも、不参加の方へのフォローを行うことで、参画意識の裾野を広げていきます。

■様々な分野別のテーマ別ＶＯＩＣＥ開催で、働き方改善の糸口をつかみます

・「育児制度利用者」は継続して実施し、制度拡充の意見交換をし、メンバー全体へ制度の理解を広めていきます。また、「雇用形態別」「職場別」ＶＯＩＣＥも必要に応じて開催をしつつ、「入社３年以内」など新たなＶＯＩＣＥ開催を検討し、年間５回以上の共創の場を設けます。

○労働福祉活動・経営対策活動

■メンバーのやりがいとモチベーションにつながる制度整備と適切な運用のチェック機能強化を目指します

・「㈱広島三越で働き続けたい」という想いを一人でも多くするために、評価制度や転換制度を整えます。また、雇用形態別やポジション別の働き方や期待役割を明確にして、正しく運用できるようチェック機能を強化し、メンバー全体の働きやすさを改善します。

■ハラスメントの防止と根絶へ向けたアクションの継続

・ハラスメント防止と根絶に対する意識の高まりを維持するため、啓発活動を継続して行います。ハラスメントに関する声を発しやすい環境改善にも取り組みます。

■対話を重視した経営懇話会の開催で、労使の関係性を強化します

・情報の交換、共有のみではなく、会社として、組合として、時には㈱広島三越で働くメンバーの一人として対話ができるよう、労使関係を築き、ともに躍動していくための議論の場に進化します。また、引き続き「構造改革プラン」の確認を行います。

○ダイバーシティ推進活動

■育児制度の拡充と介護制度の認知度を上げ、様々な働き方が交わる前向きな職場環境の整備をします

・育児関連の制度拡充を目指し、労使で前向きな検討・協議を行います。また、これから制度利用者が増えることを想定し、介護制度を前向きに取得できるよう、現在の制度発信だけでなく、利用者の声の拡散、制度理解に向けた情報発信などセミナー形式を含めた啓発活動に力を入れます。

○ＵＳＲ活動

■地域貢献、環境保護、平和活動を継続します

・支援団体への寄付、エコキャップ推進運動、折り鶴の献納、愛の募金といった諸活動を継続実施します。今期は兼任役員の参画を広げ、人的支援を始めとした新しい活動を行います。

○教育サポート・レクリエーション・広報活動

■コミュニケーションから始まる仲間同士の働きやすさの向上に取り組みます

・これまで継続して実施しているユニオンプラン（フレッシュプラン、セカンドプラン、シニアライフサポート）に加え、ミドルライフサポートを実施することで、㈱広島三越で働くやりがいを再確認していただきます。また、労使共催レクリエーションの開催やお子様と一緒に参加できるレクリエーションなど、新規取り組みでコミュニケーションの促進を行います。メンバー接点の拡大のために、ＳＮＳツールの活用やＨＰを使った関係性の構築を行います。

○政治活動

■働く環境改善に向けて、組織内候補者の支援活動を行います

高松三越支部 第６期(2018 年度) 運動方針

テーマ	組織の壁を越えて、仲間の絆を広げよう

高松三越は、増収増益にストップがかかり、店舗を取り巻く環境は少子高齢化だけでなく、流通チャネルの多様化によって、これまで以上に環境の変化に直面しています。その中でも成果をあげ続けていくためには、メンバー全員に意識改革・新しいチャレンジが必要不可欠です。組織の隔たりなど関係なくチャレンジを応援できる環境を目指し、仲間との絆を深められる活動を推進していきます。第６期の高松三越支部活動は、これまでの活動を継続しながら意識改革を行い、『失敗を恐れずにチャレンジできる風土の実現・より風通しの良い職場環境の実現』に向けて取り組みます。

○VOICE 活動

組合役員⇔メンバーの関係性だけでなく、VOICE 活動を通じてメンバー⇔メンバーの関係性強化を推進します。

■テーマ別 VOICE の活性化(入社５年目 VOICE、育児勤務者 VOICE、役職別 VOICE など)

・テーマ別 VOICE はより細やかな範囲で開催し、意見交換や課題解決を進めます。それぞれのテーマで参加したメンバーの課題や悩みを表面化し、共有・意見の集約を行ないます。活動の中で、新しい気付きや考え方を知ることでメンバー間の繋がり強化に繋げていきます。

・課題の深掘りを続け、定期的に開催が必要なテーマにおいては継続して VOICE 活動を行い、メンバーへのフィードバックや情報交換を行います。

■メンバーズ VOICE 開催

・参加率向上にむけて、継続して開催方法・開催場所・運営方法を工夫しメンバーと対話の時間創出に努めます。

・運営側の理解を深める事前勉強会を行なうことで、よりメンバーに内容が伝わりやすく、分け隔てなく活発な意見交換ができる環境作りを行ないます。

○労働福祉活動・経営対策活動

メンバーが安心して働ける環境整備と雇用の確保に向けた制度の導入を目指します。

■労使通年協議の推進

・より安心して働くことができるような人事賃金制度の改善に取り組み、無期雇用化に伴う制度についても各グループ会社の制度を研究し、検討していきます。

■働く環境の整備

・VOICE 活動のなかで吸い上げた声を、経営懇話会・安全衛生委員会などで労使相互に確認し合い、働く環境の改善、課題解決に向けて議論していきます。

・適正な労働時間管理の推進やハラスメント防止に向けた取り組みは継続して行い、メンバーが安心して働ける環境の整備を進めていきます。

○教育サポート活動

メンバーへ新しい『気付き』の提供とワークライフバランスの充実を目標に活動します。

■「気付き」の創出

・国内商況視察セミナーを実施し、新しい『気付き』を見つけることを目的に他店・他地域の状況を視察します。

■ユニオンプランの活性化

・「ミドルライフサポート」を実施し、ミドルエイジ層のワークライフバランスの充実を目指します。

・フレッシュプラン、セカンドプラン、シニアライフサポートといった活動も継続して行い、組合や共済会制度についての理解やライフプランについて考える機会を提供していきます。

○渉外活動

■上部団体である UA ゼンセンとの関わり合いのなかで地域貢献活動を行ないます。

・流通、小売業界に関わる取り組みに積極的に参加し、業界の活性化に繋がる活動の他にも、地域貢献活動・政治活動の理解促進、支援活動を行ないます。

松山三越支部 第６期(2018年度) 運動方針

テーマ

想いをひとつに、未来を切り開こう

第６期は、松山三越にとって重要なターニングポイントを迎える期になると考えています。労働組合としても、会社が転換点に立つ中で、企業の存続と雇用の確保を最優先に考え、活動を行います。そのため第６期は労働福祉活動・経営対策活動に注力していきます。ＶＯＩＣＥ活動を通じ、メンバーの声を集め会社と対話を重ね、メンバーがより働きやすい環境と、より働きがいが持てる会社となるように努めます。またメンバーが安心して働けるようにタイムリーな情報の発信を強化していきます。

○ＶＯＩＣＥ活動

■定期的な開催でメンバーとのコミュニケーションを強化し、情報発信とメンバーの声を集めます。

・メンバーズＶＯＩＣＥを定期的に開催し、直接対話の機会をもうけ、会社の方向性の共有・メンバーの声の集約に努めます。（2018年12月・2019年２月・2019年６月にＶＯＩＣＥを実施予定。）

・テーマ別ＶＯＩＣＥとして、ステージＢを対象・後方部門対象・外商対象などでより具体的な課題を抽出し、働き方改革に向けた声を集めていきます。

○労働福祉活動

■メンバーが安心して働けること、働きがいが持てる会社となるよう労使通年協議を通じて仕組みや制度を検討します。

・メンバーの声を基点に働き方改革を推進し、業務の効率化や時間管理に関する意識向上に努めます。

・要員が減少する中で、キャリア形成のあり方・役割に対する処遇のあり方を検討します。

・無期化にともない、長期で安心して働けるよう制度の拡充を検討します。

・労使専門部会を週に１回程度開催し、メンバーの声を元に働き方改革に関わる話し合いを行います。

○経営対策活動

■経営懇話会をベースに経営との対話を強化していきます。

・構造改革の進捗の確認とともに、労使であるべき姿の話し合いを行います。

・営業現況・時間管理・有給取得状況などの適切な把握に努め、改善に向けた議論を行い、行動に移していきます。

○ダイバーシティ推進

■育児・介護に関するメンバーの理解の促進とともに、メンバー間のコミュニケーションを図ります。

・育児休職者・育児勤務者を対象に制度等の情報共有を行うとともに、新たに中高生の子育てをされている方を対象にした情報交換会を開催します。

・新たに介護セミナーを実施します。

○ＵＳＲ活動

■地域において必要とされる支援を継続して行っていきます。

・児童養護施設へ引き続き物品寄贈とともに人的支援を行います。

・年間を通じて豪雨災害に対する支援を行います。

○教育サポート活動

■他支部の取組を参考に内容の活動のレベルアップを図ります。

・ユニオンプランとしてライフステージに応じた研修を実施します。新たに 40 歳を対象としたミドルライフサポートを開催予定。フレッシュプラン（12月６月）セカンドプラン（10月）ミドルライフサポート（11月）シニアライフサポート（11月）

○レクリエーション活動

■「つながり」をキーワードに松山三越で働くメンバーの一体感を醸成します。

・年３回活動（３月・７月・９月に実施予定）メンバーのニーズを広いながらより参加しやすい活動を検討します。

○広報活動

■ポスターや支部ブログなど第５期の活動を継続しつつ、支部広報誌の発刊を強化します。

・支部広報誌の発刊頻度を月１回程度まで高め、毎月の営業現況や組合の活動状況をメンバーに伝えていきます。

○組織政策

■次世代を見据え、計画的に人材育成を行います。

・執行委員は、様々な組合活動の運営を担うことで今まで以上に主体的な組合活動を行います。また、労使協議等にも参加することでより執行部としての意識を高めながら活動を行います。それらの活動を通じて次世代の育成を行います。

岩田屋三越支部 第6期(2018年度) 運動方針

テーマ	可能性を信じて、未来へと進もう ～変革と創造の年～

いま、将来に向けた構造の改革が進められようとしています。時代や環境が変わるスピード以上に、私たち自身が先に「変化」していかなければなりません。これまでの「働き方」を見直し、より生産性が高い「働き方」へと移行していく必要があります。メンバーの「声」が活かされ、一人ひとりの笑顔が輝く未来へ。第6期は、一人ひとりとの「対話」を重視して活動することで、お互いを尊重し、いつまでも安心して働ける環境を実現させます。可能性を信じて、未来へと前向きに進んでいきます。

○VOICE活動(メンバーの一人ひとりと対話すること)

■メンバーが知りたい内容を明確に伝え、声を吸い上げます。テーマ別VOICEは対象者の声を深く聞いて経営へ伝えます。

●メンバーズVOICE：発信型のVOICEから、メッセージ性の強い、「伝わる」「分かる」メンバーズVOICEへと変革させます。

【重点的に対話する内容の例】 ①働き方や処遇の改善 ②構造改革の進捗 ③会社の方向性とビジョン

●テーマ別VOICE：対象の事業所・雇用区分・年次別にテーマを設定し、重点的に対話することで課題解決につなげます。

① 【離職防止・交流と共有、悩みや課題の把握、キャリアの描き方】「新入社員/2年目社員VOICE」

② 【構造改革・時間を生み出す働き方改善】「久留米VOICE」

③ 【エリア・業態に応じた多様な働き方】「サロンVOICE」「お得意様部VOICE」

④ 【働き方の意見交換】「エルダー・フェロー社員VOICE」

⑤ 【働き方改革・生産性向上への取組】「AB・ASM VOICE」 など

○経営対策活動(上記VOICE活動の声を経営に分かりやすく伝えること)

■チェック能力のレベルアップとパイプ機能の強化、VOICEで得た声を労使で循環させます。

・VOICEで得た声や意見を経営と共有し、課題解決に努め、メンバーへ回答します。兼任委員は現場の声を伝えます。

・定例報告を短縮し、フレームに固執せずに対話を行うことで、経営懇話会の議論を活性化させます。

・定期的に経営トップとの直接対話の場を持ち、中長期の課題や「構造改革」について深く、着実に議論していきます。

・経営層からの情報をメンバーへ的確に届けます。吸い上げた声を経営につなぐ役割を果たします。

○労働福祉活動

■優先度の高い項目の重点協議と、生産性向上に向けた働き方改革の推進を両立していきます。

【項目】＊メイト社員への確定拠出・業績連動賞与の導入＊ネクストキャリア制度の見直し＊有休の取得目標到達
＊フレックス勤務導入の効果検証と拡大を検討＊両立支援制度の見直し＊テレワーク導入に向けた議論の実施 など

・職場懇話会では、部門が抱えている課題を部門長と共有し、メンバーの声を伝え対話していくことで解決への道筋をつくります。

○ダイバーシティ推進活動

■時代の先を行く、一歩踏み込んだ多様性への理解を進めます

・セミナーでの知識と体験をベースに、NPO法人との取り組みをスタートさせ、活動への参画からメンバーの理解につなげます。

・上司への教育を実施し、働くメンバーの多様性(育児・介護他)と価値観を共有、理解する手助けをします。

・ワーキングファミリーVOICEの参加対象を組合役員と上司まで広げ、本人だけではなく周囲の理解を深める活動を行います。

○USR活動

■地元「九州」を元気にする活動に、人的支援を主体として取り組んでいきます。

・災害を風化させないために、防災活動とボランティアをメンバーへ啓蒙し、後世へ引き継いでいきます。

・社会福祉法人愛生会との人的交流拡大を進めます。施設の歳時記イベントに積極的に参加し、支援と理解を深めます。

○教育サポート活動

■メンバーが意欲的に参加してくれる教育の場を提供し、メンバーの学びをサポートします。

・即効性があり、業務に生かせる同業異業種の著名人によるセミナーを実施します。

・「中途入社者フレッシュプラン」を実施します。また、新入社員の学びへの意欲を高める、「ヤングプラン」を開催します。

○レクリエーション活動

■ニーズが高い「スポーツレクリエーション」の満足度を高め、「募集型レクリエーション」は内容を見直し参加率を向上させます。

○政治活動

■働く環境改善のための政策実現に向けて、擁立された議員候補者の周知や後援会入会活動を行います

○広報活動 ■広報物のタイムリーな発刊、ペーパーレス化を進めるとともに福岡勤務の共済会員への情報発信を行います。

エムアイフードスタイル支部 第6期(2018年度) 運動方針

テーマ	“飛躍的成長”のために ～変わらぬ信念・変える覚悟を持って、邁進する1年に～

昨年様々な厳しい取り組み・全員の努力の末、飛躍的成長のための基盤ができましたが、働く環境に課題を残していると認識しています。第6期では、

- 働く環境の整備に向けて、「勤怠管理ルールの遵守・徹底」、「意識・風土改革」などに注力します。
- 組合活動の根幹となるVOICE活動において、メンバーの声の効果的な抽出を目的に、新たなトライアルを行います。

○労働福祉活動

■今後の「飛躍的成長」に向けて目の前の課題解決に注力しながらも、中長期的なビジョン達成に向けた検討も進めます

・働く環境の整備に向けて、テーマ別VOICEの実施、また職場巡回時にヒアリングを行い、課題本質の追求と解決を図ります。
※昨年度の取り組み（勤怠管理遵守・業務改革）の進捗の整理を行い、打ち手の見直しや磨き上げを行います。
・労使協議の推進（65歳以上直接雇用、業績を鑑みた賞与要求、評価制度の浸透、ステージA・B本給制度見直し）

○VOICE活動

■メンバーズVOICEにて情報の共有に注力し、テーマ別VOICEにて意見集約に注力します

・情報共有の場・意見集約の場を明確にし、効果的な運営に努めます。(議案書の記載方法の見直しも検討)
・メンバーとの直接対話を重視しつつも、多様な働き方に対する補完ツールとしてデジタルの活用を検討します。

○経営対策活動

■新会社・新体制となった中、経営懇話会や職場懇話会でチェック機能を果たし、意識調査でメンバーの声の集約を図ります

・新経営体制となりましたが、引き続き信頼感ある労使関係を構築し、毎月の経営懇話会・定期的な職場懇話会を実施し、業績状況・施策動向・三菱グループとの連携などを確認するとともに、正しい情報をメンバーに共有します。
・従業員意識調査を実施し、メンバーの声を定性・定量両面で吸い上げ、労使協議・経営への提言に活かしてまいります。

○教育サポート活動

■これまでのベースを踏襲しつつも、新たな年次・対象に対して実施する年次教育・転換者教育の再考を行います

・新卒3年目フォロー研修を2年目研修に、また以降の年次に対する教育を新たに検討します。（5年目・7年目）
・転換者に対する教育を新規で検討します。（転換後2年目など）

○ダイバーシティ推進（多様な働き方への対応）

■多様な人財が働きやすい環境を整備するためにまずは育児・介護の理解浸透に向けたセミナーや意見交換会を行います

・育児面では男性の育児参画拡大に向けた取り組みの検討。既存活動においては外部セミナー実施を検討します。
・介護面では本部活動を参考に支部においてセミナーを実施し、理解浸透を図ります。（会社実施の会議内を検討）

○レクリエーション活動

■既存活動に加えて、支部特性を踏まえSNSを活用したサークルの設立など、「リアルとデジタル」両面で行います

・【リアル】全体への発信や開催までのフォローの検討、【デジタル】記録や活動共有できるツールの検討を行います。

○USR活動

■継続的に人的支援を行える活動・支援団体の再考に向け、まずは参画への意識醸成を高めるための取り組みを行います

・現在の支援団体先であるセカンド・ハーベスト・ジャパン含め、参画先・方法を再考する中で取り組みを行います。

○組織政策

■現場の声にレスポンスよく対応し、パイプ役となる役員体制を構築するため、知識・スキル向上に向けたセミナーを実施します

○広報活動

■定期的な発信と内容のブラッシュアップと共に、LINE@登録者・閲覧者数の向上に向けて周知活動を継続的に行います

エムアイカード支部 第６期(2018 年度) 運動方針

方針テーマ	**変化を日常に！！** ～変化する日常を乗りこなし、イキイキと躍動できる企業・職場の実現～

第６期の方針テーマは『変化を日常に！！～変化する日常を乗りこなし、イキイキと躍動できる企業・職場の実現～』にしました。

「変化する日常を乗りこなし」には、今後もさらに当社が変化していく中で、その変化の波を乗りこなしていくこと。次に「イキイキと躍動できる」には、ただ乗りこなすだけでなく、変化の中でイキイキとやりがいのある、そして安心して働ける環境をより整備することで、皆さんが安心して躍動できる職場・企業にしていきたいと思い、このテーマにしました。

今期の重点取り組みとしてはメンバーズ VOICE を通じて集めた従業員の声を経営に伝えるだけでなく、経営からの意見もメンバーに伝えることで労使の認識相違を極小化すると共に、メンバー意識の向上を図ることで、よりよい制度改定・働き方改革に取り組み、イキイキとやりがいのある、そして安心して働ける環境整備をこれまで以上に取り組んでいきます。

1．VOICE：メンバーの意見収集力の強化及び人事制度への理解向上

- 昨年度同様、勉強会や会議を通じて、現行制度や労使通年協議内容についての理解を深めると共に、兼任役員が各職場でメンバーズ VOICE を実施しやすい情報発信・資料提供を行い、メンバーに通年協議の内容をわかりやすく伝え意見をもらいやすい体制を構築する
- VOIC E の結果・通年協議の進捗・会社回答をメンバーに伝えることで、労使協議への参画意識を高め、人事制度への理解向上を図る
- テーマ別 VOICE を毎月開催し、通年協議への意見やマネジメント、部下育成などの現状把握を行い、労使通年協議や労使懇話会での議題にすることで、会社・職場の課題解決へと繋げる

2．労働福祉：労使通年協議の着実な実行と、やりがい・働きがいのある環境整備

- 労使通年協議事項に基づき、制度改定（ステージＡ～Ｃ人事制度改定）を計画的に取り組むと同時に、働き方改革（総実労働削減・有給消化率向上など）に取り組み、従業員のやりがい・働きがいの向上に繋げる
- 労使協議の進め方を見直し、労使で計画的に協議を行える仕組みを構築し、通年協議の進捗を図る
- パワハラ・セクハラだけでなく、ケアハラ・マタハラ・イクハラなどのハラスメントの無い企業に向けた取り組みを行う

3．経営対策：会社状況の適確な把握と、現場実態の共有化及び対応協議

- VOICE・その他組合活動を通じて集めたメンバーの声をまとめ、今まで以上に経営に伝えることで、経営がメンバー意識や現場の課題を認識することや、メンバーが経営の考えを把握することで、常に労使で同じ方向に進めるようにする

4．USR：本部活動への参加しやすい環境の提供及びメンバー参加型の支部企画の立案

- 本部主催の USR 活動を参加した方の声をお伝えすることでより告知を強化し、新規メンバーも参加しやすい環境を提供する
- 支部独自のメンバーが気軽に参加しやすいイベントを企画することで、仕事や私生活ではあまり経験しない体験や視点を通じて、社会貢献活動を楽しむことや自分自身を振り返る機会を提供する

5．教育サポート：本部ユニオンプランへの参画と支部独自の教育内容の構築

- フレッシュプランについては組合活動への理解深耕・新卒社員同士の交流を目的に開催方法・時期について再考する
- 年代別教育は本部ユニオンプランへの確実な参画へつなげるために、実施内容・参加者の声をメンバーに発信する

6．コミュニケーションサポート：所属・企業を超えたメンバー交流機会の拡大

- 既存の活動にとらわれずメンバーの興味・関心の幅を広げる活動の発案・実施する
- 各職場単位での交流及びコミュニケーションを図る機会を数多く提供することで、職場内のコミュニケーションの円滑化や相互理解の向上を図る

7．育児・介護サポート：同じ環境にあるメンバー同士の交流機会の拡大

- 育児・介護制度利用者向けの活動を強化し、制限勤務者も安心して働き続けられるように、制度利用者同士の交流会や、テーマ別 VOICE を通じた現場活動・制度協議の実施を行う

8．広報：広報誌の定期的な発刊とタイムリーなブログの更新

- 支部広報誌『ひまわり』を年３回の発刊及びタイムリーに発刊を行う
- 支部活動の理解深耕を促すため活動告知や報告を様々なチャネルを通じて実施する

ソシエ・ワールド支部 第6期(2018年度) 運動方針

テーマ	働く「笑顔」を力とし、「美しさ・未来」を創る

ソシエ・ワールド支部となり、「どのように VOICE 活動を行っていくのか」、「事業部ごとの抱える課題をどのように解決につなげていくのか」等、メンバーが主体的に関与できる体制や運営方法について組合活動の基盤づくりに取り組んでいきます。メンバーとの対話を心掛け、メンバーにとって納得感ある活動につなげていきます。
会社のスローガンに"美しさ・未来"を掲げるソシエ・ワールドのメンバーが、働くことにやりがいを感じ、「笑顔」溢れる職場をつくっていきます。

○労働福祉活動

- 2019 年 4 月以降に人事制度改定をおこなう必要のある労使通年協議項目について労使議論を始め、項目の策定およびその内容、進捗をメンバーと共有していきます。
- 通年協議内容についての協議を行う専門協議会を毎月開催し、労働組合本部と連携し、グループ標準の考え方である役割成果主義に基づく「人に関わる諸制度」構築に取り組みます。
- 組合説明会時に寄せられた声をもとに、「適正な時間管理」や「ハラスメント防止」など働く環境の整備に取り組みます。

○経営対策活動

- 営業戦略および営業概況の確認を行う経営懇話会を社長出席のもと、毎月 1 回開催し、営業面におけるメンバーの声をお伝えし、業績向上につなげる活動を行います。
- 経営懇話会の中で確認された内容について、必要に応じてメンバーへの情報発信を行っていきます。
- 事業部ごとに抱える現場の課題や制度面における課題への対応を行うため、各事業部長との職場懇話会を半期に一度実施しメンバーの声を伝えます。

○VOICE 活動

- 労使協議内容共有や現場の課題について情報交換を目的とした VOICE 活動の運営方法について、メンバーと対話できる体制づくりを整え、メンバーが主体的に組合活動に参画できる体制をつくります。
- メンバーからいただいた問題意識や課題について会社と協議し、改善につなげる VOICE サイクルを回します。

○教育サポート活動

- 組合加入時に実施するフレッシュプランを着実に実施できる体制を整え、組合活動・共済会についての理解促進を図ります。
- さらに本部・他支部と連携しながら、「これからの人生のプランニング」を目的として 40 歳時・57 歳時に開催する「ミドルライフサポート研修」や「シニアライフサポート研修」等への参画を導入時期も含めて検討します。

○USR 活動・レクリエーション活動

- 社会貢献を促す USR 活動は、本部 USR 活動(石巻ボランティア・愛の募金等)への実施・浸透に取り組みます。
- 本部レクリエーション活動への参加を促すとともに地域支部との連携を強化し、エリア内で開催されるレクリエーションへの参加を促し、他支部との交流を図ります。
- 支部メンバー間のコミュニケーションアップを目的として、支部企画レクリエーションを立案・実施します。

○広報活動

- 支部広報誌を定期的に発刊し、経営懇話会報告や労使通年協議の進捗等、メンバーとの情報共有を意識した活動を行います。

○組織運営活動（組合役員の意識醸成に向けた活動）

- 活動スタート時に組合役員の役割や具体的な活動イメージを共有し、意識醸成につなげます。
- 会社との協議内容を情報共有するにあたり、協議内容についての理解深耕を目的とし、人事制度や働くルールについて、わかりやすい勉強会を実施します。
- 組合活動イメージについて闊達な意見交換を行い、メンバーが主体的に関与できる活動構築を目指します。

○政治活動

- サービス・流通全体に関わる取り組みの実現に向け、労働組合が行う政治活動についての理解促進と組織内候補者の浸透推進を図ります。

関連グループ統括支部Ⅰ　第６期(2018年度)　運動方針

テーマ　**話そう　繋ごう　そして変わろう**

・支部活動をこれまで以上に活性化させるため、組合活動サイクルの見直しやあらたなデジタル機能の導入をおこなうことで、メンバー接点の強化や組合役員同士の連携強化を図ります。
・日々の活動で、常に目的意識を持つことや、様々な方向性から物事を考えることで、支部として最適な活動を追求していきます。

関連Ⅰ共通

○労働福祉活動

・意識調査については、結果を分析し課題改善に取り組みます。
・労働時間管理の推進や年次有給休暇の取得促進をおこない、ワークライフバランスの更なる充実に繋げていきます。

○経営対策活動

・経営懇話会では、VOICE や執行委員会・執行評議員会での意見を、これまで以上に密に共有し、課題改善に向けた取り組みを強化します。

○ダイバーシティ活動

・育児サポート活動では、育児勤務者との意見交換をおこなう中で、関連Ⅰとしての活動や働き方を踏まえた職場環境整備の検討をおこないます。

○広報活動

・情報の発信については、広報紙の発刊に加えて、SNS 機能の活用に向けた環境の整備に取り組みます。

○レクリエーション活動

・IMBS・IMPD のレクリエーションでは、LINE などの SNS 機能を活用した企画を兼任役員とも連携しておこなうことで、全国に所在するメンバーの一体感醸成を図っていきます。

○VOICE 活動

・IMBS・IMPD の地域事業所に在籍しているメンバーのフォローVOICE として、PC やテレビ会議システムを活用した取り組みをおこないます。
・新卒入社１年経過時および３年経過時の社員を対象としたテーマ別 VOICE をおこないます。

○組織政策

・執行委員会・執行評議員会では、より活発な議論ができるように、１週間前を目安に兼任役員への議題発信をおこないます。
・全国の大会代議員との情報共有の強化に向け、スカイプ用カメラを準備し、テレビ会議のトライアルをおこないます。

○政治活動

・選挙期間中の公民権行使推進や、ＵＡゼンセン推薦の候補者の公約について浸透を図ります。

IMBS

○労働福祉活動

・会社の取り組みの方向性を踏まえた人事制度改定や、やりがい働きがい向上に繋がる働き方改革の検討をしていきます。
・働く環境の整備として、４ 月から運用を開始した変形労働時間（第１所沢センター）やフレックスタイム制（ESS 本社）、60 分休憩などの、運用確認や業務効率化の検証をおこないメンバーの働きやすさに繋げます。

IMPD

○労働福祉活動

・働く環境の整備に重点をおき、労働時間管理やハラスメント対策などの取り組みを進めていきます。

IMRE

○労働福祉活動

・社員を中心とした人事制度の課題抽出をおこない、メンバーのやりがい働きがるいに繋がる改定をおこなっていきます。
・生産性向上に繋がる働き方として、サテライト勤務やモバイル勤務の環境整備をおこないます。

○VOICE 活動

・労働福祉活動の方向性を踏まえた VOICE を定期的におこない、メンバーの皆さんとの意見交換や理解浸透を図っていきます。

○組織運営

・職場委員会については、毎月、定期的に開催することで、これまで以上に密な情報共有や意見交換をおこなっていきます。

○広報活動

・広報紙を毎月発刊し、組合・共済会情報や経営懇話会情報などの発信をおこないます。

＜社名表記の補足＞　IMBS：三越伊勢丹ビジネス・サポート　IMPD：三越伊勢丹プロパティ・デザイン　IMRE：三越伊勢丹不動産

関連グループ統括支部Ⅱ支部 第6期(2018年度) 運動方針

テーマ	未来を見据え、一人ひとりがいきいきと働ける職場環境をつないでいこう

・2018 年度は、ﾒﾝﾊﾞｰ・組合役員・会社との一体感の醸成に継続して取組みます。また、各支部・分会の環境・状況が変化していることを踏まえ、より各支部・分会が主体的に活動できる体制作りに改めて取組みます。その中では、各支部・分会で主体的な活動に結び付けるべく、組合活動への参画機会や教育機会の充実に取組み、各支部・分会に応じた活動を推進します。

【関連グループ統括支部Ⅱ～各支部・分会共通～】

○ＶＯＩＣＥ活動

・事業所特性に応じた開催日時・場所を設定することやﾃﾞｼﾞﾀﾙﾂｰﾙ活用等、参加しやすい環境整備に取組むとともに、組合役員側からの説明を工夫することや、兼任役員の VOICE 運営等通じてﾒﾝﾊﾞｰとの議論の活性化・充実化を図ります。また、事業特性やﾒﾝﾊﾞｰの立場を踏まえた意見交換等をおこなうことを目指して、必要に応じてﾃｰﾏ別 VOICE を実施します。

○労働福祉活動

・支部・分会ごとの働き方改革では、各所の状況を把握に取組む一方で、ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽも遵守した上で、総実労働時間短縮を目指し、心身ともに健康で働ける適正な就業環境実現、一人ひとりがいきいきと働ける職場環境づくりに取組みます。

・従業員意識調査等を踏まえ、各支部・分会の状況に合わせた評価制度の適切な運用推進に取組みます。

・無期雇用化後のﾒｲﾄ社員・ﾌｪﾛｰ社員の検討を労働諸条件の整備に向けて労使で協議を継続していきます。

○経営対策活動

・経営懇話会の定例開催や兼任役員の参画を通じて、ﾒﾝﾊﾞｰ意見の共有・各事業の状況確認等をおこない、ﾒﾝﾊﾞｰと会社のﾊﾟｲﾌﾟ役を担います。

○ダイバーシティー推進活動

・各支部・分会における育児・介護等のﾜｰｷﾝｸﾞﾌｧﾐﾘｰ VOICE の開催(11 月)、参加促進および組合・共済会におけるそれぞれの情報発信を通じて、ﾀﾞｲﾊﾞｰｼﾃｨ（多様性）の理解促進に向け取り組みます。

○レクリエーション活動

・各支部・分会の状況を踏まえ、ﾎﾞｳﾘﾝｸﾞ・ﾊﾞｰﾍﾞｷｭｰ等の定例企画の他、ﾒﾝﾊﾞｰﾆｰｽﾞを踏まえた支部・分会での活動により、さらなる一体感醸成に取組みます。

○USR 活動

・愛の募金(12・6 月)、広島の折鶴献納(7 月)等の活動や川崎授産学園への取組み(12・5・８月)を継続していくとともに、より多くのﾒﾝﾊﾞｰが人的支援等の活動に参画できるように支部役員を軸とした活動の推進を図ります。

○教育サポート活動

・既存教育や本部と連携した教育の実施を継続しながら、各支部・分会にてｾｶﾝﾄﾞﾌﾟﾗﾝ等の組合教育体系を確立します。また、ﾒﾝﾊﾞｰﾆｰｽﾞを踏まえ関連ｸﾞﾙｰﾌﾟ統括支部Ⅱとして新たなｾﾐﾅｰを実施する等、ﾒﾝﾊﾞｰの教育機会の充実に取組みます。

○広報活動

・各支部・分会における各種ﾀｲﾑﾘｰな発信方法の検討を継続した上で、広報の定例発刊を通じ、情報を継続的に共有します。

○組織政策

・組合活動の背景やその取組みについて、ﾒﾝﾊﾞｰとの共有を深化させることで、活動への参画意義をより広めていきます。

【三越伊勢丹ヒューマン・ソリューションズ支部】

○労働福祉活動

・BC ﾒｲﾄ社員人事賃金制度改定に向けた取組みや社員・ﾒｲﾄ社員・ＢＣﾒｲﾄ社員の退職給付制度に関する検討等、ﾒﾝﾊﾞｰの働きがいや安心につながる取組みを継続していきます。

【三越伊勢丹システム・ソリューションズ支部】

○労働福祉活動

・会社の方向性とﾒﾝﾊﾞｰの成長・活躍がより結び付く人事賃金制度について検討を継続します。

【スタジオアルタ直轄分会】

○経営対策活動

・ｵﾙﾀﾅﾃｨﾌﾞｼｱﾀｰの業態変更等も踏まえ、企業状況等の状況把握・確認に注力して取組みます。

【三越伊勢丹ソレイユ直轄分会】

・継続して各事業所のﾆｰｽﾞに合わせたﾚｸﾘｴｰｼｮﾝを労使で検討をおこない実施します。

関連グループ統括支部Ⅲ 第6期(2018年度) 運動方針

テーマ	対話によって「キズキ」、進化する

第 6 期は、変化を前向きに捉え進化することをテーマに、メンバー同士や労使間など、お互いを理解するために、本音と本音で話し合うことで気づきを得るなど、信頼関係を築くためのコミュニケーションである「対話」を意識した活動に取り組みます。

～分会共通～

・今期は、継続したメンバーズ VOICE に加え、各分会の状況に応じたテーマ別 VOICE の場を設けるなど、より深い対話を通じて職場改善につながる取り組みを進めていきます。

・その他、メンバー同士のコミュニケーションが図れるレクリエーション企画や主体的に自身のキャリアを考える機会としての教育サポート活動、多様化している働き方を理解促進するためのダイバーシティの推進を図っていきます。

レオテックス直轄分会

○労働福祉活動

■通年協議…60 歳以降のあり方や社員の退職金制度の改定を中心に労使で協議を進めます。

■働く環境の整備

・時間管理の取り組み…6 ヶ月変形労働時間制によるロング＆ショートの実態把握や検証を行います。
また長時間労働解消に向けて、総実労働時間と有給消化率の実態を踏まえた所定労働時間のあり方について検討します。

・ハラスメント防止への取り組み…昨年に引き続き個人面談実施などによる未然防止をはじめ、定期的なハラスメント防止対策委員会での実態把握を行い、意識醸成を図っていきます。

○VOICE 活動

■メンバーズ VOICE：年 3 回実施（①2018 年 10 月②2019 年 2 月③2019 年 4 月）
2018 年 12 月・2019 年 6 月賞与要求、通年協議、2019 年度賃金要求、労働協約改訂について行います。

■テーマ別 VOICE：補整加工及び OY の地域店舗での業務課題や職場環境について意見交換を各 1 回実施します。

三越伊勢丹ギフト・ソリューションズ直轄分会

○労働福祉活動

■通年協議…ステージ A 賃金制度の新設およびステージ B 賃金制度の改定を行い、メイト社員・フェロースタッフのストック有給休暇制度など無期契約の位置づけを踏まえた諸制度の整備に取り組みます。

■働く環境の整備

・時間管理の取り組み…時間外計上の短縮による状況確認や連休取得ルールの実態把握を通じた有休取得促進など取り組みます。

・ハラスメント防止への取り組み…アンガーマネジメント研修の対象者を広げ、更なる意識醸成とともに、VOICE を通じた社内コミュニケーションの活性化を図るなど、労使一体となって「ハラスメントゼロ」に取り組みます。

○VOICE 活動

■メンバーズ VOICE：年 2 回実施（①2018 年 10 月②2019 年 2 月）
2018 年 12 月・2019 年 6 月賞与要求、2019 年度の賃金要求及び通年協議、労働協約改訂について行います。

■テーマ別 VOICE：賃金制度改定に伴い、社員ステージ B やメイト社員を対象に 2018 年 11 月頃実施します。

センチュリー・トレーディングカンパニー直轄分会

○労働福祉活動

■通年協議…人事賃金制度をはじめ諸制度の検討に向けて労使協議の場を定期的に設け、通年協議体制を確立します。

■働く環境の整備…連休取得ルールによる有給休暇の取得状況の確認をはじめ長時間労働削減にむけて、現場との意見交換を行います。

○VOICE 活動

■メンバーズ VOICE：年 3 回実施（①2018 年 11 月②2019 年 2 月③2019 年 5 月）
2018 年 12 月・2019 年 6 月賞与要求、2019 年度賃金要求及び通年協議、労働協約改訂について行います。

■テーマ別 VOICE：現場の課題や通年協議内容など、適宜実施します。

伊勢丹会館直轄分会

○経営対策活動…伊勢丹会館の業績動向の確認やグループの方向性など情報共有の場を継続していきます。

関連グループ統括支部Ⅳ 第６期(2018 年度) 運動方針

テーマ	未来を創る笑顔をつなげる

三越伊勢丹旅行・ニッコウトラベル・ニッコウ企画直轄分会においては 2019 年 4 月人事制度統合に向けた協議、三越伊勢丹通信販売直轄分会においては事業終了に向け雇用の確保や職場提示にむけた協議を進めます。メンバーとの対話を重ねながら、安心して前向きに業務に向かうことができる制度・体制づくりを目指します。また大きな変化が求められる中、変化に対応していくためにはメンバー間の融合や連携が重要です。VOICE や広報活動等を通してメンバー間のつながりを作る活動に取り組みます。

【三越伊勢丹旅行直轄分会・ニッコウトラベル直轄分会・ニッコウ企画直轄分会】

〇労働福祉活動

・ 2019 年 4 月会社統合に向けて、メンバーがやりがいを持って働くことができる制度統合を目指し協議を進めています。12 月頃にテーマ別 VOICE を開催するなどメンバーと対話を繰り返すことを意識します。また働く環境の整備については、適正な時間管理やハラスメント撲滅に向け、課題抽出⇒会社との協議・対応につなげるサイクルを回します。

〇経営対策活動

・ 2018 年 10 月～3 月までは合同経営懇話会、2019 年 4 月以降は統合会社としての経営懇話会を毎月開催します。営業戦略および概況の確認を行うとともに業績向上に向けた課題について提起します。また毎月の執行評議員会の中で懇話会報告を行い、営業面の状況や課題等、意見収集を図ります。

〇VOICE 活動

・ メンバーズ VOICE においては、出席率 100%を目指します。また旅行で働く出向者も含め情報共有を図ります。

〇レクリエーション活動

・ 2019 年 4 月統合を見据え、2018 年秋にコミュニケーション活性化を目的としたレクリエーション企画を実施します。

〇政治活動

・ サービス・流通全体に関わる取り組みの実現に向け、労働組合が行う政治活動についての理解促進と組織内候補者の周知浸透に取り組みます。

【三越伊勢丹通信販売直轄分会】

〇労働福祉活動

・ 2019 年 3 月事業終了への対応として、働き続けたいと希望するメンバーに対しての雇用の確保・メンバーの希望を踏まえた職場提示に向けて協議を進めます。メンバー一人ひとりの意向を汲み取った対応について確認します。

〇経営対策活動

・ 経営懇話会を毎月開催し、3 月までの営業体制や顧客対応について確認します。現場の課題を伝え、改善につなげます。

〇VOICE 活動

・ 事業終了に向けた対応や営業体制等についてメンバーとの情報共有を図るため、メンバーズ VOICE を 10 月および 12 月に開催します。メンバーズ VOICE では毎回出席率 100%を目指します。

〇レクリエーション・広報活動

・ 12 月以降、JP 三越マーチャンダイジングで働く三越伊勢丹出向者も含めたレクリエーション企画を立案し実施します。

・ 四半期に一度、営業概況の確認を行う経営懇話会の内容等について広報を作成し発刊します。

〇政治活動

・ サービス・流通全体に関わる取り組みの実現に向け、労働組合が行う政治活動についての理解促進と組織内候補者周知浸透に取り組みます。

【三越伊勢丹プラン・ドゥ・シー直轄分会 ・ 三越伊勢丹トランジット直轄分会】

〇労働福祉活動

・ 出向者より情報収集を随時行うと同時に会社より今後の方向性を確認します。

第６期（2018 年度） 会計予算（案）

１．2018 年度予算の概要と財政面での取組み

労働組合の会計は、利益を追求する企業会計とは異なり、支出を抑えて剰余金を増やすことを目的にしていません。限られた組合費収入を効率的に活用しながら、活動計画に基づいた予算を策定し、その着実な執行を通じて、組合員に対する最大の効果を上げることを目的にしています。これを予算主義の会計と呼んでいます。

2018 年度の会計予算も、これまでと同様に予算主義の会計を前提とし、運動方針を実現するために必要かつ適切な予算設定を行います。

組合会計は、基本的な活動のための一般会計と、目的を限定した２つの特別会計から成り立っています。2018 年度の組合会計全体の収支予算は、募金収入により運営される愛の募金特別会計を除き、収入は約９億 4,400 万円、支出は 10 億 6,700 万円とします。

【組合財政　単年度収支額の推移】　　単位：百万円

	2016 年度		2017 年度		2018 年度	
	予算	実績	予算	実績	予算	前年予算比
収入	1,189	1,226	945	936	944	99.9
支出	1,288	1,229	1,043	978	1,067	102.3
差額	△98	△3	△98	△42	△123	－

※金額は愛の募金特別会計および各会計の繰越金、繰入金、予備費を除いた合計額

※2016 年度は活動期間変更の移行期間に伴い 15 ヶ月間

限られた組合費収入を最大限に活用しながら活動する労働組合にとって、収支均衡は大変重要な課題です。しかしながら、短期的に収支均衡を目指すことが活動水準の低下につながることは避けるべきであると考えます。

よって、労働組合は当面の間、組合費収入のほかに保有資産を活用しつつ活動を維持継続することを前提としていきますが、2018 年度は将来的な収支均衡に向けた取り組みを検討する年度としてきます。

具体的には、「収支計画の策定」「支出面の見直しに繋がる取り組みの推進」「現保有資産の棚卸しと新運用方針策定の検討」などを進めていきます。

２．予算の主なポイント

１）一般会計

＜収入面の主なポイント＞

・組合費収入……ソシエ・ワールド、ニッコウトラベルなどの組合員化の影響を加味

・施設利用料収入…メンバー利用再開に伴い外部貸出利用料収入が前年より減少することを想定

・受取利息……現状の金利環境等を踏まえて前年より減少することを想定

・受取配当金……ＨＤＳ株の配当金等を前年同水準で予算を設定

＜支出面の主なポイント＞

①事業費

・書記局費……全支部でメンバー意識調査を行う費用を予算化

・労働福祉対策費……グループ部会費用、労働時間ハンドブック・ハラスメント等の啓発ポスター作成、被効果者施策費などを予算化

・経営対策費……地域事業会社・海外対応、新規出店や構造改革時の対応費用を予算化

・広報費……年度内２回の本部広報誌発刊や、組合 HP メンテナンス費用等を予算化

・ＵＳＲ活動費……石巻ボランティアや折鶴広島献納などの活動を予算化

・ダイバーシティ推進費…育児・介護サポート百科改定や LGBT セミナー費用開催などを予算化

・組合員教育費……ミドル・シニアライフプラン、海外視察セミナー開催に関わる費用を予算化

・能力開発費……ソシエ・ワールドなど、対象者拡大による申請数増加を想定して予算を設定

・役員教育費……年２回のユニオンセミナーの講師代、組合役員教育派遣などを予算化

・支部活動費……各支部の活動計画に基づき予算を設定

②事務費

・人件費…ソシエ・ワールド支部結成に伴う専従者数増加などの影響を加味して予算を設定

・物件費…会計・精算システムの入替や、サーバーの入替、TV 会議システム導入など、組織全体の効率化や情報等の管理体制強化に繋がる仕組みの導入を行なうための費用を予算化

２）特別会計

①闘争特別会計

・2016 年度に一般会計と資産の入替を実施したため、今後は一般会計への繰入は原則行わず、原則７億円程度の資産規模を維持

②愛の募金特別会計

・収入は、愛の募金の計上および西日本大雨災害の緊急募金実施を加味して予算を設定

・事業費は、盲導犬協会や日本自然保護協会など本部支援団体への寄付、各支部の支援施設への物品寄贈、国内外の災害における日本赤十字への義捐金、救援金寄付などを想定して予算化

2018年度三越伊勢丹グループ労働組合　一般会計

収支予算表（2018年7月1日～2019年6月30日）

（収入の部）　　（単位：円）

款	項	目	18年度予算	前年実績比	前年予算比
1.経常収入			943,000,000	102.2%	101.4%
	1.組合費		854,000,000	103.3%	103.0%
		1.組合員拠出金（本給）	720,000,000	104.2%	103.9%
		2.組合員拠出金（賞与）	134,000,000	98.8%	98.5%
	2.施設利用料収入		9,000,000	76.8%	61.2%
		1.メンバー利用料	4,000,000	－	571.4%
		2.ハワイ現地利用料	5,000,000	42.7%	35.7%
	3.受取利息		39,000,000	90.0%	84.8%
		1.受取利息	38,800,000	89.6%	84.3%
		2.受取利息（外貨）	200,000	－	－
	4. 受取配当金		41,000,000	99.8%	102.5%
		1.ＨＤＳ株受取配当金	38,800,000	100.2%	100.0%
		2.その他受取配当金	2,200,000	93.1%	183.3%
2.臨時収入			1,000,000	7.9%	21.3%
	1.雑収入		1,000,000	7.9%	21.3%
		1.雑収入	1,000,000	7.9%	21.3%
3.前年度繰越金			4,489,673,143	100.1%	100.1%
	1.前年度繰越金		4,489,673,143	100.1%	100.1%
		1.前年度繰越金	4,489,673,143	100.1%	100.1%
合　　計			5,433,673,143	99.4%	99.0%

（支出の部）　　（単位：円）

款	項	目	18年度予算	前年実績比	前年予算比
1.事業費			206,750,000	131.4%	96.6%
	1.本部活動費		32,500,000	167.1%	97.9%
		1.書記局費	5,000,000	343.6%	250.0%
		2.労働福祉対策費	5,500,000	240.8%	100.0%
		3.組織対策費	100,000	4.0%	1.8%
		4.経営対策費	4,000,000	703.9%	266.7%
		5.広報費	8,000,000	120.8%	100.0%
		6.選挙管理費	200,000	589.8%	100.0%
		7.レクリエーション費	200,000	6190.0%	13.3%
		8.ＵＳＲ活動費	7,000,000	128.6%	140.0%
		9.ダイバーシティ推進費	2,500,000	476.3%	62.5%
	2.本部教育費		31,000,000	111.7%	109.9%
		1.組合員教育費	11,000,000	157.4%	122.2%
		2.能力開発費	11,500,000	122.1%	125.0%
		3.役員教育費	8,500,000	74.9%	85.0%
	3.本部渉外費		2,250,000	127.2%	80.4%
		1.応接交際費	250,000	126.6%	31.3%
		2.会費	2,000,000	127.2%	100.0%
	4.本部会議交通費		21,100,000	118.4%	96.3%
		1.本部会議費	2,500,000	132.7%	83.3%
		2.本部会議交通費・旅費	18,600,000	116.7%	98.4%
	5.支部活動費		119,900,000	132.3%	93.7%
		1.三越伊勢丹支部活動費	36,700,000	125.3%	91.5%
		2.北海道統括支部活動費	13,200,000	127.3%	100.0%
		3.仙台三越支部活動費	3,700,000	136.5%	100.0%
		4.新潟三越伊勢丹支部活動費	6,300,000	112.4%	103.3%
		5.静岡伊勢丹支部活動費	1,400,000	95.5%	70.0%
		6.名古屋三越支部活動費	6,700,000	109.4%	77.9%
		7.広島三越支部活動費	1,700,000	193.5%	113.3%
		8.高松三越支部活動費	2,100,000	133.9%	84.0%
		9.松山三越支部活動費	2,500,000	124.8%	83.3%
		10.岩田屋三越支部活動費	8,600,000	200.7%	97.7%
		11.エムアイフードスタイル支部活動費	9,000,000	97.4%	94.7%
		12.エムアイカード支部活動費	5,000,000	136.8%	65.8%
		13.ソシエ・ワールド支部活動費	3,000,000	－	－
		14.関連グループ統括支部Ⅰ活動費	9,100,000	141.2%	103.4%
		15.関連グループ統括支部Ⅱ活動費	7,100,000	173.5%	98.6%
		16.関連グループ統括支部Ⅲ活動費	2,600,000	117.3%	61.9%
		17.関連グループ統括支部Ⅳ活動費	1,200,000	185.5%	109.1%

（単位：円）

款	項	目	18年度予算	前年実績比	前年予算比
2.事務費			539,100,000	109.4%	103.7%
	1.人件費		482,100,000	105.2%	103.3%
		1.給料	290,000,000	107.6%	103.6%
		2.時間外・深夜業手当	50,000	－	100.0%
		3.休日手当	7,500,000	104.0%	83.3%
		4.職務・行動手当	78,000,000	100.6%	101.3%
		5.賞与	58,000,000	103.0%	100.0%
		6.共済会費	50,000	164.4%	100.0%
		7.社会保険料	46,000,000	101.4%	115.0%
		8.福利厚生費	2,500,000	107.7%	100.0%
	2.物件費		57,000,000	164.6%	106.5%
		1.通信費	5,500,000	177.2%	157.1%
		2.消耗品費	3,500,000	139.5%	116.7%
		3.リース料	6,000,000	103.3%	100.0%
		4.建物及び建物付属設備購入費	1,000,000	494.4%	7.7%
		5.什器備品購入費	14,000,000	3728.2%	466.7%
		6.水道光熱費	250,000	99.9%	100.0%
		7.印刷費	10,000,000	107.8%	100.0%
		8.図書新聞費	3,000,000	108.8%	100.0%
		9.ネットワークシステム関連費	5,000,000	208.3%	142.9%
		10.修繕・営繕費	500,000	57.3%	100.0%
		11.契約料	6,000,000	103.4%	100.0%
		12.支払手数料	50,000	104.2%	50.0%
		13.振込手数料	2,000,000	－	－
		14.租税公課	100,000	124.0%	66.7%
		15.雑費	100,000	8.8%	6.7%
3.リゾート施設関連費			17,150,000	60.0%	103.3%
	1.国内リゾート施設関連費		150,000	102.7%	150.0%
		1.国内施設関連費	150,000	102.7%	150.0%
	2.海外リゾート施設関連費		17,000,000	59.7%	103.0%
		1.海外施設関連費	17,000,000	59.7%	103.0%
4.上部団体費			122,000,000	96.0%	95.3%
	1.ＵＡゼンセン拠出金		122,000,000	96.0%	95.3%
		1.ＵＡゼンセン拠出金	122,000,000	96.0%	95.3%
5.共済会費			182,000,000	112.3%	113.8%
	1.共済会供出金		88,000,000	110.5%	110.0%
		1.共済会拠出金	88,000,000	110.5%	110.0%
	2.医療共済補助金		94,000,000	114.0%	117.5%
		1.医療共済補助金	94,000,000	114.0%	117.5%
6.予備費			4,366,673,143	－	－
	1.予備費		4,366,673,143	－	－
		1.予備費	4,366,673,143	－	－
合　　計			5,433,673,143	99.4%	99.0%

2018年度三越伊勢丹グループ労働組合　闘争特別会計

収支予算表（2018年7月1日～2019年6月30日）

（収入の部）　（単位：円）

款	項	目	18年度予算	前年実績比	前年予算比
1.経常収入			210,000	85.9%	70.0%
	1.受取利息		210,000	85.9%	70.0%
		1.受取利息	210,000	85.9%	70.0%
2.前年度繰越金			720,260,219	100.0%	100.0%
	1.前年度繰越金		720,260,219	100.0%	100.0%
		1.前年度繰越金	720,260,219	100.0%	100.0%
合　　計			720,470,219	100.0%	100.0%

（支出の部）

款	項	目	18年度予算	前年実績比	前年予算比
1.事業費			10,000	319.3%	100.0%
	1.雑費		10,000	319.3%	100.0%
		1.雑費	10,000	319.3%	100.0%
2.予備費			720,460,219	－	－
	1.予備費		720,460,219	－	－
		1.予備費	720,460,219	－	－
合　　計			720,470,219	100.0%	100.0%

2018年度三越伊勢丹グループ労働組合　愛の募金特別会計

収支予算表（2018年7月1日～2019年6月30日）

（収入の部）　（単位：円）

款	項	目	18年度予算	前年実績比	前年予算比
1.経常収入			4,010,000	130.8%	117.6%
	1.愛の募金収入		4,000,000	130.5%	117.6%
		1.愛の募金収入	4,000,000	130.5%	117.6%
	3.受取利息		10,000	14705.9%	100.0%
		1.受取利息	10,000	14705.9%	100.0%
2.前年度繰越金			5,148,665	89.1%	89.1%
	1.前年度繰越金		5,148,665	89.1%	89.1%
		1.前年度繰越金	5,148,665	89.1%	89.1%
合　　計			9,158,665	103.6%	99.7%

（支出の部）

款	項	目	18年度予算	前年実績比	前年予算比
1.事業費			4,260,000	115.3%	121.4%
	1.事業費		4,250,000	115.1%	121.4%
		1.支援団体寄贈	1,150,000	31.1%	32.9%
		2.その他事業費	3,100,000	－	－
	2.雑費		10,000	370.4%	100.0%
		1.雑費	10,000	370.4%	100.0%
2.予備費			4,898,665	－	－
	1.予備費		4,898,665	－	－
		1.予備費	4,898,665	－	－
合　　計			9,158,665	103.6%	99.7%

三越伊勢丹グループ労働組合
基本理念

IMGU

Isetan Mitsukoshi Group
Labor Union

目的
わたしたちの幸せを創造し続けること

3つの使命
- 安心して働くための雇用の確保と労働条件の維持向上
- 企業の永続的な発展にむけたチェックとサポート
- かけがえのない豊かな環境と安心して暮らせる社会の実現

5つの大切にしたい考え方
- 民主的な合意形成を行ない、全員で責任をもち実践する
- 先進的なビジョンと広い視野をもち、常に挑戦し続ける
- すべての働く仲間と連帯し、一人ひとりが持つ多様性を全体の力にする
- 対等な労使関係を維持し、誠意ある対話による創造的な結論をめざす
- 高い倫理観を持つとともに、よりよい未来のための社会的責務を果たす

三越伊勢丹グループ労働組合